福岡県バドミントン協会七十年史

FUKUOKA
BADMINTON
ASSOCIATION



福岡県バドミントン協会

Since 1948.1.20

-------- 目　次 --------

ごあいさつ

福岡県バドミントン協会　名誉会長　　本田 正寛

福岡県バドミントン協会　会長　　浦山　茂

祝辞

公益財団法人 日本バドミントン協会　専務理事　　銭谷 欽治

歴代役員紹介

記念レポート

福岡県バドミントン協会　副会長　　横溝 安伸

加盟団体紹介

個人からの寄稿

参考資料

福岡県バドミントン協会

FUKUOKA BADMINTON ASSOCIATION

FBA

1948

創立70周年記念

ごあいさつ



福岡県バドミントン協会
名誉会長　本田 正寛

福岡県バドミントン協会は、昭和23年1月20日に創立され平成30年1月20日に創立70周年を迎えました。これもひとえに皆様方関係者に支えられたおかげであり、感謝申し上げるとともに嬉しく思う次第であります。

本協会は、公益財団法人日本バドミントン協会の創立から遅れること1年2か月、全国の都道府県協会では6番目の創立でした。当時は、まだまだ戦後の混沌とした時代でしたが、福岡にもバドミントンを普及したいとの強い志を持たれた先人が尽力されたおかげだと思います。

創立50周年までは、県内の普及活動に始まり、平成2年の「とびうめ国体」までが普及・強化の一つの目標となりました。その後も、それまでの成果もあり、また、指導者や競技役員の更なるご尽力により、各ステージにおいて本県選手が素晴らしい成績を上げておられますし、本県において大規模な全国大会も積極的に開催できています。

私は、4代目会長として平成18年度から9年間（平成27年からは名誉会長）務めさせていただきました。多くの良き思い出を残すことができ嬉しく思っています。

今後も本県協会が皆様方のご尽力を賜り、様々な分野で全国をリードする協会として発展していくことを期待しています。

ごあいさつ



福岡県バドミントン協会
会　長　浦山　茂

福岡県バドミントン協会は、平成30年1月20日をもって創立70周年を迎えました。この節目の年に、会長の任を務めさせていただくことをとても嬉しく思っています。これまで携わって来られた多くの諸先輩方には深く感謝申し上げます。

本協会は、現在、加盟団体31団体（24郡市協会、7連盟）、会員登録数7,704名（28年度末現在）を有する団体となりました。少子化の社会現象はありますが、本協会の会員数は、ありがたいことに増加しつつあります。

本県の選手の活躍は、ジュニアからシニアまで、どの年代においても目を見張るものがあります。これまで、各分野で数多くの日本チャンピオンを輩出してきましたし、最も関心が高いオリンピックにおいても、アテネ大会からリオデジャネイロ大会まで4大会連続で本県ゆかりの選手が出場され活躍されました。特に今年度（平成29年度）は、若葉カップ全国小学生大会、全国小学生ABC大会、全国小学生大会、全国高専大会、全国高校定時制通信制、全日本レディース大会、全日本教職員大会、日本スポーツマスターズ、全日本シニア大会において優勝者が誕生し、福岡県のバドミントンの実力を全国に示してくれました。

本協会は、大会運営においても安定した能力を維持できていることから、日本バドミントン協会から開催困難な第1種大会の開催を依頼されることが多々あり、頼りにされる存在となっています。

周年事業としては、平成9年の創立50周年記念事業以来20年振りとなりますが、今年度は、創立70周年記念行事を行うことといたしました。国体予選会、社会人大会、総合大会の3大会を記念大会として実施し、出場者、大会役員に記念品を配付し、福岡県のバドミントンが更に普及、振興するように啓発を行っています。また、記念誌を作成し創立50周年以降20年間の思い出を残したいと思います。

70周年は、一つの通過点であります。関係者の皆様方々に、ご協力をいただきまして、更に本県協会の発展に尽力したいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

祝　辞



公益財団法人 日本バドミントン協会
専務理事　　銭谷 欽治

日頃から公益財団法人　日本バドミントン協会運営・活動への格別なご理解ご支援を賜り心より感謝申し上げます。

この度は福岡県バドミントン協会が創立70周年を迎えられました事に対しまして先ずもって心よりお慶びを申し上げます。

今日まで70年間に渡り協会組織づくり運営・活動を支えながら発展にご尽力頂きました先人の皆様と関係各位に対しましても心よりお慶びと感謝を重ねて申し上げます。

福岡県はアテネオリンピックからリオデジャネイロオリンピックまで4大会連続で素晴らしい日本代表選手を輩出し全国でもトップレベルの県として日本バドミントン協会にも多大な貢献を頂いてます。

2020東京オリンピック・パラリンピックを目前に控え佐竹理事長（日本協会理事・総務本部長）にもご尽力頂きながら選手強化は勿論の事、組織改革・強化に取り組んでいるところです。

次世代に素晴らしい日本バドミントン界を引き継ぎメジャースポーツとなる事を目指しながら福岡県協会の皆様と共に邁進したいと思ってます。

最後に今後益々のご発展を祈念致しまして日本協会を代表してのお祝いの言葉とさせて頂きます。

歴　代　会　長

〈初　代〉

西園　富吉(1948～1962:15年間)



〈第２代〉

森　　俊雄(1963～1968:6年間)



〈第３代〉

四島　　司(1969～2005:37年間)



〈第４代〉

本田　正寛(2006～2014:9年間)



〈第５代〉

浦山　　茂(2015～現在)



歴 代 理 事 長

〈初　代〉

野村　義門(1948～1948:1年間)

〈第２代〉

渡辺　盛一(1949～1953:6年間)

〈第３代〉

中村　高治(1954～1954:1年間)

〈第４代〉

松延　陽一(1955～1956:2年間)



〈第５代〉

和田　　寿(1957～1976:20年間)



〈第６代〉

辰市　祐昭(1977～1984:8年間)



〈第７代〉

後藤　　研(1985～1990:6年間)



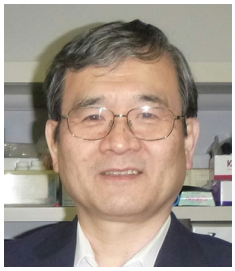
〈第８代〉

横溝　安伸(1991～2006:15年間)



〈第９代〉

佐竹　養一(2007～現在)



記念レポート

福岡県バドミントン協会
副会長　横溝　安伸



1948年1月20日に設立された福岡県バドミントン協会は2018年1月20日に設立70周年を迎えます。その輝かしい歴史に関われたことに深く感謝申し上げます。

1997年に本協会設立50周年記念事業として、50年史が藤本俊史編集委員長の元、編集発刊されました。それから早、20年の歳月が流れました。

1997年の協会登録人口が約3000名でありましたが、2016年にはその数が約7700名と2.6倍に増加しました。これもひとえに各市郡協会、各団体・チームの日常的な活動の賜物と深く感謝申し上げます。少子化の今日、(公財)福岡県体育協会加盟の競技団体中、登録人口が増加している競技団体はごく僅かです。バドミントンの魅力が認知されてきた結果と考えます。そこにはオグシオ(小椋久美子・潮田玲子)、イケシオ(池田信太郎・潮田玲子)人気がブームを起こした要因と考えられます。

私は50年史に「福岡県バドミントン協会の未来像」に「今後、更なる競技力の向上を目指し、オリンピック選手を送り出したい」と寄稿いたしております。

2004年のアテネオリンピックに、森かおり選手(九州国際大学付属高校卒)と吉富桂子選手(精華女子高校卒)、2008年北京オリンピック・2012年ロンドンオリンピックに、池田信太郎選手(九州国際大学付属高校卒)・潮田玲子選手(九州国際大学付属高校卒)、2016年リオデジャネイロオリンピックに栗原文音選手(九州国際大学付属高校卒)の5名のオリンピック選手を輩出いたしました。各選手は地元県内でのジュニア期からの厳しい指導を受けこの結果を生み出しました。本人の努力はもとより、その指導に当たられた指導者に敬意を示すと同時に、その指導力が世界に通ずることを証明したものでした。そこには本協会強化委員会の取り組みも忘れてはなりません。

2001年(平成13年)には組織の改編と規程の改正に取り組みました。加盟団体を各チームから市郡協会とし、登録窓口をその市郡協会としました。そのための登録事務をパソコン入力としたのですが、そのシステムおよびソフトのプログラミングはすべて辰市祐昭副会長(当時)が作成していただき、その周知徹底のための市郡協会事務担当者の講習会を、当時私が勤務いたしておりました県立筑前高校のパソコン教室をお借りして、辰市副会長の指導で実施しました。こうして今日の本協会の組織が新たに誕生しました。このために規程の改正が必要になり、日バの規程などを参考にしながら2002年(平成14年)1月1日施行の規程ができました。

2007年(平成19年)に第3代四島司会長から「高齢のため勇退したい」旨のご意向を受け、早速辰市顧問(当時)と四島会長を訪問し、次期会長の推薦をお願いしました。四島会長はすぐさま西日本シティ銀行会長の本田正寛氏が良かろうと推薦していただき、本田氏に第4代会長を引き受けていただきました。2020年のオリンピック福岡招致に関しては、本田会長に同行させていただき、東京の岸記念体育会館内にある日本バドミントン協会の事務局を訪問し、関根義雄専務理事(当時)と面会していただき、福岡市への招致協力をお願いしていただきました。本田会長には、その他さまざまな事業に出会していただき感謝申し上げます。

2014年には本田会長が西日本シティ銀行のご退職に伴い、本協会会長を勇退したい旨の意向が伝えられ、西日本シティ銀行取締役専務の浦山茂氏をご推薦いただき、浦山氏の第5代会長就任を引き受けていただき、今日2期目を務めていただいております。

北九州市バドミントン協会

1963年設立



会　長　：　自見　庄三郎
理事長　：　門司　政廣
事務局　：　服部秀喜
住　所　：　北九州市八幡西区茶屋の原4-2-11

主な大会
クラス別大会ダブルス・シングルス
年齢別大会ダブルス・シングルス
C・D級大会
学年別大会(小・中・高校生)ダブルス・シングルス
市民体育祭
市民体育祭春季レディース大会
小・中学生ダブルス大会
小・中学生シングルス大会

協会創立
1963年(昭和38年)北九州市誕生と同時に、北九州市バドミントン協会も発足。

加盟
1963年(昭和38年)

歴代役員
会長
近藤　一雄　1963年(昭和38年)
岡崎　春雄　1964年～1973年
(昭和39年～48年)
萩原　　弘　1974年～1980年
(昭和49年～55年)
小森　哲郎　1981年～1994年
(昭和56年～平成6年)
柴田　一郎　1995年～1997年
(平成7年～平成9年)
池田　　弘　1998年～2000年
(平成10年～平成12年)
自見　庄三郎　2001年～現在
(平成13年～現在)
副会長
浴田　薫　1974年～1980年
(昭和49年～昭和55年)
三沢　英二　1995年～1998年
(平成7年～平成10年)
竹内　久雄　1995年～2004年
(平成7年～平成16年)
渕上英紀　2003年～2015年
(平成15年～平成27年)
村尾　隆　2005年～2014年
(平成17年～平成26年)
日野雄二　2010年～現在
(平成22年～現在)
内田紅美子2015年～現在
(平成27年～現在)
理事長
箱崎　正夫　1963年～1973年
(昭和38年～48年)
三沢英二　　1974年～1994年
(昭和49年～平成6年)
渕上　英紀　1995年～2002年
(平成7年～平成14年)
村尾　隆　　2003年～2004年
(平成15年～平成16年)
門司　政廣　2005年～現在
(平成17年～現在)
事務局長
箱崎　正夫　1963年～1967年
(昭和38年～昭和42年)
渕上　英紀　1968年～1975年
(昭和43年～昭和50年)
原　穂美　1976年～1978年
(昭和51年～昭和53年)
渕上英紀　1979年～1991年
(昭和54年～平成4年)
庄野重信　1992年～1993年
(平成5年～平成6年)
服部秀喜　1994年～現在
(平成6年～現在)

協会発足後の主な事業（とびうめ国体以降）

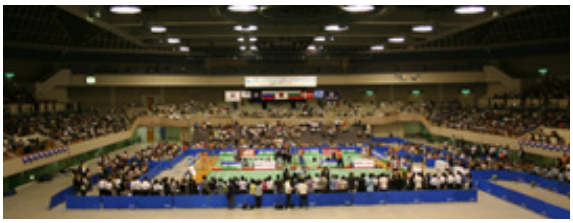
1990年（平成2年）福岡県で二回目の国体が開催される。

1994年（平成6年）には、市制30周年記念行事として政令指定都市では初めて第7回全国スポーツレ区レーション祭年齢別バドミントン競技を新設された若松体育館で実施した。

2001年（平成13年）には全日本教職員バドミントン大会の開催を契機に総合体育館第一競技場のコート数を12面から16面に増設をする。このことにより大規模な大会の誘致が可能になった。



1979年（昭和54年）日本リーグが開始される。
1997年（平成9年）に北九州市で初めて開幕戦を実施する。



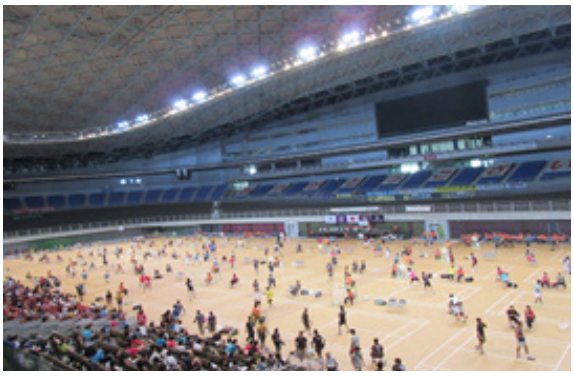
1999年（平成11年）には北九州大会、2002年（平成14年）2009年（平成21年）にも開幕戦を行った。



1995年（平成7年）には第42回全九州総合バドミントン選手権大会（北九州市立若松体育館）に混合ダブルスで吉武祐史・田村富士美組が優勝した。

2010年（平成22年）にも若松体育館、的場池体育館の二会場を使って行われた。

2010年（平成22年）にはドリームマッチを行う。ヨネックスオープンジャパン終了後、上位入賞者を招いてエキビジョンゲームを行い多数の観客を魅了した。2015年（平成27年）には第58回全日本社会人バドミントン選手権大会を北九州市総合体育館、メディアドームの二会場を使って開催した。大会史上初めて全会場に空調を使用する。



第58回全日本社会人バドミントン選手権大会

レディースでは、全日本レディースバドミントン選手権大会において県勢の活躍が目覚ましく、都道府県対抗戦では

2005年（平成17年）2位　2013年（平成25年）優勝
2009年（平成21年）優勝　2014年（平成26年）2位
2010年（平成22年）　3位　2015年（平成27年）優勝
2011年（平成23年）優勝　2016年（平成28年）2位
2012年（平成24年）優勝　2017年（平成29年）優勝

特に2011年、2012年、2013年の3連覇では本市より参加の松山裕子、入沢智美、松田美穂、堂山貴美子、中森良子、白石久美子の各選手が参加し活躍をした。

クラブ対抗部門では本市よりシャトルフレンズが参加をしている。シャトルフレンズは2005年（平成17年）大会ではクラブ対抗部門で第三位に入賞した。

学生では、
西日本学生バドミントン選手権大会
日本歯科学生バドミントン選手権大会
全国教育大系バドミントン選手権大会
中国・四国・九州大学バドミントン選手権大会
九州学生バドミントン選手権大会
クイーンズサーキット、
九州中学生バドミントン大会
などの大会を開催した。

高校生では、
2008年（平成20年）大分国体で少年男子が優勝、原田和憲（自由ケ丘高校）がチームの一員として活躍した。女子では九州国際大学付属高校が全国高等学校総合体育大会で1998年～99年（平成11年～12年）に団体優勝、2011年（平成23年）には選抜大会で団体優勝を

果たした。2013年（平成25年）行われた第41回全国高等学校選抜バドミントン大会では女子団体戦で九州国際大学付属高校が3位、男子シングルスでは馬場湧生（九州国際大学付属高校）が準優勝、男子ダブルスでは原口拓巳・成富勇太組（自由ヶ丘高校）が三位に入賞した。

同年夏には北九州市立総合体育館とメディアドームを会場として第64回全国高等学校バドミントン選手権大会が市内高等学校バドミントン部生徒の協力のもと行われた。男子団体戦自由ヶ丘高校が三位に、男子個人戦ではダブルスで原口拓巳・成富勇太組（自由ヶ丘高校）が三位に入賞した。

女子は桜本絢子（九州国際大学付属高校）シングルスで準優勝、桜本絢子・寺田桃香（九州国際大学付属高校）がダブルスで準優勝を果たした。

第68回国民体育大会では成富勇太、原口拓巳（自由ヶ丘高校）馬場湧生（九州国際大学付属高校）で編制された福岡県少年男子チームが大分国体以来の三位入賞を果たした。

全日本高等専門学校バドミントン選手権大会では1999年（平成11年）～2008年(平成20年)の10年間に北九州工業高等専門学校バドミントン部が男子団体戦で10連覇を達成した。

国際交流では、

2006年（平成18年）より韓国光州市との交流が始まり現在までに11回の回数を重ねている。

中学生、高校生では2009年（平成21年）には日韓高校生の交流が、2012年（平成24年）には九州国際大学において日韓両国の中学生ジュニアナショナルチームの対抗戦を行った。



日韓ジュニアバドミントン競技大会
（九国大付属高校体育館）

小学生関係では、2002年（平成4年）に第11回全国小学生バドミントン選手権大会を開催した。

男子団体戦では優勝を、女子団体戦は第三位入賞を果たしている。2015年（平成27年）男子団体戦・女子団体戦で共に第三位に入賞している。

北九州市はジュニア育成、強化にも力を入れ、小・中学生のシングルス、ダブルスの大会を行いそれぞれ22回と19回を数えるに至っている。この大会を通して活躍をした小倉南区出身の森かおりは九州国際大学付属高校に進学、国体では少年女子で優勝を果たしている。その後、実業団の三洋電機でもチームの主力として活躍、2001年（平成13年）には日本人としては14年ぶりにヨネックスオープンジャパンで第三位に入賞した。また、全日本総合選手権では女子シングルスで2003年にも二度目の優勝を果たしている。2004年（平成16年）アテネオリンピックに本市出身のバドミントン選手として初めて出場を果たしベスト16に進出した。

また、北京オリンピックでは九州国際大学付属高校出身の池田信太郎、潮田玲子が出場し、特に、潮田はオグシオコンビとして女子ダブルスでベスト8に進出をした。また次のロンドンオリンピックでは混合ダブルスではイケシオのコンビ名で活躍をした。



昨年のリオデジャネイロ五輪では本市出身の栗原文音（中央中→九州国際大学付属高校）が混合ダブルスでベスト8に入賞した。



北九州市制50周年記念日本スポーツマスターズ北九州大会が北九州市立的場池体育館にて開催された。韓国チームを迎え、全国から男子27都府県、女子26都府県福岡県から2チーム、総計391名の選手監督

が参加した。大会は予選リーグ、決勝トーナメント形式で行われ、地元福岡県チームは女子Aチームが優勝、Bチームが第三位に入賞した。Aチームには本市から宮瀬聡美、松山裕子、堂山貴美子が、Bチームには田村富士美、中森良子、入沢智美が参加し活躍をした。男子チームではAチームでは、宮崎賢一、中森茂雄、城戸孝夫がBチームには堂山武、勝部龍平、古田謙二伊藤博史、波多野勝哉がそれぞれ参加したが予選リーグ突破はならなかった。



大会初日には大会名誉総裁の高円宮久子殿下の御来館を仰ぎ大会も大いに盛り上がることができた。







協会の主な年間行事

各スポーツ施設で行われるバドミントン教室などが行われている。また、関門海峡をはさんだ山口県下関市との交流も平成20年より始まり今年で10年目を迎える。

指導者

市内の実業団チームは昭和40年代後半から北九州市役所、三菱化成、安川電機、国鉄小倉工場などがあった。しかし現在では北九州市役所、新日鉄住金、TOTOなどのチームが見られる。

指導者では、協会創立時の指導者の高齢化が進み、世代交代が求められるこの頃であるが、競技人口の高齢化により、次世代を担う指導者の不足が見られる。特に中学校では部活動を指導する教員の不足が目立っている。また、競技大会の運営をスムーズに行えるように審判員の養成も毎年の検定会を実施している。

今後の目標

この20数年間、協会主催の大会は飛躍的に回数を増やしている。それに伴い参加者も急増している、しかし北九州市が抱える高齢化という社会現象を表し参加者にも変化が見られる。競技人口は協会登録者約4000名をはるかに超えるものと考えられるが大会参加には結びつかないのが現状である。生涯スポーツとして最適なバドミントンの普及、発展、市民の健康増進と市の活性化のためには、大会の開催にあたり工夫が必要となってきている。

福岡市バドミントン協会

1970年設立

会　長　：　佐々木　徹
理事長　：　緒方　蓉子
事務局　：　原田　孝敏
住　所　：　福岡市東区箱崎5-4-11-812



【設立年月日】
1970(昭45)年4月

【歴代会長】
初代　四島　司 1970(昭45)年～1984(昭59)年
2代　辰市祐昭 1985(昭60)年～2001(平13)年
3代　下村　武 2001(平13)年～2007(平19)年
4代　佐々木徹 2007(平19)年～現在)
【歴代副会長】
初代　真崎寿昭 2005(平17)年～2009(平21)年
2代　秋山晴一 2007(平19)年～現在
3代　佐竹養一 2009(平21)年～現在
4代　古川英昭 2009(平21)年～現在
【歴代理事長】
初代　後藤　研 1970(昭45)年～1973(昭48)年
2代　増田靖文 1973(昭48)年～1975(昭50)年
3代　木下一郎 1975(昭50)年～1977(昭52)年
4代　伊藤篤治 1977(昭52)年～1979(昭54)年
5代　増田靖文 1979(昭54)年～1981(昭56)年
6代　市川之善 1981(昭56)年～1983(昭58)年
7代　副島　力 1983(昭58)年～1987(昭62)年
8代　市川之善 1987(昭62)年～2009(平 9)年
9代　緒方蓉子 1997(平　9)年～現　在)



【福岡市バドミントン協会の沿革】

福岡市バドミントン協会の母体である福岡県バドミントン協会福岡支部は、1949年(昭24)4月に小倉支部・久留米支部とともに福岡県バドミントン協会の支部として設立された。

バドミントン競技は戦後新興のスポーツであるため、いまだ一般市民の認識も低く、バドミントン活動の主体はごく一部の実業団や大学に限られていた。このような社会環境であつたが、協会関係者はバドミントンの普及発展のために尽力し、1957年(昭32)には市民大会、社会人大会及び実業団大会を開催するまでに至っている。

1960年(昭35)4月1日に、福岡県バドミントン協会福岡支部規約が制定され、支部を福岡地区バドミントン協会と称することになり、この1年後には福岡地区総合バドミントン選手権大会の開催、またその翌年の1962年(昭37)4月に福岡市体育協会に福岡地区バドミントン協会として加盟している。

そして1970年(昭45)4月1日、福岡地区バドミントン協会の下部組織として福岡市バドミントン協会は規約の制定とともに、発足したのである。

初代会長が四島司、初代理事長が後藤研でスタートした福岡市バドミントン協会であったが、その福岡市バドミントン協会が関わった最初の大事業が日中バドミントン大会福岡大会であった。1973年(昭48)9月に福岡市民体育館で行われたのであるが、日中国交の正常化が行われて間もない時でもあり、県警とも連絡を取り警備その他において多いに神経を使ったという。

1955(昭30)～1965(昭40)年代に小学校の体育館を利用してのバドミントン教室が行われたり、また加えて公共の体育館が出来始めたのが福岡市が政令指定都市になった1972年(昭47)頃からで、福岡市民体育館1972年(昭47)、ももちパレス1973年(昭48)をはじめ福岡市下各5区に随時体育館が建設されていき、一気に競技人口が膨れ上がり、それまで大学、官公庁、実業団主導型であったバドミントンがそのような公共の体育館や公民館サークルとして小学校の体育館を利用する一般社会人や家庭婦人の多数参加型バドミントンに移行していく事になったのである。

福岡市バドミントン協会に1975年(昭50)に協会事業の運営の円滑化を図ることを目的に5専門委員会を設

けこのような環境の変化とバドミントンがとりわけはじめての人にも馴染みやすいスポーツであることもあって、バドミントン人口が年々増加していった。

とびうめ国体前後からこれまで福岡市において大規模大会が開催されている。1987年（昭62）の第9回日本リーグ福岡大会、1991年（平3）の第13回日本リーグ福岡大会、1994年（平6）の第44回全日本実業団バドミントン選手権大会、1995年（平7年）の第41回全九州社会人バドミントン選手権大会、1997年（平9）の第14回全日本シニアバドミントン選手権大会、1999年（平11）の第33回全国ろうあ者バドミントン大会、2008年（平20）第8回全日本中学生大会である。いずれも福岡市バドミントン協会主催事業ではないが、しかしながら開催地が福岡市ということで福岡市バドミントン協会が主体的に要の役割を果たしてきた。

2010年（平22）11月に福岡県で行われた第27回全日本シニアバドミントン選手権大会の30歳代の部男女の試合を福岡市民体育館で開催し福岡市バドミントン協会が主管し、参加者延べ700名近い選手の運営を円滑に終わる事が出来た。

また福岡市バドミントン協会主催事業として、国際交流においても釜山広域市金井区バドミントン協会との交歓会も2016年（平28）5月で第14回を迎える事が出来、公益財団法人福岡市スポーツ協会事業の日韓中・高校生スポーツ交流バドミントン競技も釜山へ2016年（平28）8月に役員4名、選手16名を派遣している。

【　現在の活動　】

1997年（平9）、初の女性理事長として緒方蓉子が就任。協会を構成する総務委員会・競技審判委員会・指導委員会の3専門委員会にて運営されています。

2007年（平19年）に第4代佐々木徹会長が就任し、現在に至っている。尚、当協会の規模拡大に伴って佐々木会長を補佐する為、2009年（平21）より副会長を3人体制にすると共に、理事長を補佐する為副理事長の役職を新たに設けた。

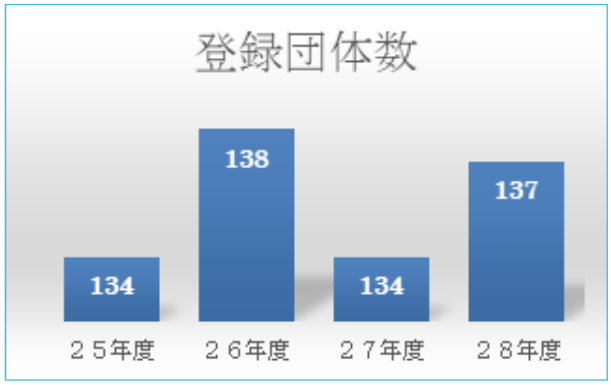
福岡市バドミントン協会理事長緒方蓉子が協会の現状と展望を次のように語る。

「福岡市バドミントン協会は福岡市のバドミントンを振興し、その健全な普及・発展並びに会員相互の親睦を図ることを目的として活動を行っています。福岡市バドミントン協会は辰市祐昭名誉会長をはじめ諸先輩方の普及・振興による多大な貢献により、2010年（平22）10月に盛大に創立40周年を迎え、ジュニア層からシニア層迄の会員の皆様からコメントを頂いた40周年記念誌も発行しています。福岡市バドミントン協会は職域、地域、クラブ、大学、高校、中学校、ジュニアなどの2017年（平29）3月現在137団体が加盟し、3000余名が個人登録し、当協会役員、理事、各専門委員会の活動で各種大会、指導者、審判員の育成、各種教室で組織もかなり充実してきました。2010年（平22）から新日本製薬株式会社さんから当協会にサポートのご依頼が有り、ジュニア強化費・審判員育成費等に有効活用させて頂き、より一層レベルを高めて、今後は福岡市内に留まらずに国際的視野を持って、当協会の更なる発展に力を尽くす所存です。今後とも皆様のご支援と、ご助力の程宜しくお願い致します。」



【本協会主催の事業　大会・教室】

福岡市民春季バドミントン大会をはじめ年間17大会、講習会・研修会、親子バドミントン教室、釜山広域市金井区バドミントン協会との国際交流事業等また外部からの依頼事業の福岡県社会人バドミントン選手権大会・福岡障がい者バドミントン大会等を運営している。









飯塚・嘉麻バドミントン協会

1963年設立

会　長 ： 平野　清太
理事長 ： 川原　幸二
事務局 ： 渡辺　憲太郎
住　所 ： 飯塚市上三緒177-49



協会設立70周年記念に寄せて
飯塚・嘉麻バドミントン協会の歩み

協会会長　平野清太

私がここ飯塚の地に来たのは、1981年の4月でした。筑豊のシンボルと言われた住友忠隈炭鉱のボタ山にまだ木が生えることなく山の稜線がまだはっきりしていたを覚えています。

文献によると1951年に福岡県4番目の協会として飯塚市協会が誕生したことはわかっているのですが、そのころの状況についてははっきりしたことが分かっていません。

私の周りの先輩方に聞いてみると、1973年ころでは頴田の体育館において土居さんをはじめとして明星、大塚さん、嘉穂町の石井さんなどが練習をしてあり、そこに直方市の浜司、村上さん、飯塚市の馬場さんが参加されていたそうです。

その以前からは穂波で石坂さん、筑穂町で緒方さんなどが活躍されていたそうです。その後頴田体育館で練習されてた石井さんが嘉穂町で、続いて稲築町で森田、白石、伊藤さん飯塚市では安永、宝部、田原、馬場さんが各々クラブを作り練習をされてたと聞いています。その頃がこの地域におけるバドミントンの創成期だと考えます。

その後、飯塚市協会、嘉穂協会、山田協会が設立されました。1977年から嘉飯山大会が開催され、1991年にはこの地域のバドミントンの技術向上を目指して、嘉穂オープン大会が開催されるなど選手層の増加が進みました。その頃より県社会人大会や実業団への参加も積極的に進み、県民体育大会の2度の優勝や個人において県社会人大会年代別優勝するといった成果も出てきました。

2008年地域行政区の合併により、本協会も2009年から飯塚・嘉麻バドミントン協会が発足し、高橋会長が新しく選出されました。その後2013年より私が会長に選出され今日にいたっています。

最近では、全九州バドミントン選手権大会や全国シニアバドミントン選手権大会への参加もあり選手層の増加も進んでいます。またジュニアクラブの創設や総合型クラブの創部も進んでいます。今後もバドミントンの普及や技術力の向上が進むことを願っています。

大牟田市バドミントン協会



1972年設立

会　長　：　小宮　孝吉
理事長　：　川野　雅人
事務局　：　入江　睦雄
住　所　：　大牟田市新勝立町4-17-2

歴代会長名

堀　円治	昭和47年～昭和53年
平木　武美	昭和54年～平成15年
西山　博幸	平成16年～平成20年
小宮　孝吉	平成21年～現在



当協会は、1972年3月20日に発足し45年が経ちました。当時の日本バドミントンは、女子は世界一だったと記憶しています。

発足の起因になったのは、昭和45～46年ごろ大牟田北高等学校・不知火女子高（現在の誠修高校）OG・三井東圧化学・三井鉱山三池工業所の皆さんの熱意により協会結成の機運が高まり、2回の市内大会を経て大牟田バドミントン協会が誕生しました。

当時大牟田では、社会人団体は先ほどのべた三井東圧化学・三井鉱山三池工業所の2団体、学校関係で大牟田北高等学校・明光学園・三池高校定時しか活動していませんでした。

協会発足前には、大牟田北高・不知火女子高（協会発足前に廃部となる）からインターハイ・国体に何度か出場されたと聞き及んでいます。

協会が発足して最初の行事が『第1回大牟田バドミントン大会』を3月26日に協会結成記念大会としての開催でした。会場は大牟田北高体育館　参加者　延174名の参加で盛況でした。大会の参加者に市外の小学生が8名出場していました。この時すでにジュニア育成を行っていた方がおられたのです。この小学生中の数名もまた、現在教師としてジュニア育成に関わっています。後に、この大会は年に2回開催することになり大牟田及び近隣地区バドミントンの普及・発展に大きく貢献したものと思われます。

平成29年度

・入江睦雄氏（三井化学）副会長就任・川野雅人（スマイル）理事長就任　4月

・JOCジュニアオリンピックカップ第36回全日本ジュニア選手権大会福岡県予選会にて女子単で優勝し、桑野玲奈（橘中2年）が全国大会（群馬県）出場決定。

今後の課題と展望



競技としてバドミントンは「ひらめきのスポーツ」・「神経の空中戦」等といわれ、ラリー中は、繊細な神経・敏捷性・柔軟性・一瞬の閃きそれに強靭な筋力とそれを維持するスタミナ、それらを支配する旺盛な精神が要求される厳しい中にもマナーも重視される近代スポーツである。戦後急速に普及したスポーツであるが故に普及及び発展には様々な解決すべき課題を抱えています。

本協会も発足以来普及・レベルアップし何人かの優秀な選手が育ちました。しかしながら卒業後市外・県外へ流出してしまいます。彼らの地元就職・定着の問題は他の競技でも同様な悩みを抱えていると思います。

特に、大牟田市は人口減少が続いており自分たちの力ではどうにもできない問題も有ります。

発足当時は、バドミントンの地元普及に力を入れ「底辺拡大」を目標に各地で講習会を開きました。現在でも社会人向け・小学生向けの講習会は毎年行っています。

今後、本協会は大牟田市が掲げている「スポーツ都市宣言」に恥じぬよう大牟田市民にバドミントンが愛され、市民に親しまれるスポーツとして定着し、益々発展してゆくよう関係者各位と協会員の連携を取り合い近隣市協会と協力しながら努力してゆく所存です。

（巻末資料あり）





久留米市バドミントン協会



会　長　：　荒井　誠一
理事長　：　小形　公一
事務局　：　勝本　幸子
住　所　：　久留米市安武町安武本597-3

〈団体の沿革〉

久留米市バドミントン協会は事務所を久留米市に置き、久留米市に所在または居住する学校、各種団体または個人のバドミントン愛好者によって組織されている。



〈会員の登録状況〉

・平成29年度登録団体数は34団体（内訳：社会人　20、大学・高校　14チーム）

〈組織〉

・久留米市バドミントン協会は会長及び理事長、事務局長及び事務局員で構成される。
H29年度役職者は以下の通り。

〈顧　問〉 原口　新五
〈会　長〉 荒井　誠一
〈副会長〉 山口　浩司　久保山　令子　大家　真一
〈幹　事〉 花田　厚子　吉山　修一
〈理事長〉 小形　公一
〈事務局長〉勝本　幸子





〈活動状況〉平成28年度実績

開催試合実績　8試合
誘致大会　1試合（パラバドミントン強化指定選手選考会大会）
2001年には久留米市にて日本リーグを開催。実行委員90名。
2010年には全日本社会人シニア大会を7会場を使い開催。





〈エピソード〉

1）福岡県民体育大会
・1998年青年の部において初の全国大会出場
・2003年青年の部において2回目の出場を果たし見事に優勝
・その後、青年の部において2013年と2015年に全国大会出場
2）吉松歯科が実業団チームとして久留米市で活躍
・平成7年　全日本バドミントン大会ミックスダブルス優勝（吉武祐二/田村富士美）
・平成8年　国民体育大会出場
（吉松歯科OBである吉富桂子がアテネオリンピック出場）

田川地区バドミントン協会

1977年設立

会　長　：　水崎　一彦
理事長　：　香川　二郎
事務局　：　郡谷　忠士
住　所　：　田川市中央町1番1号

主な大会:
田川オープンバドミントン大会(年1回)
田川地区バドミントン大会(年2回)
田川市民バドミントン大会(年1回)

柳川市バドミントン協会

1985年設立

会　長　：　古川　憲一
理事長　：　羽江　雄司
事務局　：　武松　正
住　所　：　福岡県柳川市本町53-1



主な大会:
柳川オープンバドミントン大会
筑後地区中学生バドミントン大会
筑後地区ジュニアバドミントン大会



大川市バドミントン協会

1979年設立

会　長　：　石井　正博
理事長　：
事務局　：　藤原　賢二
住　所　：　柳川市西蒲池806

事務局　藤原賢二

大川市バドミントン協会は、故中島政人先生が大川高等学校(現大川樟風高等学校)で教鞭をとるようになってから大川市農協・大川市役所の皆さんとともに1979(昭和54)年に発足しました。

協会の大きな事業として、年2回のオープン大会と若くして永逝された故中島政人先生を偲び11月の第1日曜日に中島杯を開催しています。

2014(平成26)年に第57回福岡県民体育大会秋季大会バドミントン競技を招致・開催することができ、また同じ年から久留米市・大牟田市・柳川市・高田町の協会の皆さんと協力し全日本中学生バドミントン大会福岡県1次選考会予選及び福岡県中学生選抜バドミントン大会予選を開催しています。

中間市バドミントン連盟

会　長　：　行實　悟
理事長　：　三好　滋久
事務局　：　三好　滋久
住　所　：　中間市小田ケ浦1-5-20

主な大会：
中間市バドミントン大会
中間オープンバドミントン大会
中間市中学生・小学生ビギナーズバドミントン大会

中間市バドミントン連盟の現況
三好　滋久

中間市は人口約4万人の北九州市に隣接し、そこに勤務する人のベッドタウンとして発展して来た中小都市で、40年ほど前に組織された中間市バドミントン連盟（以下、連盟）の発展も、少なからず影響を受けて来た。

創立当時から続いている社会人のクラブは、中間クラブ、フェニックス、中間市役所の3クラブで、前2者は変動はあるが北九州市ほか近隣の市外居住者を含めた会員で運営されて来た。中間市役所は職域のクラブで、市役所対抗の試合等で活躍している。平成23年創設されたBBB中間は、部員の年齢も若く活動的なクラブである。また、近年創設された中間CBは中間ジュニアクラブの保護者が、子供だけではなく親たちもやりたいと始めたクラブで、初心者でも競技を楽しめる存在である。

レディースに関しては創立当時から連盟の運営に大きく貢献していたクラブか活動停止したが、代わりにいくつかのクラブが設立されて来た。しかし、数年前まで活動していた中間ウイングスを最後に活動中のクラブはない状態である。

ジュニアに関しては、平成元年設立の中間リトルファイターズは、地元の小学生を中心に活動し、現在10名ほどの部員が所属している。平成5年設立の中間ジュニアクラブは、地元のみならず近隣の小中学生も含め40人ほどの部員で活動しているが、基礎レベルから県大会や全国大会出場の選手も輩出するなど幅広い活動を行っている。また、10年ほど前に活動を停止した中間ストリングスも含め、ジュニアクラブの卒業生は実業団等いろいろな所で活躍している。

学校部活は、平成6年創部の中間高校は部員数50～60名で、卒業生の外部コーチの指導もあり、近年は県大会でも常に上位に入る公立高校の部活としては有数な存在である。中学校に関しては平成7年創部の中間東中学では、過去中体連全国大会で上位入賞者を輩出した事もあるが、現在は部員のほとんどが中学の部活で競技を始めた生徒が多く、公認指導員の資格を持ったジュニアの指導者が外部コーチとして学内での練習に協力している。他の3中学でも練習のほとんどをジュニアクラブに委託する様な形で存在しているが、中間中学や中間南中学では過去に中体連全国大会に出場し活躍した実績がある。

バドミントンの練習環境に関しては、市立の中間市体育文化センター（8面）や生涯学習センターならびに各小中学校体育館も開放されており、恵まれていると思われる。

連盟の活動としては、毎年春の市内大会は小学生低学年から70代のシニアまで参加出来る大会であり、出場者も1日楽しめる大会である。12月にはチーム戦のオープン大会を実施、3月には近隣も含めた小中学生の初心者のためのビギナーズ大会を開催している。また、週1回、中間クラブを運営主体に連盟の練習会（社会人が中心）を行っているが、近隣からも多数の参加がある。講習会に関しては、毎年10月に開かれる中間市体育協会主催のスポーツフェスタに協力し1日講習会を行っている。最近は実施出来ていないが、初心者講習会（週1回複数回）を何度か開催し、競技の普及と底辺の拡大に努力している。

今後の連盟の活動を行う上で、ジュニアや学校部活の卒業生が若い競技者として育って来ている一方、連盟役員等の指導者が高齢化して来ており、その継承と世代交代をスムーズに行ってゆく事が必要で、将来にわたり地域でのバドミントンの普及と選手育成等の活動をさらに発展させて行く事が連盟としての重要な仕事と思われる。

会員構成（市外の登録者含む）：
社会人　73名、高校生　51名、
中学生　43名、小学生　35名

小郡市バドミントン連盟

1983年設立

会　長　：　西山　和孝
理事長　：　竹之内　正人
事務局　：　吉光　勇治
住　所　：　小郡市福童941-4

主な大会:
5月　エンジョイスポーツ大会(仮称)
6月　サマーミックス大会
7月　サマーダブルス大会
8月　オーガスタ団体戦大会
11月　小郡市バドミントン大会
2月　三井・小郡団体戦大会





筑紫野市バドミントン協会

1975年設立

会　長　：　波賀　秀隆
理事長　：　真子　圭子
事務局　：　真子　圭子
住　所　：　筑紫野市針摺東4-1-2



主な大会:
筑紫野市市長杯バドミントン大会(団体戦)年一回
筑紫野市春季(秋季)バドミントン大会　年二回
筑紫野市小・中学生春季(秋季)バドミントン大会　年二回



筑紫野市協会　発足40周年記念大会写真

春日市バドミントン協会

1975年設立



会　長　：　銘苅　秀明
理事長　：　村上　芳春
事務局　：　奈須　純子
住　所　：　春日市昇町5-69

1、協会のあゆみ

1）発足　1975年　（昭和50年）

2）発足期の役員名

会長　　竹林　久雄
副会長　西依　進
理事長　土肥　由紀夫
事務局長　土肥　由紀夫

3）発足の頃

当時、バドミントン競技が現在の様にメジャースポーツではなかった頃、社会人愛好家と家庭婦人、陸・空自衛隊員を主メンバーとして活動し、1975年（昭和50年）春日市体育協会発足と同時に春日市バドミントン協会として正式に発足、活動を始めました。

発足当時は練習場所も新設された春日市スポーツセンター体育館のみで、会員数も4団体80名足らだったと聞いております。ただ、今思えば練習場所が少なく各クラブがスポーツセンターに集り練習していた事が交流を深める事と成り、協力体制が取れ協会の発展に繋がったと思います。

4）発展期

1980年代（昭和55年）に成ると中学校での部活発足や小学生を対象としたスポーツ少年団のバドミントン活動が始まり会員数も200名を超えました。このころから福岡県民体育大会バドミントン競技でも少しずつ成績を上げ、1984年第27回県民体育大会の壮年男子の部で悲願の優勝を果しました。

協会発足当時協会主催年間試合参加数が300名だったのに対し1985年では倍の600名を超えた。

またこの頃から春日高校がバドミントン競技に力を入れ、それと共に90年代には中学校のバドミン部活も盛んに成って参りました。このころから協会員による初心者バドミントン教室を開催。

1990年代幕開けの第34回県民体育大会（1991年）では、一般男子が優勝し後の最盛期を迎える。

5）最盛期から安定期

1990年代には協会主催の年間試合参加者数が1600名を超え、市外からの参加も可能なオープン試合の開催も始めた。近隣の博多区、南区、大野城市、筑紫野市からの参加が増すにつれ協会員のレベルも向上し、1997年～2001年までの5年間一般男子は連続優勝を果す。当時、県民体育大会一般男子で5連覇を果した郡市は何処も無かった。

その後、壮年男子は2002年から15年連続3位以上、（優勝：3回、淳優勝：9回、3位：3回）と安定した強さを誇っております。他の種目でも2008年第51回大会では一般男・女がアベック優勝。翌52回大会では、青年を除く全種目で準優勝と言う層の厚さを示しました。

2004年以降、昨年2016年まで県民体育大会出場で毎年3種目以上が連続ベスト4入りを果しております。



6）現在の状況

協会発足から42年になり、所属団体数：9、所属員数：285名と成りました。（学校の部活除く）最近は協会の銘苅会長や富永理事のご努力でジュニアクラブが発足し小・中学生の実力も上がって参りました。

協会発足当時と比べ会員数は3倍強（200名以上の増加）と成りましたが昨年新築された春日市スポーツセンター新体育館は設備も充実しメインアリーナ10面、サブアリーナ6面、合計16面の環境下で日々夫々の目標達成を目指し頑張っております。

発足当時と変らぬ事は一つの体育館に皆が集い協力し合う事です。

この事は今後も守って行きたいと思います。

2、今後取り組みたいこと

春日市バドミントン協会のテーマは、「夢と感動」です。日々の練習や試合において、見ている人に感動を与えたい、それは勝敗だけではなく、たった一つのプレーであっても良い。その感動が見た人の「夢」に変れば良いと思います。夢（目標）を追い、人に感動を与える選手（人）が生まれる事を春日市バドミントン協会は願っております。

1）ジュニアの育成

現在、2020年東京五輪を目指し日本のバドミントンレベルは世界一に成る勢いで新化を遂げております。

また福岡県のレベルも毎年上がっておりますが、残念ながら春日市のジュニアレベルは高いとは申せません。今後の10年を考えた場合、ジュニア育成は急務だと感じております。

今後、保護者合意の基に、所属クラブの枠を超えた強化練習や指導員の育成・派遣などに取り組みたい。

2）シニア（60才以上）クラブの立上げと夢の実現

現在高齢化社会に成っておりますが、スポーツの世界では勝負に拘り、スピードと力強さが求められシニア層に成ると、所属しているクラブの中でもお荷物的存在となり、肩身が狭くなっている人がいるのではないでしょうか？特に60才を過ぎると思った様なプレーが出来ない。無理すると身体のあちこちが痛くなる。でも、バドミントンは続けたい。そんな方々や、健康の為に身体を動かしたいと言って、新しく初心者バドミントン教室に入られる方も大勢おられますが年齢的には40才を超えた方が多く、悩みは教室を卒業しても所属するクラブが無い。また、あっても今更頑張ってもこの年ではと諦め、続けない方が沢山いらっしゃいます。

その様な方々が楽しめるクラブを立ち上げ、バドミントンを通じて楽しい日々をおくって頂きたい。シニアだってまだ夢は見れる、感動は与えられる！70才代、80才代でのチャンピオンを目指せば今からでも！ジュニア、成人は速さと力強いプレーが魅力ですが、シニア（高齢者）の魅力は旨みと味のあるプレーです。　夫々の個性を出した味の有るプレーを磨いて頂ければと思います。

出来れば高齢者だけの試合なども開催したいと思っております。

今、若くて必ず年月を重ねて行けば高齢者に成る。その時に楽しめる場を今から作っておく。

最後に、福岡県バドミントン協会の発展と人材育成の中に春日市バドミントン協会が少しでも協力出来ればと思っております。

大野城市バドミントン協会

1976年設立

会　長　：　山田　耕輔
理事長　：
事務局　：　平林　摂
住　所　：　大野城市白木原2-8-6-403

この度は福岡県バドミントン協会設立70周年、誠におめでとうございます。

我々大野城市バドミントン連盟は、昭和51年発足し42年目を迎え、当初は4団体だった加盟数も現在では13団体となりました。

地元発展の為に若い力を生かそうと言う事で、代々活動してまいりました。

最近では、失われがちな地域コミュニティーをいかに活発化させるかという点で日々、出来る事を模索し続けております。斬新な発想が多く出ますが、未熟な面と相まってお叱りを受ける事もあり、関係各所にご指導を仰ぎつつ日々頑張っております。

未筆ながら、福岡県バドミントン協会様の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

宗像地区バドミントン協会

1981年設立

会　長　：　山田　喜代子
理事長　：　元岡　鋼基
事務局　：　石隈　弘子
住　所　：　宗像市東郷1-1-1

主な大会:
秋季大会
新春大会
宗像オープン大会
夏季ジュニア大会
春季ジュニア大会

太宰府市バドミントン協会

会　長　：　石橋　浩一
理事長　：
事務局　：　叶　美紀
住　所　：　太宰府市石坂4-5-3

糸島市バドミントン協会

1983年設立

会　長　：　倉岡　毅
理事長　：　山下　浩一郎
事務局　：　楢崎　勝之
住　所　：　糸島市篠原東1-2-45



主な大会:
糸島市民体育大会バドミントン競技の部
糸島市スポーツフェスタバドミントン競技の部
糸島市中学生バドミントン学年別大会

古賀市バドミントン協会

1982年設立

会　長　：　齋藤 光範
理事長　：　大久保　正子
事務局　：　齋藤 光範
住　所　：　古賀市花鶴丘3-10-23

福岡県バドミントン協会70周年を迎えて思うこと

会長　齋藤 光範

福岡県バドミントン協会70周年おめでとうございます。また8月6日に行われました「福岡県バドミントン協会70周年記念、福岡県バドミントン社会人選手権大会」も350名を超える参加者で大盛況の内に終わり御祝い申し上げます。

一口に70年と言っても大変な年月です。県協会が発足した時は戦争が終わって2年、日本バドミントン協会が発足したのは戦後1年目です。福岡の早さに驚くほかはありません。

木製のラケット、天井の低い木造の体育館、学校体育には取り入れられていない競技、このような大変な時代に多くのバドミントン関係者が協会を作り、競技の普及と発展を願って努力されてきたこと頭の下がる想いです。

1947年に第一回全日本総合バドミントン選手権が開催され、大会の優勝者には子供の頃からあこがれていました。

その翌年1948年に福岡県バドミントン協会が発足した訳ですが、当時はラジオと新聞、雑誌しかない時代だったため、バドミントン大会の事を知ることも少なく、競技のことを知る人も少なかったように思います。

古賀市のバドミントン協会は発足して35年になります。福岡県協会の丁度半分を過ぎたところです。古賀市春期バドミントン大会も35回の開催を重ねてきました。

当協会は発足当時と現在ではずいぶん様変わりをしています。発足当時から15年間は、古賀市のバドミントン愛好者が協会と各クラブの発展、競技の普及を重点に歩んでいました。勿論ジュニア育成にも力を注ぎ、ジュニア教室も盛んでした。

古賀市の大人のバドミントン人口は、市の6万人弱という人口から考えると、現在も多い方だと思います。バドミントンクラブも多く、毎日、午前、午後、夜間と、どこかでバドミントンをしている人がいます。ジュニアも含めると更に多くの人がバドミントンを楽しんでいます。しかし協会加盟の大人のクラブは1クラブだけです。

県のバドミントン協会の今後の発展は、各郡市のバドミントン協会の発展がなくてはなりません。古賀市バドミントン協会として、バドミントン人口は十分居りますので、今後は、協会加盟クラブを増やし、指導者や協会役員の後継者を育てる活動が大事だと考えています。日本や世界の何処に行っても、子供も大人も、健常者も障がい者も、多くの人がバドミントンを楽しめる平和な時代を望んでおります。

最後に、福岡県バドミントン協会及び日本バドミントン協会が100年を越えてのますますの御発展と2020年の東京オリンピック、パラリンピックでの日本の選手の活躍を祈念し、福岡県からも多くの選手が輩出されることを願っております。



那珂川町バドミントン連盟

会　長　：　徳永　修治
理事長：　吉田　宏
事務局：　大石　周司
住　所　：　那珂川町中原3-81-702

那珂川町のバドミントンの歴史は、昭和50年の新幹線基地発足時、JR西日本（旧国鉄）の職員によって作られ、昭和54年に町体育協会に加盟し、それ以来、バドミントンの普及と技術向上を行い、今日に至っています。

特に長年に渡って、福岡県民体育大会秋季大会のバドミントン競技において、各部で優秀な成績を収めています。

毎年1回行われる那珂川町民バドミントン大会も平成29年で第43回を数えました。

近年は、参加者が減ってきていますが、参加者と主催者一同で大会を盛り上げています。
小中学生の参加もありますので、児童生徒の育成にも努めています。

粕屋郡バドミントン協会

会　長　：　肥田木　実
理事長：　枡野　博規
事務局：　大石　稔
住　所　：　宇美町障子岳南2-21-2

主な大会：
クローバー杯オープン大会個人戦　年2回
糟屋オープン団体戦　年1回
小中学生のわかば杯　年2回

近年、郡登録者の減少に伴うクローバー杯参加者の減少を食い止めるためオープン大会としホームページを立ち上げ告知することで参加者が少しずつではありますが増えてきました。又、わかば杯は年々参加者も増え小学生・中学生の大会を分けて行うように今年から新しい試みとして行います。

現在福岡市近郊都市として人口増加率や出生率が全国トップにある郡としてバドミントン愛好者の掘り起こしのためにホームページを活用し各町のクラブ紹介など行っています。その成果も少しずつではありますが出て来ています。

県民体育大会の強化練習を今期より4月から7月までの月1回行い多くの方に参加してもらいその成果が出ました。この先、他の地域の方々との交流会が出来ればと思っています。県民体育大会以外の福岡県での大会を企画して欲しいです。宜しくお願いします。

遠賀郡バドミントン協会



会　長　：　森嶋　通之
理事長　：
事務局　：　石井　宏紀
住　所　：　遠賀郡岡垣町東松原1-6-6

朝倉市郡バドミントン協会

1978年設立

会　長　：　林　義祐
理事長　：
事務局　：　川野　淳一
住　所　：　朝倉市大庭518

70周年記念に寄せて

朝倉市バドミントン協会も市町村合併前から数えますと、創立40年を迎えます。
所属クラブチームは杷木クラブ・朝倉クラブ・甘朝クラブ・夜須クラブ・東峰クラブの5チームです。当、杷木クラブは合併前から『杷木日迎杯バドミントン大会』を第10回開催しました。合併後は年2回『朝倉市オープンバドミントン大会』を開催し18回大会となります。
朝倉市近郊はもとより福岡県内からも沢山のバドミントン愛好者の皆さんが参加して頂き心より感謝申し上げます。

朝倉市は7月5日の豪雨災害で練習会場の体育館が使用出来ない状態が続いていますが、来年度からも復興記念として朝倉市オープンバドミントン大会は継続して頑張って行こうと思っています。
大会主催運営は大変ですが、こうした大会をへて多くのクラブの方とも交流が出来ました。
バドミントンを通してバドミントン愛好者が集い交流を深めバドミントン競技人口が増えそして地域の活性化にも繋がりますよう願っています。
私はバドミントンが大好きです。私の生涯スポーツはバドミントンです。

うきは市バドミントン協会

1975年設立

会　長　：　江里口　芳治
理事長　：　沓形　県司
事務局　：　沓形　さゆみ
住　所　：　うきは市吉井町1002-45

主な大会：
浮羽郡オープンバドミントン大会　年2回開催
うきは市オープンとして26回

うきはクラブ
事務局　沓形さゆみ

1．西見正士によりクラブ発足、浮3郡体育協会へ加入
昭和50年頃
2．平成17年うきは市発足によりうきは市体育協会へ
3．現会長　江里口芳治
部長　　沓形　県司
4.地元の学校にクラブがないこともあり、部員数は減少の一途をたどり、更には高齢化が進んでいるので、今後のクラブ運営が危ぶまれる。

事務局　沓形の個人的感想として
最近の日本人の国際大会での活躍に心踊る毎日であります。2020年の東京でぜひボランティアとして参加したいものです。できればコート整備をやらせてください！

人材発掘は地方の仕事ではなかろうかと思いますが、我がうきは市にはその力が足りません。
県協会の方々のご苦労もお察ししますが、頑張ってください。






京築地区バドミントン連盟

会　長　：
理事長　：
事務局　：　三毛門　鋼市
住　所　：　行橋市行事1-3-6-306

みやま市バドミントン協会

2007年設立

会　長　：　中村　庫基
理事長　：　坂口　浩二
事務局　：　坂口　浩二
住　所　：　みやま市高田町南新開935-2

みやま市バドミントン協会は、瀬高町、山川町、高田町の3町が平成19年1月に合併し、それから半年後の7月に発足しました。地域内で細々と活動しておりましたが、縁あって平成22年7月に県協会への加盟の承認をいただき、11月に行われた第27回全日本シニアバドミントン選手権大会の筑後広域公園体育館会場の運営に携わることができました。あれから早7年近くたとうとしております。今後とも地域に根差した協会を目指し活動していきますので、ご指導方よろしくお願いします。



みやま市バドミントン協会10周年の記念大会

福岡県小学生バドミントン連盟



会　長　：　池田　明男
理事長　：　眞鍋　聡
事務局　：　服部　秀喜
住　所　：　北九州市八幡西区茶屋の原4-2-11

主な大会
・若葉カップ全国小学生バドミントン大会出場選考会
・全国小学生A.B.C県予選大会
・全日本ジュニア選手権大会福岡県予選会
・全国小学生都道府県県予選会

役員

会　長	池田 明男
副会長	和田 功夫
理事長	真 鍋 聡
会計監査	後藤 泰男
理　事	鶴岡 美紀
理　事	有馬 正剛
理　事	田中 恵子
理　事	中 島 純
理　事	有田 仁志
理　事	八色 敬三
理　事	楠森 章弘
理　事	三好 滋久
理　事	山口 浩司
理　事	合屋 幸太郎
理　事	野田 亮介
理　事	内山　咲子
事務局長	服部 秀喜

役員数　:17人
選手数　:日本小学生連盟登録者（平成28年度）
男子　309人、女子　537人　　合計846人
（作成 平成29年4月8日作成）
（巻末資料あり）









福岡県中体連バドミントン専門部

専門部長：　岸本　隆幸
住　　所：　福岡市西区田尻108

中体連のあゆみから

北九州市立板櫃中学校　　坂本　哲

福岡県バドミントン協会創立70周年おめでとうございます。70年という長い歴史の中、県協会の諸先輩方の努力のおかげで、今日の中体連大会があることに深く敬意を表します。

県中学生大会は、1971(昭和46)年8月の日本バドミントン協会主催第1回全国中学生大会を受けて、その翌年の1972年に県協会主催で始まりました。同年、第1回九州中学生大会も長崎県で開催され、第2回全国中学生大会とともに、福岡県からも選抜チームで選手団を初めて派遣しました。その後、県中学生大会は県協会主催で10年間続きましたが、1980(昭和55)年から県中体連の正式種目として採用され、中学校大会になりました。同時に、九州・全国大会も中体連主催に変更され、この年から選抜チームではなく、単独校でチームを組み出場することになりました。この間、県協会主催の10年間と中体連主催へ移行後の12年間の計22年に渡り、県大会開催に尽力された初代専門部長 村尾 隆先生の功績は非常に大きなものでした。

さて、バドミントン競技の中体連大会での大きな変革は、平成12年度からシャトルがナイロン球から水鳥球に変更されたことです。そして、もう1つの変革は、皆様もご存知の平成19年度からのラリーポイント制の導入です。これらの変革によって、技術の向上はもとより、試合の展開も大きく変わりました。ミスが多い選手は勝ち上がれなくなり、試合でも1球に対する選手の精神的プレッシャーが増しました。中学生でもメンタル面の強化が更に必要になったわけです。

ここで、中体連大会での本県代表の戦績ですが、全国大会での団体戦入賞は、男子で第4回県選抜チーム(3位)、第29回岡垣中(優勝)、第30回岡垣中(3位)、第35回高須中(準優勝)の4回、女子で第17回岡垣中(3位)、第39・40・42回九州国際大学付属中(3位)、第43回九州国際大学付属中(準優勝)の5回です。また、シングルスでの入賞は、北京オリンピックで「オグシオ」の愛称で脚光をあびた潮田 玲子(新津中・第28回優勝)を含め、優勝3回、準優勝3回、3位3回の計9回です。ダブルスの入賞は、準優勝1回、3位3回の計4回です。戦績を見ると、前半の低迷期に比べ、第20回大会以降の入賞が明らかに多くなっています。それは、本県のジュニアクラブの活動が活発になり、小学校から、全国大会で多くの実績を残していることにも起因します。近年では、特に、九州国際大学付属中学校を中心として、九州大会・全国大会でも大きな成果を残しています。

また、2001(平成13)年3月からは、全日本中学生バドミントン選手権大会も開催されるようになりました。2008(平成20)年には、地元福岡県でも開催され、その時には準優勝の成績を残しています。しかし、それ以降は、予選リーグは毎年勝ち上がるものの、決勝トーナメントで惜敗し、なかなか上位に勝ち進むことができない状況が続いています。

本県では、11月に各地区で予選を行い、12月に第1次選考会として県大会、そして、正月明けの1月の強化合宿で、第2次選考会を行い、最終メンバーを決定しています。それ以後、隔週で強化練習を行い、でき得る限り最大限の取組を続けてもらっているところです。その中心になって指導を行っている松本先生、古賀先生には、いつも頭が下がる思いです。

この県協会の強化の取組と、日頃の各チームでの「打倒！九州国大学付属中学校」を目指した活動で、多くのチームが切磋琢磨し合うことにより、今後も本県の中学生の競技力が更に向上し、全国大会の上位進出につながっていくことを心から期待しています。そして、これからも本県で中学時に活躍した選手の中から、一人でも多くのオリンピック選手が育つことを願っています。

最後に、県協会の日頃の中学生の強化の取組に対するご支援に感謝申し上げ、今後益々の福岡県バドミントン協会のご発展を心からお祈り致します。

(巻末資料あり)

福岡県高体連バドミントン専門部



専門部長：　西元　孝幸
専門部長：　明神　憲一
住　　所　：北九州市八幡西区浅川2-18-30-207

第64回全国高等学校バドミントン選手権大会について

福岡県高等学校体育連盟バドミントン専門部
矢野　豊貴

「吹きわたれ　若人の風　北部九州へ」を大会スローガンに掲げ、平成25年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技大会　高松宮記念杯第64回全国高等学校バドミントン選手権大会は、平成25年8月6日、北九州芸術劇場における開会式にてその幕を開け、連日の熱戦の後、8月11日、北九州市立総合体育館においての個人対抗表彰式・閉会式にて無事終了することができました。

競技は北九州市立総合体育館を主会場として、北九州メディアドームの2会場で実施されました。今大会は、平成25年3月に行われた第41回全国高等学校選抜大会に続く全国大会であり、福岡県高体連バドミントン専門部と北九州市実行委員会が準備・運営の中心となり、福岡県バドミントン協会及び北九州市バドミントン協会の協力のもとに実施されました。各都道府県の代表として出場した選手達は、連日の猛暑のもと、体調管理の難しい中、母校の名誉と自身のプライドをかけた気迫溢れるプレイを展開し、競技者と運営者が感動を共有できたことに大きな喜びを感じています。これも指導者各位の日ごろからのご指導の成果であると敬服するとともに、今大会に参加した選手の中から、将来オリンピックをはじめ世界の舞台で活躍する選手が出てくることを期待します。

また、全国各地から多くの観客のみなさまをお迎えし、競技会場は連日たいへん盛り上がりました。(公財)全国高等学校体育連盟バドミントン専門部ホームページや福岡県高体連ホームページへのアクセスも増え、特に、取材に訪れたメディア数等は20社を越える日もあり、バドミントン競技への興味、関心の高さと熱意に驚かされました。

今大会を成功裏に終えることができましたのも、北九州市実行委員会、福岡県、福岡県教育委員会、北九州市、北九州市教育委員会をはじめ関係諸機関ならびに諸団体、そして、競技会場や練習会場としてご協力いただいた各施設、学校等の多大なるご支援、ご指導の賜物であり、深甚なる謝意を表します。また、大会運営に携わっていただいた県内外役員の方々、補助員のみなさんの献身的な働きぶりには、ただただ頭の下がる思いでした。特に、県内外からお手伝いいただいた審判の方々の、熱意溢れるご協力に心からお礼を申し上げます。また、事務局を担当し6月の各県の代表が決定後、全国から多くの問い合わせや組合せ抽選会等の準備、7月中旬にプログラム完成、役員必携、審判必携、役員及び補助員名簿作成、競技関係物品準備等、時間がないなかでしなければならないことが沢山ありましたが、実行委員会と県内バドミントン顧問がまとまり、毎日遅くまで大会準備を協力していただいたことを今も心から感謝しております。

最後になりましたが、福岡県バドミントン協会の70周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し上げるとともに、益々の発展をご祈念し大会報告とさせていただきます。
(巻末資料あり)








自由ケ丘


九州国際大学付属









福岡県学生バドミントン連盟

会　長　　：山田　信一
委員長　　：工藤　まどか
副委員長：船橋　奏人
会　計　　：梶栗　優萌

福岡県学生バドミントン連盟委員長
船橋　奏人

福岡県学生バドミントン連盟は5月に行われる県学生、9月に行われる新人戦、12月に行われる県リーグの3つの試合を主催しています。活動は大会前に各大学に要項などを送ること。後援、協賛依頼を送ること。です。組合わせなども全て行なっています。特に5月に行われる県学生は参加者が非常に多く、とても大変です。しかし、この役職であるからこそ普通に生活しているとほとんど関わることのないような、目上の方とも接する機会がたくさんあります。そこで、言葉遣いやメールなどの文の書き方、今までは意識しなかったことまで学ばせていただくことはたくさんあります。仕事量は確かにとても多く大変だとは思うけどそれ以上に得るものはあると思うのでこれから委員長になる方は頑張ってください！


船橋前委員長


工藤委員長

福岡県教職員バドミントン連盟

会　長　：　平田　勝敬
理事長　：　日高　義治
事務局　：　日高　義治
住　所　：　太宰府市三条1-19-11

事務局　日髙義治

福岡県教職員バドミントン連盟は、年2回（春、秋）県内4地区の持ち回りで福岡県教職員大会を開催しており、平成29年の春季大会で94回目の開催となった。2020年の東京オリンピック・パラリンピックの年には100回目を迎える予定であるが、近年の少子化による教職員の採用者数の減少や部活動指導による休日出勤や業務多忙など社会問題になっていることを裏付けるように大会参加者も右肩下がり、同時に会員数も下表のとおり減少傾向に歯止めがかからない。このままでは大会継続ができなくなるだけでなく、連盟の運営自体も危ぶまれる。

【近年の会員数】

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
会員数	69	61	60	58	46	42	19	47

参考）2015年は全県的に学校体育館工事が入り、1年間大会が開催できなかったため会員登録が少なかった。

教職員大会に出場をしてみたいと思う先生方は、次の日本教職員バドミントン連盟規約にある会員資格をご確認いただきたい。（事務局へ大会に出場できるかどうかわからないという問い合わせがあるが、条文に該当するかで判断してもらいたい）ぜひ、多くの先生方の会員登録ならびに大会への参加をお願いしたい。

日本教職員バドミントン連盟規約　第5条（資格）

1. 本連盟の会員は、（公財）日本バドミントン協会会員であって下記に該当する者とする。
   （1）学校教育法第1条に規定する学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする）、または学校教育法第十一章、第百二十四条に規定する専修学校、または第十二章第百三十四条に規定する各種学校に在職し、教育の任に当たっている教授、准教授、教諭、講師（非常勤も含む）、助教、助手、および上記の学校に現に在職する職員、並びに各地区教育委員会の職員（非常勤も含む）とする。
   （2）永年教育機関に勤務した者が定年等により退職した場合、各都道府県教職バドミントン連盟の推薦があれば会員に準ずる資格を得ることができる。

教職員連盟では毎年夏休み期間中に「全日本教職員バドミントン選手権大会」に選手を派遣（といっても参加費等は自己負担）し研鑽を積んでいる。全日本教職員大会は過去、多くの先生方が好成績を収めてきた大会であり、最近では第52、53回の一般女子シングルスで関谷先生（九国大附高職員）が2連覇を達成（全日本総合出場）した。また、年齢別の部では30歳以上から70歳以上まで多くの種目があり、定年退職後の教職員も若手に負けず毎年上位入賞を続けている。

この全日本教職員大会に都道府県団体戦があることは、一般的にあまり知られていない。個人戦の一般の部（年齢無制限）は全日本総合の出場権が得られることから、昔からレベルの高い戦いが繰り広げられているのだ

が、ここ数年は競技初日の団体戦も熱を帯びてきている。団体戦には男女別に1複2単の一般団体と、30・40・50歳代3複での成壮年団体がある。福岡県チームは1995年の米子大会以後、団体戦はメンバーが集まらず、参加することさえできない年も多かった。2010年の鹿児島大会では若手の加入を得て一般男子団体へ参加人数ギリギリの4名で出場し、それまで初回戦負けが続いていた福岡県がいきなり決勝まで進出した。決勝では福島県に敗れたものの準優勝（個人戦では一般男子ダブルスで田村・古賀ペアが3位に入賞し、全日本総合へ出場している）できた。その後、各都道府県も若手を中心とした選手起用が広がりをみせ、4大会連続で入賞できずにいたが、2015年奈良大会で3位入賞、2016年鳥取大会はベスト8進出、そして2017年福島大会では頂点に立つことができた。福岡県バドミントン協会創立70周年に花を飾ることができ、とても嬉しい。
（巻末資料あり）



2010鹿児島大会　一般男子団体準優勝



2015 奈良大会　一般男子団体第３位



2017福島大会　一般男子団体優勝

福岡県実業団バドミントン連盟



会　長　：　杉山　新治
会　長　：　堂山　武
事務局：　副島　浩史
住　所　：　福岡市東区香椎駅前3-4-28-101

福岡県バドミントン協会70周年、おめでとうございます。

福岡県バドミントン協会の競技部門の大会で行われてきた実業団大会から、平成5年4月1日福岡県実業団バドミントン連盟を設立し、独自の運営を行う事になりました。初代会長には、北田葆光（ベスト電器）、理事長に坂田雄二（ベスト電器）が就任し、設立時の加盟チームは男子：19チーム（ベスト電器、福岡市役所、JR九州、月星化成、アポロ電子、TOTO、JR西日本福岡、福岡県庁、豊前市役所、北九州市役所、西日本銀行、三井東圧、福岡シティ銀行、JR貨物九州支社、住友金属、三菱化成、吉松歯科、日産自動車、アリヨシスポーツ）女子：5チーム（ベスト電器、吉松歯科、福岡シティ銀行、福岡市役所、三菱化成）。

第1回福岡県実業団バドミントン選手権(リーグ戦)大会は平成5年7月25日穎田町体育館で男子6部・7部、平成5年8月1日水巻町体育館で男子3部・4部・5部、平成5年8月29日苅田日産体育館で男子1部・2部・女子を開催、同じく、第1回福岡県実業団バドミントン選手権トーナメント大会（福岡県実業団バドミントン連盟発足を記念しての第1回記念大会を平成6年1月23日福岡市立城南体育館にて開催し、男女ともベスト電器チームが勝利している。

2代目会長：後藤研（九州大学）、3代目会長：野瀬善明（九州大学）とつなぎ現在は4代目の杉山新治会長（トヨタ自動車九州）、小出寿朗副会長（トヨタ自動車九州）、堂山武理事長（北九州市役所）体制の22チーム（西部ガス、トヨタ自動車九州、アリヨシスポーツ、三菱ケミカル、西鉄、日産自動車九州、北九州市役所、福岡県警察、TOTO、TOTOS北九州、安川電機、新日鐵住金八幡、九州大学、三井化学、福岡市役所、久留米市役所、西日本シティ銀行、福岡県庁、防衛省福岡、ロームアポロ、ケイエスケイ、運動具屋）、事務局をスリーエススポーツに置き、2年周期での理事長以下役員交代制での年間計画に基づき運営している。

現在の年間行事は前期リーグ戦、後期リーグ戦、翌年度の全日本実業団選手権大会の予選会を兼ねたトーナメント戦を開催し、平成25年度からは九州実業団選手権大会を兼ねて競技力向上に努めています。

また、平成23年東北地方太平洋沖地震、平成28年熊本地震、平成29年九州北部豪雨災害に対しての義援金・物資の提供、災害地への援助。地域からの要請による指導講習会も実施して、地域貢献活動にも寄与してきました。

最後に、福岡県実業団バドミントン連盟は、各種活動を通して企業人・スポーツ団体としてのあるべき姿を追求し、連盟のガバナンス、社会貢献と所属企業内への話題提供、地域への競技力向上や冠大会開催に努めており、このような活動は自己啓発を伴い個々人の成長へとつながっていきます。福岡県バドミントン協会・実業団連盟の発展にご尽力頂いた先輩諸兄の意思を次代に引き継いで行きたいと思っております。

資料として、平成29年の前期リーグ戦、トーナメント戦、寄付の報告を添付致します。
（巻末資料あり）

福岡県レディースバドミントン連盟



会　長　：　安部　悦子
理事長　：　田中　恵子
住　所　：　福岡市中央区福浜1-25-4

70周年によせて

会長　　安部　悦子

現在、レディース連盟への登録人数は1073名、総クラブ数は67クラブとなりました。一時は800名程度に減少したものの、各地域の理事たちの尽力、初心者教室の開催、又、全国大会の優勝等で徐々に増えてきました。

1、年間事業計画

・4月・・・ABCD戦（大会成績と前年度の全日本レディースバドミントン大会、全九州大会の成績でその年の強化選手が決定されます。）

全日本レディースバドミントン選手権・クラブ対抗県予選

・8月・・・全九州レディースバドミントン選手権大会予選（フリー、40、45、50、55、60、65代の団体戦。）

・9月・・・クラブ対抗（1,2,3,4部）

2、強化練習

全日本強化は年間を通じて行われており、全九州強化は予選後の強化をしています。

また、昨年度よりマスターズ参加への本格的取り組み強化も始めました。

3、現在のレディースの位置



レディースのメンバー達は個人での活躍も目覚ましく、全日本シニアでの優勝者名にメンバー名がない年はありません。特に、日本レディース連盟においては今年を含めて過去11年間で6度の優勝、3度の準優勝という成績です。3度目の優勝を果たした2013年には日本レディース連盟より表彰を受けました。勿論、5度の優勝に対しては、県教育委員会、県バドミントン協会からの表彰も受けています。

更に今年はマスターズバドミントン大会においても優勝という結果を残しています。

4、思い出

一番印象に残っている事は、やはり全日本レディース選手権大会の初優勝です。

理事長になって、選手たちを連れて大会に参加したときに感じたもの、それは他県とのあまりにもある格差でした。レディース連盟として強化練習の必要性を理事会で説明し、ステータスとなる強いメンバーがいることで、若い世代のレディース登録増加につながるということに賛同してもらい強化委員会を立ち上げました。

金子さん（金さん）にコーチをお願いするという形で、二人三脚の10年計画がスタートしました。（金さんにはコーチ、選手を兼ねた役割で随分苦労をおかけしました。）

当時は若い経験者がなかなかレディースに入ってこない時代で苦労しましたが、山田明子、大石瞳が連盟に入ってきて大きく前進しました。『優勝』をスローガンにして頑張って、結果が伴ってきたときの感激は忘れられません。活躍してくれたメンバー（山田明子、大石瞳、池尻昭子、金子正子、松山裕子、山田裕江、古賀ひとみ、光吉千佳子、有田珠美）に感謝し、レディース連盟が大きく一歩を踏み出したと思えた瞬間でした。

もう一点は平成26年度に、県レディース連盟30周年記念を開催したことです。その年は、クラブ対抗の大会を記念大会とし祝賀会も開催しました。県協会からは佐竹理事長、緒方総務委員長、米倉事務局長、小形理事、また歴代のレディース理事の出席を頂き、レディース連盟の歴史を感慨深く胸に刻みました。

5、これからの連盟

今年は理事長が交代し、新理事長に田中恵子が就任しました。新たな理事長の下で新体制が発足しました。レディース連盟は生涯スポーツをベースとして、更には頑張るメンバー達の後押しをして発展していくというスタンスを維持していくつもりです。

個人からの寄稿

オリンピアン　吉冨桂子

福岡県バドミントン協会70周年おめでとうございます。

福岡で育ちバドミントン一筋で小中高と過ごしてきました。私の思い出は、「久留米合宿」です。県の中高トップが集まり強化合宿をしたことが、振り返ると自分のバドミントンのレベルアップに繋がったと思っています。

福岡県は強い選手が沢山いてその中で切磋琢磨したことが私の原点です。

自分自身が福岡県出身としてバドミントン初のオリンピック選手になれたこと、北京オリンピック（末綱.前田ペア）、ロンドンオリンピック（末綱.前田ペア、藤井.垣岩ペアは銀メダル獲得）、リオデジャネイロオリンピック（山口茜）をコーチという立場で携われたことは幸せなことだと思っています。東京オリンピックはもちろん、その先のオリンピックを目指して今は福岡県出身である松山奈未選手のコーチをしています。私の高校の後輩である豊田まみ子選手も東京パラリンピックの出場、メダルを目指していますし、若い選手に自分が経験したオリンピックという最高峰の舞台に立ってメダルを獲得し福岡県を日本を盛り上げてほしいと期待しています。今はそのお手伝いとしてサポートしていくことが私の出来ることだと思っています。

最後となりましたが、今後の福岡県バドミントン協会の益々の発展を祈念いたしております。





オリンピアン　森　かおり



この度は福岡県バドミントン協会創立70周年、本当におめでとうございます。

私は北九州で育ち、バドミントンを始めました。たくさんの方の支えや応援があり、夢や目標に向かって頑張ることができたと思います。中学時代、初めての全国優勝を達成することができ、そこから大きな目標であるオリンピックへの意識も高まっていきました。高校ではインターハイ、選抜では優勝は叶いませんでしたが、唯一国体の少年女子で優勝することができ高校最後の試合を次への希望にすることができたと思います。

高校卒業後は大阪の三洋電機に入社し、実業団選手として約11年プレーすることができました。その中でも印象に残っている出来事はたくさんありますが、全日本総合優勝2回、アテネオリンピック出場、東京で開催されたユーバー杯などです。東京で開催されたユーバー杯は、自国開催というプレッシャーもありましたが1万人の観客の方に見守られ、たくさんの声援をもらいながらの試合は、この上ない経験をさせてもらえたと思います。選手経験の中で良かったこともあれば、もちろん苦しかったこともたくさんありました。ケガや病気にもなり思い通りに練習できなくなった時、精神的に誰かの支えが必要な時、家族や、地元の恩師、友人や本当にたくさんの方に力をもらったと思います。

年に1，2度、帰省出来た時しか会えない方々との時間は、ハードなトレーニングに耐えるための充電時間でもありました。特にオリンピックレース中は期間も1年と長期なので、いかに上手くリフレッシュして次の試合準備に入ることが大切なことの一つだったので、たくさん栄養をつけさせてもらったことを覚えています。

私にとって現役生活は本当に充実した日々を過ごせました。ひたすらシャトルを追いかけることができた時間は幸せでした。もちろん結果もですが、目標や夢向かって、強い気持ちで乗り越える力や、その過程が今を支えていると思います。

今、地元北九州でバドミントンに携わることができているのも、本当にたくさんの方の支えの中で生かされていることを実感しています。これから少しずつですがバドミントンを通じて出来ることで、何かお返しできたらと思います。

オリンピアン　栗原　文音

福岡県バドミントン協会70周年おめでとうございます。

これまでの競技生活を振り返ってみるとたくさんのことがありました。

一番大きな挫折。それは、右膝を怪我して、約2年間競技生活から離れたこと。私にとってこの2年は、今までに味わったことのない苦しさや不安、バドミントンができず先が見えないリハビリ生活が続く辛い日々でした。
しかし、怪我をしたことでたくさんのことを学び、改めてたくさんの方々から応援してもらい大好きなバドミントンを頑張れていることを感じることができました。

怪我をしてシングルからダブルに転向、そして今はミックスとして活動。新しい挑戦で活躍する自分を想像することができず、たくさん悩む日々が続きましたが、去年リオオリンピックに出場することができました。
小さいころからの夢であったオリンピック。まさか本当にこの舞台に立てるなんて想像もしていませんでした。オリンピックはやはり他の大会とは雰囲気も違い、こんなところで試合ができる喜びを感じながら戦うことができました。結果は5位入賞と今持っている力を出し切った結果であり、やりきった気持ちもありましたが、やはりメダルを取るのと取らないのとでは全然違うと日が経つにつれ感じています。

もっともっと強くなって、またあの舞台で次は自分が頂点に立てるように、日々成長していきたいと思います。









福岡県レジェンド
私のバドミントン人生

桶本　百合子

“光陰矢の如し” 高校1年生の夏休みに担任の勧めで、始めたバドミントン。今年で55年目！　思い起こせば、入部3ヵ月で初めて観た試合が山口国体でした。先輩達の白熱した素晴らしいプレーに感激し、衝撃を受けました。それから国体に憧れ、出場を夢見て厳しい練習に明け暮れました。



当時の国体は、成年男子は全県出場、教員、成年女子及び少年男女は九州で1県のみ。とても熾烈な予選会でした。

昭和41年社会人となり、初めて成年女子で大分国体に出場。2回戦で、当時の世界チャンピオン高木、天野組と対戦しました。技術力、体力等世界の壁をひしひしと感じ、自分に何が足りないのか真剣に考えたことが、昨日のことのように思い出されます。

昭和46年、大学でバドミントンを始めた夫と出会い結婚。共働きの傍ら、2児の母となり、時を経て昭和52年30歳、本格的に練習を再開しました。

この復帰にあたり、私は、三つの誓いを立てました。①目標を持つ　②己に克つ　③家庭を大切にする。 これは今も実践中です。

昭和53年復帰を果たした長野国体で、準優勝！思わぬご褒美を頂きました。上高地の見事な紅葉と共に今でも私の心に鮮明に焼き付いています。



昭和60年38歳まで選手として国体に11回出場し引退、翌年から成年女子の監督に就任し、50歳まで11回、何と計22回も出場を果たしました。

監督としての思い出は、やはり平成2年のとびうめ国体優勝です。これは選手、コーチは勿論のこと、「やれば出来る」を合言葉に福岡県協会が一丸となって勝ち取った栄冠でした。嬉しくて涙が止まりませんでした。

今、振り返るとこれらの経験の一つひとつが私の宝物です。

監督を辞した後、残りのバドミントン人生をゆっくり、呑気に楽しむ為に、全日本シニア大会に挑戦し、国内選手と交流を深めて来ました。これに加え、55歳から世界シニア大会に初参加。この大会は旅行がてら世界の愛好者とゲームを楽しみ交流を深めたいとの、私の夢でもありました。

今年の春、ニュージーランドで開催された世界マスターズ大会の参加で、数えて7ヵ国目となり、今年の夏はインドで開催の世界シニア大会出場予定です。





一方、足、腰、肩など何かと故障が多かった私が、ここまで続けて来られたのは、先生、監督、先輩、仲間との出会い、家族の支え、応援があったからこそです。これからも生涯現役を目指して、「諦めない・へこたれない・辞めない」のチャレンジ精神でバドミントン人生を楽しみたいと思います。

福岡県協会の益々のご発展を祈念いたします。ありがとうの感謝をこめて。

想い出（人との出会い）

元理事　小川　末子

福岡県バドミントン協会七十周年を迎えられお目出とうございます。

その歴史の中に、私がバドミントンと出会って50年余りの中の想い出が、沢山有ります。多くの友人を得、現在の健康維持にもつながっているのだと、近頃感じることしきりです。その中で感慨深い想い出を2～3述べさせて頂きます。

想い出1



第27回全日本レディースバドミントン選手権大会で（岡山県）予想に反して、嬉しい初優勝を果たしたことです。この大会のおかげで、岡山市に住む高校時代の友人と50年ぶりに出会えたことでした。

想い出2

個人的には第27回全国シニア大会会場、県立総合久留米体育館にての出会いです。
決勝戦が終わり、結果はシングルス優勝・ダブルス準優勝でした。腹ぺこの神奈川ペアと、お握りとお茶を分けあいました。因みに、体育館には売店が無く周囲にも有りませんでした。その時以来、大切な友人として付き合いが続いています。後の全日本レディース大会に（神奈川県）その友人から福岡県の選手へと、自家製の大きなお握りの差し入れがありました。美味しかったこと、嬉しかったことなどです。

想い出3

2012年には国際親善バドミントン大会にて、本部から声がかかり、国際親善大会で貴重な体験をさせて頂いたことでした。マレーシアチームの助っ人としてCゾーン（合計年齢266~288）ランクに参加したことです。早い話が、年齢が助けたようなものです。アマゾンチームの選手として、レセプションでは一緒に舞台で歌い踊り、大会ではフレーフレーマレーシアと叫んだり拍手応援したりで、十分楽しみました。結果は準優勝でした。国際親善を実践したよと言われ、嬉しい体験でした。キャプテンのTreena Loo さんとはFacebookの友達になりOgawa mamaと呼ばれています。心に残る出会いとなりました。

現在は大会の折に、顔をあわせ健康で参加できることに感謝しています。今やシニア大会も80歳以上の選手が増えました。ランクを作って欲しいと願っています。日本中に仲間を増やし生涯スポーツとしてネットワークを拡げていきたいと存じます。

選手達と夢を求めて４３年間の軌跡

岡垣ジュニアバドミントンクラブ
監督　池田　明男



福岡県バドミントン協会70周年、おめでとうございます。

私の年齢と同じぐらいで、親近感を感じました。

50年史を見ていると、昔お世話に成った方々の名前や写真が掲載れていてしばし、バドミントンの試合に没頭していた青春時代に戻りました。

野見山　弘次様が掲載していた「熱中の日々」の中に国体予選決勝戦で宿敵池田　明男（三菱化成）との激戦の記事があり懐かしく読みました。

野見山さんは全身痙攣で救急車で病院へ、私も痙攣が来て歩くことが出来なかった想い出が今でも鮮明に蘇ります。

この激戦を境にして、福岡県が遅れていたジュニア（高校生）の強化の方向に進み始めました。

八幡大学付属女子高校バドミントン部の部外コーチとして5年間教えて高城先生（現在樽野様）が赴任されましたので、私は住んでいる岡垣町で小中学生の岡垣ジュニアを立ち上げて、長年の夢だった小中高の一環指導が実現できました。

皆様もご存知の様に、八幡大学付属女子高校バドミントン部は全国制覇を何回も達成する強豪校に成りました。



平成22年12月19日（日）岡垣サンリーアイ・ウエーブアリーナ・開館10周年記念行事の幻の日本リーグの際

は多くの方々の協力のお蔭で大成功裡に終わりました。改めてお礼申し上げます。

夢のあるバドミントン競技にするためにリオオリンピックの女子ダブルスの金メダル・女子シングルスの銅メダルは最高でした。

2020年の東京オリンピックでも日本のバドミントン選手が大活躍して金メダルを取り国歌を聞きたいと期待しています。

その時は会場で思い切り感涙に浸りたいです。

毎年、全国大会で優勝することを目標にして岡垣ジュニアは練習をしています。その中でも日本一のクラブチームを決定する若葉カップはチーム一丸と成って男女アベック優勝を目指して選手・父兄・指導者・は頑張っています。

平成19年に男子団体で初優勝した時の文章を掲載します。

地域にバドミントン文化を根ずかせる為には100年後に文化に成っているか結果が出ると思っています。

後継者が育っていなければ文化は消滅して無くなって、昔はバドミントンが強かった時代があったが今は消滅しているよ・・・・昔話になります。

岡垣町の文化として生き残るために、毎年アジアバドミントンジュニアクラブ選手権In岡垣を岡垣サンリーアイウエーブアリーナで10月の体育の日の3日間で100チーム・選手500人が全国より小中学生選手が集まり盛大に開催しています。



今年で（平成29年度）18回目を迎えますのでパンフレットの表紙をみてください。

岡垣町の行事として地域に定着してバドミントンの町に成っています。

福岡県バドミントン協会と小学生連盟がジュニア選手拡大と育成、若手指導者の育成をしてバドミントンを盛んにしたいと思います。

そして、福岡県からS／jリーグの実業団チームが出来ることを期待しています。

永遠の夢追い人より

バドミントン歴70年を目標に！

宮若市　野見山　弘次

福岡県バドミントン協会創立70周年、誠におめでとうございます。

役員、関係者の皆様には、これまでのご尽力に深く感謝申し上げます。

私自身が、県協会に筑豊地区からの理事として係ったのが何時ごろからか、よく思い出せませんが、多分40代の頃ではなかったかと思います。

理事を退任したのが平成17年、60歳になった頃で、あれから12年過ぎ、月日の経つのに驚きさえ感じます。

［県協会での役割］

自分自身の技量向上と併せて、筑豊バドミントン協会の振興充実に事務局として携わり、地区選出の理事として県協会に席を置かせてもらいました。

とびうめ国体から10年近く遡った頃、当時の和田寿副会長より、「野見山君、指導委員会の委員長を引き受けてくれないか、熊本に追いつき追い越すよう、レベルアップを頼む！」と要請がありました。私は、指導者の経験はあまりなかったので、当時一般成年で強かったベスト電器の選手を中心に強化練習会を行いました。選手層の底上げを図るためには、小中学生からの指導強化が必要であり、この面では、上園先生や、横溝先生に委ね、一体となった強化は、その後の「強化委員会」、鎗水委員長、横溝副委員長以下委員の方々のご尽力によるもの大でした。その成果が「とびうめ国体」で花開き、今日に至っているものと思っています。

［競技生活を振り返って］

大学に入って部活でバドミントンを始め、現在も地元で普及指導にラケットを握っており、バドミントン歴は55年になります。

20代から30代前半までは県内トップ選手を目指し、直方市体育館等で週4、5回練習し、20代後半になってようやく念願の国体にシングルスで出場することができた。

忘れもしないのは、青森国体の県予選、シングルス決勝戦で、当時三菱化成所属の池田明男氏（遠賀郡ジュニア指導功労者）と、3セット1時間半に及ぶ試合を真夏の体育館で行った。ラケットを持つ指が攣り始め、次に脚にきて、最後は全身痙攣で黒崎年金病院に救急車で運ばれた。当時は水を飲むのを控え、レモンをかじりながらの試合で、技量が同じのときは消耗戦になり、ついには脱水症状となったもので、翌年からの試合は、できるだけ水分補給を心がけたものです。

昭和47年、28歳の時、長崎での第18回全九州社会人大会に、シングルスで運よく優勝することができました。（前年優勝の実力者、熊本の工藤勇参氏が不出場。）その時の決勝戦の羽根を今でも大事に保管しています。

勤務が県立学校、県教委事務局だった為、県教職員連盟の大会にもよく出場し、故村尾隆氏，都英幸氏，故中島政人氏，鎗水浩吉氏等と合宿等で痛飲，親睦を深めた。

鎗水先生とは、40歳になって直ぐの全日本教職員大会40歳代ダブルスで優勝し、祝勝会を、浮羽郡吉井町のスナックで行い、飲み明かしたことを覚えています。60歳になって、福岡市で“ねんりんピック福岡バミントン大会”が開催され、鑓水浩吉氏や廣瀬勇夫氏等と福岡県チ ー ムを組み、団体優勝したことも良き思い出です。

鎗水氏とまたダブルスを組み、練習不足で脚が掬離れ状態になりかけたが、何とか全勝し、優勝に貢献できました。

［現在の活動状況］

私の居住している宮若市では合併後、総合型地域スポーツクラブを設立し、現在理事長として地域スポーツ、生涯スポーツの普及に取組み、8 年が経過しました。10教室の内、二つのバドミントン教室を担当し、午前中、金曜成人教室と土曜親子教室を受け持って、厳しく楽しく指導しています。この他に木曜と土曜の夜、クラブ練習で汗を流しています。

3年前から人数を寄せ集め、県民体育大会壮年男子の部に出場していますが、40代の相手方と当方6、70代のメンバーでは如何ともしがたく、まだ1回戦未勝利です。参加選手の中では最年長かもしれませんが、もう1，2年頑張りたいと思っています。

バドミントン以外に、定年退職後始めた油絵や、歴史文化講座にも通い、地元老人　会の会長としてグラウンドゴルフの普及などもしています。また、月に1,2回「日向ひょっとこ踊りの会」で老人介護施設などを訪問しています。

年齢が進むに連れ、骨、筋肉が硬くなり、健康維持のためにも努めて体を動かすことが必要で、バドミントンを続けていることが自分にとっては大切な事と考えています。

バドミントン歴70年を目標に、これからも、日々“あご”と足を動かし続けていきたいと思っています。



一昨年、子供バドミントン教室の生徒達と

バドミントン人生を振り返り

元理事　濱司　晃

福岡県バドミントン協会創立70周年おめでとうございます。

大学1年からバドミントンを始め、精華女子高校教員を退職するまでの48年間バドミントン一筋で生きてきました。その間、協会の方々に御指導・御協力頂きありがとうございました。

現在はバドミントン人生を振り返り、たくさんの思い出を肴においしいお酒を飲んでいます。その中で、引退した今だからこそ話せることを述べさせていただきます。

38歳で精華女子に赴任しクラブを立ち上げようとしましたが、許可がもらえず翌年同好会として発足しました。学校の体育館は使えず、未経験者8名で主に廊下・階段・空き地でのトレーニング・素振り・フットワークそして屋根からつるしたシャトル打ちなど工夫し、早く試合に出られるよう地区大会などを見学にも行きました。体育館での練習は週1回8㎞離れた精華短大だけでしたが、その内2～3㎞離れたベスト電器や南区の体育館も時間制限で少しずつ使わせていただけるようになりました。私自身も生徒と一緒にラケット・靴・シャトルなどを持って、雨降りの時などは濡れないようにシャツの中に入れて往復走りました。

また、学校からベスト電器までのコースには九州一の歓楽街中洲があり、そこを夏は短パンやブルマで走り抜けていました。元県協会理事長の横溝先生から、ブルマでの試合はいかがなものかと優しく指導されたこともありました。


同好会発足2年目

クラブ活動での大きな悩みは、体育館とシャトルの確保でした。学校からの部費は同好会のため僅かしかなく、シャトルは年間10ダース程度。協会や沢山の方々から試合や練習で使用したシャトルをいただき一球一球宝物のように大切に使い、最後に糸・ボンド・ロウなどで修理して再度使用していました。

そんな努力が少しずつ実り、翌年の新人戦で地区大会優勝・県大会2位で九州大会に出場しました。クラブ活動を経験したことが無かった子ども達にとって夢のような沖縄での4日間でした。今でも時折、子ども達（現在50歳）と思い出話をしながらお酒を飲んでいます。



インターハイ初出場時の集合写真S62

その後も練習を重ね全国大会に出場し、平成4年度からは入賞するまでになり、遂に平成9年度全国選抜団体優勝・平成11年度インターハイダブルス優勝を成し遂げました。


H4高校選抜初入賞（吉冨岩本）

その時の実業団の選手達からの褒め言葉は「しつこい」「どんくさいけど粘り強い」などでした。私は優勝したのだから「上手だとか格好いいとか言ってくれよ」と笑いながら話したのを覚えています。確かに、団体もダブルスもほとんどファイナルで勝ち上がっていました。
「精華は試合が長い」「運営者泣かせ」等とも言われていました。体育館が十分に使えなかった分トレーニングは他校に負けていなかったからだと思います。まさに口癖の「やったぶん必ず返ってくる」でした。

この優勝でテレビや新聞にも出たおかげで、学校の体育館も週2日使えるようになり部費も一気に上がりました。体育館で新品のシャトルを使った練習も十分にできるようになりましたが、その反面ランニングなどのトレーニングは減っていきました。校内にシャトルが落ちていたりする事もありました。

当初はほとんどが校外での練習だったため、私も責任者として最初から最後まで生徒と一緒でしたが、いつの間にか練習メニューだけを与えて冷暖房の入った職員室で仕事をしたり、お茶を飲んだりする時間が増えていました。

そして、この優勝を最後に二度と全国の賞状を手にする事はありませんでした。賞状どころか団体で出場することさえなくなってしまいました。これは偶然だったのでしょうか、それとも必然だったのでしょうか。

子どもの頃聞いた名言で、武将の山中鹿之助が三日月に向かって「願わくは、我に七難八苦を与えたまえ」と祈りながら武功を上げた事を思い出したりもしています。

最後に、県協会から身に余る表彰をしていただくことに心からお礼申し上げるとともに、福岡県バドミントン協会の今後益々のご発展をお祈り致します。



H4高校選抜集合写真


毎年恒例の成人式の祝い

指導委員会の思い出

元指導委員長
上薗　幸則

福岡県バドミントン協会創立70周年おめでとうございます。福岡県バドミントン協会をを創立し、そして、今日まで発展させて下さった方々に感謝いたします。

中学校での勤務を退職しバドミントンの指導を離れて10年になろうとしています。学生時代にバドミントンをしていたことで、中学校での部活動指導はバドミントン部を担当してきました。中総体にバドミントン競技が入った昭和55年以降は市・県・九州の専門部長、そして県バドミントン協会指導委員長とバドミントンを通して部活動で指導した子どもたちや、県下の指導者との交流を通して貴重な体験や思い出を得ました。

指導委員会は各地区代表、中体連、クラブ指導者などで構成し小中学生の強化と指導者の育成を担当しました。指導委員長をしていた時の思い出は多々ありますが、県教育委員会補助による久留米大学での高校生合宿に中学生段階からの強化をめざして、各地区から選抜された中学生も2泊3日の合同合宿に参加させることとなりました。当時、筑豊地区のレベルが高く選手選考に苦慮し、また、高校生のレベルについていけるか心配しました。中学生にとって強化合宿は高校生のプレーを見たり、いろいろな練習法、高校生と同様な体力づくりなど良い刺激になりました。その後、県バドミントン協会による中学生を対象に各地区男女4名（32名）が参加する1泊2日の合宿を的場池体育館で始めました。合宿に参加することを通して選手強化はもちろんのこと、指導者の情報交換にもなりました。小学生の強化は九州大会出場者対象に選抜しての強化練習会を行っていましたが、ジュニアクラブでの日々の熱心な指導やクラブ間の切磋琢磨により、九州大会や全国大会でも上位の成績を残せるようになったことはジュニアクラブ指導者の努力があったからです。多くの方々に支えられてジュニアの指導・強化を行うことができたことを思い出します。

平成10年頃バドミントン指導の向上を目指して、横溝理事長より福岡県でも日本体育協会C級指導員の養成講座を行おうということになりました。県下から約10名の参加で、基本的内容としてNHKの通信教育で、「地域スポーツ指導者基礎科目教本」による社会体育概論、スポーツ心理学、指導論など40時間分の講座内容のレポートを提出し添削してもらう研修でした。時間に追われたことを覚えています。専門科目40時間の内容は基礎理論、実技、実技指導です。動的ストレッチの仕方やテーピング実習などの演習やバドミントン実技、審判、小中学生への実技指導を行い、約3カ月間、土・日曜日を活用しての研修で、全員がC級指導員の資格を取得しました。当時、福岡県ではバドミントンの指導に関する認定資格者はいない状況で、初めての試みでもありました。

県バドミントン協会や中体連でのバドミントン指導や各地区の指導者との交流を、自分の学校や地域に持ち帰り、中学生の練習法、部活動の在り方、未経験の部活動指導者への助言に生かしたことは貴重なものとなりました。

福岡県バドミントン協会創立70周年を節目として、これまで多くの方が築かれたものを受け継ぎ、福岡県バドミントン協会がさらに発展することを願っています。



（写真）最後の勤務校である能古中学校(校長)で福岡市バドミントン大会で大会終了後、
生徒・保護者全員での記念撮影(平成21年7月)
後ろは平成17年に全国中学校バドミントン大会に出場した時に作成した
「基本こそ最大の武器なり」の横断幕

たかが50年　されど50年

柳川市バドミントン協会
会長　古川　憲一



S42年4月、福岡教育大学に入学し、初めてバドミントン競技と出会う。なぜバドミントンを選んだかというと、高校時代の友人2人（九州大学）と、「大学で、3人とも高校でやっていないもので競い合おう」と約束し、結果バドミントンを選んだのでした。

当時の教育大学は、女子は熊女大、長県女短大と九州一を争うほどレベルが高かったのに比べ、男子は初心者がほとんどで、県内リーグでも下位をウロウロするぐらいでした。また、当時はラケットの重さは140g前後の、フレームが木製のラケットで常に力一杯打つことだけを考え、現在のような軽やかなフットワークやハイバックなどという打ち方は、大学3年時に、当時九産大の松浦さんから教えてもらうまで見たこともなく、先輩からは「『ラウンドザヘッド』で打つように動け」としか言われず、とにかくコートの中を駆けずり回るというやり方でした。当然のごとく、成績も芳しくありませんでした。大学時代の一番の思い出は、確か大学1年の冬に、カワサキのフレームからシャートまで真っ白のスチームラケットが発売され（記憶では千円だったと思います）、新天町のミタカスポーツまで買いに行き、「これで毎日プレスをしなくて済む」という嬉しさを感じたことでした。

二つ目は、4年冬の福岡県学生リーグ（団体戦）で唯一の3位入賞の賞状をもらったことです。大学4年次には、一学年下の川口（主将）、上薗（副将）と1年生の松尾（唯一の経験者）がおり、なんとか3位になりもらった賞状を居並ぶ女性陣の賞状を押しのけて、部室に貼っていたことです。

このように、大学時代は戦績もなく坂道ダッシュだけが得意だった2年時の新人戦前合宿は、超苦手の長距離を避け、毎朝大学裏の城山昇りをやりました。後輩達には不評でしたが、3年（主将）時の、福教大バドミントン部唯一校外で行った唐津合宿とともに、自分には懐かしい思い出です。

S46年4月、北九州市立槻田小に奉職することになり、夏休みに車の免許をとり週2～3回、野見山さんを頼って直方クラブの練習に参加させてもらいました。というのは、5月に教育大先輩の村尾さんから、「八幡区の大会があるから出るぞ」と言われ、練習もあまりしていなかったので、しぶしぶ大会に出ました。会場は安川電機体育館だったと思います。

当時の北九州では、門司では北九州市役所、小倉では住友金属、八幡では三菱化成の社会人チームがとび抜けていて、それ以外の人たちで活躍されている方はあまり居なかったと思います。その大会でまだ若かったおかげか、三菱化成の池田さん、川野さん、佐藤さん、佐久間さんたちと試合をすることが出来たうえに、何人かの方には勝つことが出来たと同時に、最後は完全に疲れ果てて、かろうじて家に帰ることが出来たのでした。そのことがきっかけで、教職員チームの一員として頑張ろうと思ったわけです。当時の教職員は、都英幸、中島政人（二人とも教育大卒）、野見山弘次（山口大卒）、鎗水浩吉（北九州大卒）の四天王が君臨し、その牙城を崩すために頑張っていたようなものです。しかし、その壁は厚く卒業後3～4年ぐらいはかかったと思います。

また、毎年夏には全国教職員大会に参加させていただき頑張ってみましたが、関東・関西の大学出身者（特に学生リーグ経験者）には勝つことが出来ず、「20代がダメなら30代で、30代でダメなら40代で」を腹に決めて、バドミントンを何とか続けていこうと思ったものです。しかし、持って生まれた性分か、30代で唯一賞状をもらえたらすぐに「ま、いいか」ということになってしまいました。（我ながら情けなしです）

S48年南小倉中学校に赴任しました。当時としては珍しく部活動としてバドミントン部があり、第一期生の部員をはじめ、ほとんどが中学校からバドミントンを始めた生徒であり、市内大会もなくいきなり県大会に参加していたように思います。現在のバドミントンの盛況を考えると、本当に夢のような感じです。それでも当時は男子15～20名、女子20～25名の、学校の中でも部員数の多い部でした。まだ自分も若かったこともあり、「定年坂」と呼ばれる通学路入り口から校門までの約100mの坂をダッシュしていました。ほとんどが校内での練習が多かったのですが、時々ある試合会場では親しくなった住友金属小倉の片山さんや福本さん（潮田さんの指導者）から中学生達へ教えていただくことができるようになるとともに、会社の体育館で練習させてもらえるようにもなり、中学生達も少しずつ上手になっていったような気がしますし、中学卒業後も高校、大学、社会人でバドミントンを続けていってくれた教え子達もおり、県民体育大会をはじめ、県内の大会で思わぬ再会を果たしたこともあり、バドミントンでの出会いに感謝したものです。

S51年4月、柳川市内の学校へ勤務することとなりました。そして、都先輩が始められた各小学校区（当時の山門・三池郡）や柳川市のバドミントン教室の手伝いをすることになり、毎週2会場ぐらいを回って「バドミントンを知ってもらいたい」という気持ちで教室生の人たちに話

をしていました。同時に「三橋クラブ」を発足させ、大学後輩の泉（幸博）、梅崎（雄二）や高校後輩の目野（幸光）、古賀（蔵）、島添（静治）、荒木（秀文）、目野（俊昭）たちと、当時としては珍しい床がゴム製の三橋中学校体育館で練習していました。母校の山門高校は当時はインターハイ出場を誇っている実力があり、上記以外の高校生達も試合前になると、監督の上村先生に叱咤激励されながら練習に来ていました。三橋クラブとしても、筑後地区では、うきは、久留米、大川、大牟田の各クラブに負けないほどの成績をあげることができました。殊に先輩である故中島政人氏を偲ぶ中島杯では、団体戦となった当初は優勝を飾ることができ、先輩への恩返しができたと思ったほどです。さらに、各地の大会に呼んでいただき、たくさんの友人ができたことで、現在もいろいろな所で声をかけてもらえる幸せを感じております。

このように自分自身のバドミントンプレーヤーとしては誇れるものはありませんが、多くの方々と出会い、現在、柳川市バドミントン協会会長という要職に就かせてもらい、感謝の気持ちを忘れずに、これからもバドミントンと関わっていけたらと思います。

日本野外バドミントン協会設立について

福岡教育大学　名誉教授　秋吉　嘉範



昭和35年4月、福岡大学教授から「協会を設立したい。ついては、君の軽スポーツ活動の一環として、野外でできるシャトルコックを試作したので、使用して欲しい。」と言われた。

そこで、野外活動用のシャトルコックを使って、福岡女学院の中学校、高校で使用した。また、国立中央病院（現九州医療センター）付属看護学院でも使用した。その結果、大体試合ができる。強風でなければ良いゲームができることがわかった。

西園先生に報告した。先生は、元福岡県教育委員会体育主事（現体育スポーツ健康課長）であったので、福岡市を中心に県体育協会の組織を通して、参加者を募った。福岡市呉服町のレストラン「ミタカ」において参加者約百名で設立総会を開き、会長に西園富吉、理事長に秋吉嘉範、理事に音成彦治郎、今雪美千恵ほか5名で発足した。

以後、西園会長が死去されるまで約6年間継続し、活動した。

バドミントンとの出会いから

春日市バドミントン協会　奈須　純子

私とバドミントンの出会いは高校時代にさかのぼります。

中学生の時、スポーツ特待生制度で受験した学校で出会ったのがバドミントンでした。 へえ～バドミントンって結構ハードスポーツなんだ！という印象でした。『バドミントンクラブに入らないか？』という先生の誘いに乗って軽い気持ちで始めてから、早42年。長きに渡る私のパートナーになっていました。

当時のクラブ活動は、今とは全然違います。まず、水を飲んではいけない。先生からの、体罰・怒鳴られるのは当たり前。太腿にはラケットのグリップで叩かれた紫色の跡がいつもついていました。今の時代だったら、虐待ものですが、ど根性スポーツの時代、当たり前でしたね。もちろん、親に言いつけたりしません。3年間は、特待生なのでやめるという選択はありませんでした。今思うと、バドミントンが私と一緒に歩いているのは、あのきつかった3年間があったからだと思えます。

遠征試合や合宿は、強烈な思い出として残っています。湯木博恵さんや銭谷欽治さんが憧れでした。

高校卒業後は、バドミントンから逃げるようにして、別の道へ。主人の転勤で台湾に住んだことがあります。子供達は日本人学校に通ったのですが、学校のバドミントンクラブ活動のお手伝いを頼まれて指導する機会を頂いたことがあって、私ってバドミントン好きだな！と、気ずかせて貰いました。それからは、健康に楽しめるバドミントンを目指して今に至ります。

現在所属するクラブは、まさに健康と友人作り、何よりバドミントンが楽しいと集まってくれた仲間による、名前も『たぬきクラブ』といいます。年齢も、高校生から70歳代まで同じコートで汗を流します。嬉しいことに、転勤で県外に行った方も、里帰りの折は、ラケットを持って遊びに来てくれます。いつも、Well Come ！ です。今も、定年退職してスポーツを始めたいと入部した方がいます。みんなの笑顔が、明日の活力になっていると感じます。これからも、一生の友として、バドミントンを続けていきます。

後記

高校のバドミントン監督には、感謝しています。ちなみに、北京オリンピックで頑張ってくれた末綱さんは後輩になります。私が高校生の時は、生まれていませんが、同じ先生の指導を受けて来た事に、歴史を感じます。有難うございました。

私とバドミントン

北九州市バドミントン協会
後藤　泰男

私がバドミントンと出会ったのは66年も前のことです。安川電機に就職して初めてバドミントンというものを見たときには、私には羽根つきにしか見えませんでした。

当時は社内の同和会堂という床が石タイルで出来たドームの中でやっていた。なんだか簡単で面白そうだなと思って最初は好奇心で入ったら面白くなってやみつきになりそれ以来バドミントンが離れなくなった。当時は靴もあまり良いものがなくすぐに底が減るので石タイルの上を裸足で無我夢中になってしていました。

ところが4年くらいたってこの同和会堂が社内の食堂となり、社内でバドミントンをする場所がなくなりました、さあ大変です。その当時はまだどこの企業も体育館を持たない時代だったので近くの小学校の講堂を借りたり、中学校の体育館を借りたりして練習をしていました。当時唯一朝日新聞社が小倉の砂津に4面のコートを持つ体育館を持っていたので朝日のバド部の人にお願いして使わせていただくことができました。会社帰りに週2回練習のため1年間通いました。

昭和32年に待望の安川体育館が会社から15分程歩いた場所にできました。それからは週4日会社帰りに門限の9時までみっちり練習に励みました。おかげで第9回（北海道）と第11回（兵庫）と2回国体に出場することができました。

当時は今のように車のない時代でしたので、久留米、熊本等に試合に行くのも列車に乗って行ってたので旅行気分で大変楽しかったです。

安川のバドミントン部を引退後は家の近くで小学校のPTAのバドミントン大会があるのでコーチをしてくれないかと話があり、これを機会に八児クラブを立ち上げ、以後現在に至っておる次第です。親が子供さんを連れて来ていたのでそのうちジュニアも面倒を見るようになり大人のクラブと子供のクラブを見るようになりました。

65歳を過ぎるころより体力の衰えを感じるようになりましたが、現在では自分の健康を維持するためにも続けております。今後も体力の続くかぎり市バド協会や八児クラブでバドミントンにかかわって行きたいと思っています。

お祝い

太宰府市バドミントン協会
萩尾清隆

福岡県バドミントン協会、創立70周年おめでとうございます。

私は、太宰府市バドミントン協会の役員をしていたとき、平成25年・26年度の2年間、福岡県バドミントン協会に理事として在籍させていただきました。在任中は皆様には、大変お世話になり、ありがとうございました。

私は、現在51歳になり、週4，5回バドミントンを楽しんでいます。色々な職種や学生、国を越えて中国の方ともラケットを交え、人間関係の輪も広がりました。また、今思い起こせば、幼い時に忙しい両親と唯一遊んでもらったのも、小学校の必修クラブも、中学の級友と何気に入った高校の部活も、結婚のきっかけもバドミントンでした。バドミントンは、今までの自分の人生の大部分を占めるようになり、これほど深く関わるとは思いもしませんでした。

在任中の思い出は、国体予選で関係者として、試合に立ち会うことができたことです。その時に、選手のハイレベルな試合を間近にみて驚かされたことです。また、理事会で福岡県選手の活躍の報告を聞いたり、総会で、全国大会等レベルの試合で、優勝や、活躍された選手の表彰式があり、その時に幅広い年齢層の方々を拝見し、福岡県のレベルの高さ、層の厚さを痛感したことです。本人の努力は、当然ですが、日頃、裏方で、サポートをされている、協会の皆様のご尽力も大いにあると思います。

これからも、福岡県バドミントン協会の発展と皆様の活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

バドミントン協会の役目

（あくまでも個人の感想です）

福岡県教職員連盟理事長
日高　義治

以前、理事として福岡県バドミントン協会の仕事に携わった者としての所見。

多くの人はバドミントン愛好者の一員であっても、それぞれの競技活動にどれだけ各バドミントン協会（以下

「協会」）が関わっているか考えることはあまり無いと思う。毎週クラブに通い、数時間のゲームを楽しむことができれば良いので、そこに協会が関わっていることに気付かないことは仕方ない。協会は、競技者が皆平等にバドミントンを楽しむために職務を遂行している。その中からいくつか紹介したい。

【協会の役目】最新の競技規則を周知すること

バドミントンを平等に楽しむためには、そこにルール（競技規則）が必要となる。このルールは頻繁に変更があっている。サービスフォルトに関しても何度ルールが変更されてきただろうか。この最新ルールを周知することが協会の役目でもある。これは簡単なようで案外難しい。クラブしか通わず、現在のルールで充分に楽しめている競技者たちに新しいルールの必要性は存在しない。ラリーポイント制が導入されたとき、新旧のルールが混在した期間はずいぶん長かった。今ではサーブ権など死語になっているが、当時は「ラリーポイントは分かりにくい。今までで充分だ。」という意見が主流となっていた。今のルールで充分に楽しんでいる競技者集団に、新ルールは必要ないのかも知れない。しかし平等に競技を楽しむためには常に新しいルールは必要だと思う。

【協会の役目】バドミントンの楽しさを広めること

最近はオリンピックをはじめマスコミに取り上げられることが多くなったが、バドミントンが室内で行われていることすら知らない人が多かった時代もある。バドミントンは「マイナー競技」と言われ、「バトミントン」と表記されることも多かった。（今でも残っている？）バドミントンはおもちゃ売り場のバトミントンセットなるものを購入し、広場で楽しむものだと…。広く、バドミントン競技を普及するためには看板選手が必要となる。「オグシオ」、「タカマツ」など、最近の傾向が面白い。他の競技ではダブルスペアの呼び名をそのように表現することはあまり無いので、ある意味バドミントンダブルスの特権を得たと思う。看板選手を育成するために協会は多くの活動をサポートしている。その成果が出てきて「マイナー競技」から「メジャー競技」へ移行しつつある。普及と強化は裏表一体と言えるのではないだろうか。

【協会の役目】大会の企画・運営などを行うこと

クラブレベルでの大会も少なくないが、日本協会のオフィシャル大会をはじめ、各協会主催の大会もぜひ参加していただきたい。「全日本○○選手権」はレベルが高いと思っている人も多いが「福岡県○○選手権」や各地区の大会は多くの参加者を待っている。そのような大会を運営するメンバーはやはり協会の力が必要なのではないだろうか。自分の競技力を高めるためにも、ぜひ上を目指してチャレンジしてもらいたい。

私事で申し訳ないが、社会人になってからバドミントンを始めた1人として、クラブレベルの初心者大会から始め、今では全国レベルの大会にも参加させてもらっている。全国の方と知り合うことはとても楽しいひとときでもある。この楽しさをお勧めしたい。

【協会の役目】大会運営では「公平・平等」を守るべき

ここからは、特に協会の方に読んでいただきたい。地元で行われる全国規模の大会では、ホームの地の利を活かして応援等が過熱するが、運営側はあくまで公平でなければならない。本部席から拍手したり、大会役員のウェアのまま応援していたりする姿は遠方から参加した選手にとても失礼である。以前「全日本○○大会」で審判員をしていたとき、福岡県の選手が決勝に進出したことがある。審判員の服を着替え観客席に移動してから応援した。小さなことでなく、審判員として公平・平等を第一に考えているならば当然のこと、簡単なようで意外とできていない部分である。

【協会の役目】コンプライアンスの推進を徹底すること

これを読んでいる方は、自分自身がどれだけネットにアップされているかご存知でしょうか。驚くなかれ、自分が出ている試合が勝手にアップされそれを消すことは不可能に近い（検索できていないものもたくさんある）。ネットは便利だが、良心的な人だけが閲覧できるものではないことを再認識しておくべきである。肖像権は条例等で保護されているはずだが、社会のルールがまだ不完全なまま技術が先行してしまったためこのようなことが起こる。学校現場では、入学時に学校ホームページへの掲載の可否を保護者や本人から確認書をとって掲載している。特に年少者や女性は犯罪のターゲットになる可能性も高く、名前と写真の同時掲載は本人が許諾していても慎重に行うべきである。未成年は本人だけでなく保護者への確認も必要であり、協会が協会ホームページに勝手に写真を掲載してはいないだろうか。犯罪が起こらないように、個人情報を守る協会運営に対ししっかりと研修すべきである。

【協会の役目】選手の権利や人権を守ること

予選会を含め選手選考を必要とする大会がある。協会は選手選考に対し予め選考基準を示してから予選を行うべきである。大会（選考試合）が終わってから選考基準をどうするかなどと考えることは間違っている。年によって基準が変わっていたりなどが現実的に起きている。また、一部の協会では指導者や参加者同士の好き嫌いで選んでいる場合もある。本来、協会が守るべき選手の権利を協会自身が剥奪していることに気付いているだろうか、協会は選手の人権を守ることに関してもっと研修すべきである。

バドミントンへの思い

バドミントン愛好者　浦川　周一

一人のバドミントン愛好者として、70周年記念誌に投稿する機会を与えていただいた、福岡県バドミントン協会の方々に深く感謝いたします。

私がバドミントンに出会ったのは50歳を迎える時で、クリニックを開業して2年ほど経った頃でした。クリニックの狭い空間の中で過ごすため、運動不足になり、体重増加が顕面に現れ、糖尿病、高脂血症、高血圧症と成人病が発症しており、医者の不養生では済まされない状況に陥っていました。何か運動をしなければとの思いはあり、自転車での通勤もしておりましたが、車の快適さにはいつも負けていて、悶々とする日々を送っていました。好きな時間に、雨風に関係なく、効率的にカロリーを消費し、かつ楽しいスポーツは何かと模索する時、新聞のチラシに“バドミントンを教えます～教室を新たに開催しました～”との一文を目にしました。場所はベスト電器の体育館、時間は水曜日の午後と記されていました。水曜日の午後はクリニックを休みにしていたので、自分の空き時間とピッタリと合い、何か不思議な縁を感じました。その頃のベスト電器は日本リーグ一部で、現役のトップクラスの選手も所属していました。水曜日の午後は聞くところによると練習が休みで、その休暇時間を利用しての教室だったようです。しかしウィークデイの午後とのことで、参加者は私と女子大生の二人と閑散としていましたが、この環境のおかげでトップクラスのコーチを独り占めにできたことは、今から振り返れば贅沢なことでした。練習はフットワーク、ステップから始まり、パターン練習、ノックと基礎練習のメニューです。試合はほとんどしません。このベスト電器の基礎練習が私のバドミントンの原点となりました。

バドミントンの特徴は自然の素材でできた非対称シャトルを使っていることです。高く打てば鳳が大空を飛ぶように綺麗な飛翔となり、強く打てば鷹のように鋭く急降下する。優しく打てば小鳥が囀りながら舞い降りてくるように微細な動きになります。羽の重なる方向が決まっているので、順カットと逆カットでは軌道が微妙に異なります。シャトルが天然素材であるからこそ見られる多彩な動きを表現します。このシャトルを集中して打つと、初心者でも10回以上ラリーを続けることができます。このラリーが続くときは楽しさが倍増します。ネット競技で一番ラリーが続く競技です。試合で長いラリーの末に決着が付くと、勝利の喜びよりも何とも言えない充実感と相手に対する尊敬respectを感じます。勝ち負けよりスポーツに対する満足感に浸ります。これは長いラリーができるバドミントンでしか味わえない魅力でしょう。

このバドミントンの魅力に虜になった私が次に始めたことは、バドミントンを観ることです。日本リーグの観戦に富山まで行き、トマス杯ユーバー杯を見に東京まで行って、実業団とオグシオを見に八代まで行ったりしていました。これだけでは飽き足らず、バドミントンの入門書、指導本、DVDを全て購入し、ノックマシーンを購入し、基礎練習を定期的に行いました。このおかげで少し上達し、市内のバドミントンクラブに参加できるようになり、今は沢山のクラブに出入りするようになりました。ただこれだけでは満足せず、今度はバドミントンの大会を開こうと考え、夏の時期にバドミントン愛好者を集めて100人規模の大会を主催するようになりました。この催しは今年で8年目となり私のライフワークとなりました。今ではバドミントンにどっぷりと浸った生活をおくる毎日となり、バドミントンが人生の一部、生涯スポーツとなりました。

生涯スポーツは人生を豊かにします。若い時に熱中したスポーツに限らず、中高年になってもプレーできるスポーツがあると、老化を防ぐだけでなく、そのスポーツを通して社会的な繋がりができます。肉体的にも精神的にも支えてくれる生涯スポーツは人生の宝物です。私はバドミントンを天から授かった宝物として大切にしています。

ブルタンキス福岡の紹介

ブルタンキスBulutangkisとはインドネシア語でバドミントンを表す言葉です。インドネシアの国技はバドミントンですので、日本で言えば大相撲になるでしょう。そのお言葉をお借りして、ブルタンキス福岡と厚かましく名乗っております。基礎打ちしか練習しないちょっと変わったクラブです。月に2,3回程度、気が向くときに不定期に基礎練習をしています。また年に1回夏の暑い最中に九電体育館で 、“お盆バドミントン涼会”と称して、バドミントンの交流親睦会を行っています。100人ほどのバド愛好者が毎年集まります。この催しも少し変わっていて、ただひたすらに涼しい所で丸一日バドを楽しみます。順位とか優勝とかはありません。リーグ戦もトーナメントもありません。老若男女が参加され、一番多く試合して楽しんだ方が主役です。この8年間続いておりますので、お盆前にネットで“お盆バドミントン”で検索して、是非ご参加下さい。



バドミントンとの出会い

福岡県バドミントン協会
監事　伊藤 龍峰



私は50歳前後の頃にバドミントンと出会いました。現在は65歳ですので15年の経験者となります。15年間というバドミントンの経験年数が長いのか短いのかは分かりませんが、バドミントンを始めたことで、多くの友人や貴重な体験等を得ることができたと感謝しています。

バドミントンを始めた切っ掛けは、それまでの不摂生が祟り生活習慣病を患ったため、医者から「何か運動することを生活の中に取り入れなさい。」と忠告されたのが発端でした。確かにそれまでの私は職業柄デスクワークばかりで、しかも、通勤には車を使っていたこともあり、生活の中で身体を動かすということはなく、たぶん、必要最低限の動きで生活する状態が長く続いていたのだろうと思います。バドミントン愛好者の中には、私と同じような切っ掛けでバドミントンを始めたという方も少なくないのではないでしょうか。私の場合は、たまたま、妻が地域のバドミントンクラブに所属していた関係でバドミントンをやってみようと思い立ったのですが、そのバドミントンクラブが私にとって居心地の良いクラブだったこともあり、現在もバドミントンを楽しんでいます。生活習慣病も次第に改善に向かい、改めてバドミントンを始めて良かった思っています。

ただ、バドミントンについて後悔していることがあります。初心者だった時に経験者から適切な指導を受けずに我流のままやってきたため、変な癖がついたバドミントンスタイルから抜け出せずに未だに上手くなりません。これは謙遜でも何でもなく、本当に下手の域から抜け出すことができずに、練習の度に反省しきりです。ましてや、私は、週1バドミントンですので、変な癖を矯正することもなく、汗を流す心地良さやバドミントン仲間達との練習後にときどき集って飲む機会を最大の収穫物として楽しんでいるのが現状です。上手くなる訳がありません。

私の明らかな弱点はフットワークだと思っています。頭の中では華麗なフットワークでシャトルを負っているイメージを持っているのですが、実際はコートの中を前後左右にバタバタと走り回ってシャトルをかろうじて拾っているのが現実です。ある時、経験者から耳が痛いことを言われたことがあります。「伊藤さんは、以前と比べて確かにシャトルを拾うようになりましたが、決してバドミントンが上手くなったのではないと思いますよ。ただ、シャトルに慣れてきただけで、フットワークやラケットさばきが上手くなった訳ではありません。」と。バドミントンの経験者であれば、この言葉の意味するところは自明のことだと思います。云い難いことをズバリと言ってくれたことは有難たかったのですが、ズバリと本質を突く言葉に若干の心の凹みも感じたものでした。

ただ、せっかくの助言をいただいたにもかかわらず、今でも同じバドミントンスタイルでまったく進歩がありません。最近はこのような助言をしてくれる経験者もなく、仲間達は、私の上達を諦めたのかもしれません。しかし、相変わらず私のようなレベルの低いバドミントン愛好者にお付き合いいただいている仲間達には本当にお礼を言いたいほどです。

バドミントンに限らず、何事も基礎が大事であることは言うまでもありません。15年もバドミントンを続けているにもかかわらず、このような状態のバドミントンですので、今でも妻と対戦しては負けることが多く、悔しい(？)思いを抱きながら練習を終えて車で一緒に自宅に帰って来ています。もう少し多くの時間を作って基礎練習の回数を増やし、妻への密かな優越感(？)を胸に帰宅したいと決心している此の頃です。



私とバドミントンの関わり

福岡県バドミントン協会
理事　強化委員　真鍋　聡

福岡県バドミントン協会創立70周年おめでとうございます。

私のバドミントンは、1977年大学入学と同時に始まりました。

当時ラケットのフレームは木で出来ていて、現在の素振りラケットくらいの重さ（約140g）がありました。使用後は変形しないように木枠のプレスに挟んで大切に保管していました。持ち運びも、プレスごと運ぶのでとても大変でした。シャットルも、現在の水鳥と陸鳥があり、YONEXもまだヨネヤマだったのを覚えています。

競技としては、3・4年時全日本インカレに出場し、なんとか1回戦を勝った事を覚えています。インカレで見た、日本大学の六川・見城組のスピンサーブ（羽打ち）衝撃的で、現在のようにビデオや情報もなく学校に帰ってから、一生懸命練習した事、福岡大学同期の江藤さんのフォアからのクロスカットも凄くて取れませんでした。（今では、誰でもできますけど）

3年の時に、熊本の伊藤先生の自宅にお邪魔して、どこの筋肉を鍛えればいいのか、自分自身で実践してある貴重な話をたくさん聞かせていただきました。

今では、当たり前の技術も、当時はどうすれば、そう打てるのか、そこに飛んで行くのかを、考えて自分の物にしようとすることが、今のバドミントンを考える基礎になったと思います

県協会との関わりは、大学3年から九州学連の役員となり、理事会に参加させて頂いた事を覚えています。

ジュニアとの関わりは、1998年冬、私も関わって教えていた子供が、全小6年男子単で優勝したこと。空港に迎えに行った時に、池田明男コーチが私の娘を見て「良い瞳をしている、バドミントンに向いている」の一言で、1999年春にジュニアバドミントンチーム（山家ジュニア）が始まりました。初めてのABCの県大会に参加すると、C（1・2年の部）は1人だけで、ABCの全国大会に出場させて頂きました。（なんと、1試合目の相手が、現ユニシスの高橋沙也加さんでした。）

2002年から小学生連盟の理事となり、2003年の全小福岡県大会で、1泊で北九州合宿をしたのが、強化の始まりでした。私も、女子のコーチで大会に参加させて頂きました。結果としては、男子団体優勝・女子団体3位と素晴らしい結果を出すことができました。これによって、次年度からも強化練習を継続して行く事になりました。

のめりこんだバドミントン

福岡県バドミントン協会
理事　総務委員　小形公一



久留米市の自宅近くの小学校に体育館ができ、バドミントン愛好者の募集があったので家族で参加しました。体力には自信がありましたが、ドロップショットにとことんやられっぱなしで、「嫌な競技」というのが私の第一印象でした。それからは、日々バドミントンにのめりこみ、各クラブに練習に通い、競技者との出会いが始まりました。吉松誠一氏、今野稔明氏、西本孝氏、田中賢一氏との出会いが無ければ今の私はないと思っています。久留米市バドミントン連盟の役職もないのに、たまたま県立体育館が1月15日に空いていたので、会場を確保し、大会をやろう、どんな大会がいいか、当時は珍しい男女混合のダブルスをやったらどうかの提案があり、早速、取り掛かりました。大会案内は市連盟、他は人脈を頼りに配付しました。県内外から多くの参加者があり大盛況で、現在に至っています。

ある日、熊本市で日本リーグがあるから見に行かないかとの誘いが吉松先生からあり、観戦に行きました。初めて見る会場の雰囲気に圧倒され、帰りの車中で、この大会を久留米で開催できないかと相談したところ、協力するからやってみろと言われ、その気になりました。その後、市連盟との協議を持ちながら県協会へのパイプを苣木彰氏へ依頼し、どうにか日本リーグ開催の承諾を得ました。大規模な大会運営の経験は誰もない状況、皆不安の中で、近県で開催している佐賀県の築地先生、長崎県の春野先生から資料提供とアドバイスを頂きました。また、大阪市で開催された日本リーグを視察し、関係者から親切丁寧な応対をしていただき運営方法がわかりました。その後、市連盟の会員を集め、連日、吉松歯科体育館での打合せ（総勢100名）を行いました。会場照明はナイターができる明るさが必要とされましたが、当時の体育館はそんな明るさはない等々の課題を

乗り切り、チケット販売についても初めてのことで、必ず来てくれる人にだけ販売を行い、1枚であっても購入の方には直接、届けました。

2001年12月いよいよ大会前日、日本リーグを1週間前に開催された佐賀県からコートマットを借用しました。これまで、コートマットなど見たことも使ったこともない者がほとんどで、築地先生の指導でどうにか張ることが出来ました。(あのファスナーを閉じる速度・・・・あァ大変でした)

更に横断幕も佐賀大会で使用されたロール紙を借用し、第何回の回数だけを訂正しました。

さぁ、いよいよ大会当日、久留米市消防音楽隊の演奏により開始式を行ったときは、ホットした瞬間でした。当日の観客動員数は、今期リーグ開催地では一番の人数だったと記憶しています。

その後、平成16年に県協会理事となり当時の久留米市協会の日バ登録者については、レベルの高い人だけ登録するものだとの認識しかありませんでした。そこでラッケットを持つ人は、皆登録をと呼びかけ28年度末は812名という登録数となっています。

日本リーグから数年が経ち、何か大会をと思っていたところ、全日本シニアはどうかなと思いつき佐竹理事長に相談しました。「シニア大会をやりたい！」、「本当にやれますか？」、「やれます！」の会話で招致が決定しました。



実はこれからが大変でした　まずコート数が久留米市だけでは不足、筑後地区の大川市、大牟田市、うきは市、大木町に協力をお願いしても不足、そこで福岡市の緒方理事長から「福岡市民体育館を使って下さい。」との助け舟があり、助かりました。会場は確保、次に審判員、スタッフ、この難問も県協会、会場提供協会からの応援を頂きました。大会前の事前説明は、久留米市役所大ホールに於いてスタッフを一堂に集めての説明会、佐竹理事長の指導の下、説明会が無事終了。やっと開催にこぎつけました。大会最終日に、「ほとめきの街くるめ」を実践し、無料でうどんの試食(500杯)を行ったことが記憶に残っています。





シニア大会から7年が経ち、30年6月には県立体育館(コート数18面)が新しくなり、そろそろでかい大会をと思っています。その時は、また、皆さんの協力をお願いいたします。当協会は会員数も少ないですが、大きな事業を二つ実施することが出来ました。これも福岡県協会の下に団結した協会があるので、出来たことと感謝しています。

最後になりましたが、これからも、福岡県バドミントン協会の発展と皆様の活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

～ バドミントンに関わって ～

福岡県バドミントン協会
理事　競技審判委員長　日高　澄具

私が、バドミントンを競技として始めたのは約45年前のことです。その当時、公共の体育館が少なく屋外でバドミントンを練習していた方も多いのではないでしょうか。少々の風があっても風を味方にしてバドミントンをしていたころを懐かしく思い出します。水鳥球は高価だったため、合成球を使用しての練習でした。合成球の名前は、カールトンだったと思います。週一度、ももちパレスでの練習に参加しており、そこでは水鳥球を使用しての練習で本当のバドミントン競技に触れることができました。

30歳頃福岡市協会に関わるようになりますが、その当時は福岡市役所の方々が主導して協会を運営されていたように記憶しています。福岡市では多くの大規模大会が開催され、その運営の一端を担っていたように思います。大会の詳細については、下記URLの福岡市スポーツ協会の加盟団体史に記載されています。
http://www.sports-fukuokacity.or.jp/library/images/about/group/19-badminton/history.pdf

1990年にとびうめ国体が福岡県で開催され、バドミントン競技は筑紫野市で行われました。その当時、リハーサル大会として前年に全日本社会人選手権大会が開催されていました。審判技術向上のため、とびうめ国体前に幾度となく全日本社会人選手権大会や本国体へ派遣していただきました。そこでは多くの貴重な経験をしました。



その後、本格的に福岡県協会に関わり、主に競技・審判関係に携わってきました。全日本実業団選手権大会、全日本レディース選手権大会、全日本シニア選手権大会、日本リーグ、全国高校選抜大会、全国高校総体、全日本シニア選手権大会といった大規模大会の開催を経験しました。その際、多くの方に公認審判員資格を取得していただいて、競技運営に多大な協力をいただきました。現在では、全日本シニア選手権大会、全日本社会人選手権大会、全日本実業団選手権大会、全日本学生選手権大会などでは、大会参加条件として審判資格が求められるため公認審判資格者数は増加傾向にあります。

次に私が知りえる限りですが、関わってきた競技規則書の変遷を紹介します。

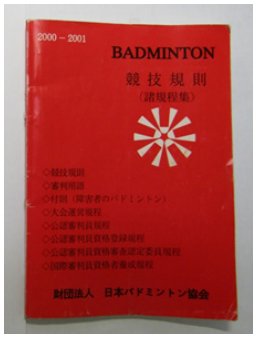
次に示すのは、競技規則書の表紙です。(a)は1990年（平成2年）に発行されたもので、(b)に比べると小さく毎年の発行ではなかったようで、次の発行は平成9年でした。（私が所持してないだけかもわかりません）(b)の1999年版（平成11年）より、B6サイズに変わりました。(c)の2000-2001版より現在まで2年に1度の発行となっています。



(a)



(b)



(c)

スコアについてですが、この資料では1990年（平成2年）～2005年（平成17年）の間は、サーブポイント制でダブルスと男子シングルスは2ゲーム先取の15点3ゲームマッチ、女子シングルスは2ゲーム先取の11点3ゲームマッチとなっていました。2006年（平成18年）よりラリーポイント制に変更され、すべて2ゲーム先取の21点3ゲームマッチになり現在に至っています。

とりとめのない話となりましたが、福岡県バドミントン協会70周年から今後の100周年とこれから協会に関わる方々の活躍を期待します。

”とびうめ国体”を経て

福岡県バドミントン協会
理事　強化委員長　有田　仁志

全てのスタートはとびうめ国体！

私にとっての“国体”は選手と指導者としてのチャレンジがあった。



選手として3度チャンスがあったが、出場の夢は叶えられなかった。（元来、力不足であったのであるから、当然のことである。）

指導者としての挑戦の原点が、“とびうめ国体”でる。

選手から指導者のターニングポイントとして、とびうめ国体があったことは、運命的なものさえ感じる。

とびうめ国体の強化は、平成2年の国体開催の10年前頃に始まったと聞いている。

当時の辰市理事長（現、福岡県ンバドミントン協会顧問）を中心に、槍水強化委員長、横溝副委員長（共に現福岡県バドミントン協会副会長）を軸に地元国体に向けての強化が始まった。

槍水氏（成年男子）、桶本氏（成年女子）、横溝氏（少年男子）浜司・樽野氏（少年女子）が各種目の指導に、手腕を振るわれた。

成年女子監督の桶本百合子氏（現在も世界シニア等の大会で現役選手として活躍しておられる）に成年女子のコーチとして登用していただいたことは、私のその後の指導者としてのバドミントン人生のスタートとなった。

実績も実力も備わっていない私を登用していただいた事に、この場をお借りして心から感謝申し上げたい。

とびうめ国体1年前の北海道・はまなす国体が終えてから最終的な強化事業が開始された。

毎週、種目ごとに練習会や合宿を計画し、県内の強化練習や県外の遠征合宿をおこなった。

監督・コーチ・選手が心を一つにしてとびうめ国体を目指した。

そのような中、辰市理事長のご尽力により、強化のアシスタントとしてNTT東京（現、NTT東日本）チームの協力を得られたことは幸運以外のなにものでもなかった。

県内の強化練習会への選手の派遣は元より、NTT東日本の練習への派遣に協力をいただいた。

地元での練習会では、選手への技術指導、練習方法に加えて、心の指導“勝つことの厳しさ”を享受していただいた事は、本県（私）にとっても宝である。

この一年間の経験は、”努力の素晴らしさ””勝つことの厳しさ”を共有できたこと、何よりも“チーム福岡”としてのシビックプライドを持てたことが、その後の私の指導者としての原点となった。

とびうめ国体の成績は、成年女子優勝、成年男子・少年男子3位、少年女子5位となり、総合優勝と素晴らしい成績であった。

この成績は、各監督の指導力の賜物であることは言うまでないが、NTT東京の協力無しでは成し遂げれなかったことも事実である。

また、もう一つの思い出は、国体の各地区のブロック予選を視察におこなったことである。

全国で開催されるブロック予選の内、私は、横溝副会長と共に、北信越と東北ブロック予選の視察にいった。

視察（戦力分析）により、対戦相手の情報が事前に収集できていたことは、オーダーや戦法の面で、試合を優位に進めることができたことが、全種目において好成績を収めることができた要因であった。

とびうめ国体が終わり、27年が過ぎた。

国体の強化事業やジュニア強化事業が県主導の元で推し進められ、良い成果を上げてきた訳であるが、バドミントンを取り巻く環境もその間大きく変貌を遂げたことも事実である。



ここで、3点について触れてみたい。

〇ふるさと選手制度の導入

平成17年から国体の成年種目に“ふるさと選手制度”が導入された。

この制度は、本県の中学校、高校を卒業した選手が、現住所が本県で無い選手が、本県の選手として出場できる制度である。

この制度は、東京都や大阪府などの大都市圏に企業が集中することに起因する選手の集中を回避し選手の分散を図ることと選手の出身県への“恩返し”という二つの目的があると感じている。

しかしながら、県の強化の上では問題がある。

この制度では、国体強化の時期（4月～10月）に選手を招聘するため、年間を通じておこなう強化事業が国体に直結せず、時として地元選手のモチュベーションの低下に繋がってしまっているケースがある。

ま た、ふるさと選手の状況（選手の状態や所属チームの事情）により、継続てきな選手の招聘が難しいため、チームの帰属意識が希薄になりがちな一面もある。

何れにせよ“国体での勝利”と“チーム福岡のシビックプライド”の融合を図ることが新たな課題である。

○強化事業の財政難

ここ数年の地方財政の悪化は、県の体育事業行政の削減にも色濃く表れ、年々、減少の一途を辿っている。

特に、国体強化に係る補助事業費は、本国体での成績による査定をするシステムにより、減額を余儀なくされている。

ジュニア強化においては、県全体の事業費が減額傾向ではあるものの、本協会の事業を認めて頂き、事業費をある程度いただけていることが、現在のジュニアの成績に繋がっている。

限られた強化費を有効に活用して、国体での成績や地元の活性化を図かる上で、今後益々の“選択と集中”が必要である。

○ジュニア強化と県外流出

とびうめ国体終了後、国体に係わった方が中心となって、県内各地でバドミントンが盛んになり、その中でジュニアチームが発足した例も多くみられた。

ジュニアに対する指導力の向上は目覚ましく、その成果として、森かおり、池田信太郎、潮田玲子、栗原彩音選手のオリンピック選手を輩出できたことはその表れと言える。

本県のジュニア強化事業は、福岡県からの補助金に加え、本協会から補助金のお陰で、現在の強化事業の地盤ができた。

これは、とびうめ国体を契機に高校生を含むジュニアの強化体制が県協会内に構築された成果であることは紛れもない事実である。

しかしここ数年、全国のジュニアのレベルの向上ぶりは目を見張るものがあり、本県のジュニアも苦戦を余儀なくされている。

それに加え、新たな問題として、優秀な選手の異動が全国規模に発展し、本県においても県のトップの小中学生が県外に流出する例が頻発している。

様々意見はあるものの、この問題の解決には、県の強化事業の更なる充実が急がれるところである。

私にとって、とびうめ国体をスタートラインとして始まった県の強化であるが、様々な問題を抱えている事も事実である。

今、九州では佐賀県、鹿児島県が地元国体に向けて活発な強化事業をおこなっている。

高校生を含むジュニア選手の成績の向上も去ることながら、競技自体が活気を帯び、新たな動きが起こっていることからも、地元国体の意義は今も失われていないと感じる。

平成2年とびうめ国体の開催以来27年が経過し、次期地元国体開催までの折り返し地点は既に過ぎている。

とびうめ国体の準備に10年を要したことを考えると、次期の地元国体に向けての準備も数年後には考えなくてはならない。

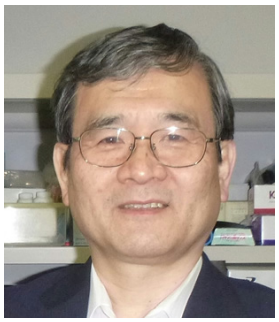
今日の国体が、とびうめ国体の当時と、様々な面で様変わりはしているが、次の福岡国体が、本県の強化事業の新たな起爆剤となること確かである。



私のバドミントン

福岡県バドミントン協会
理事長　佐竹　養一

1　ホップ



私のバドミントンは、高校1年生の3学期（昭和45年）に城南高校バドミントン部を創ることから始まった。小倉西高校で指導歴のあった「山口勇雄」先生との出会いがきっかけであり、山口先生に顧問をお願いし、高校2年生の4月から部活動が始まった。

当時の城南高校は、現在の春高バレーに当たるバレーボールの全国大会に出場経験を持つ実力のある高校だった。それまで、体育館は、バレー部とバスケット部が専用使用する状況にあったが、それに割り込もうとするバドミントン部は歓迎される存在ではなかった。学校から支給される部活動費も各クラブの代表者が集まって予算争奪戦を行うのだが、全体の予算枠が決まっており、これまた新しい部活動については、歓迎さる存在ではなかった。当時の金額で年額10万円を超える部活も存在したが、我がバドミントン部は3万円をいただくことが精いっぱいだった。

その頃、福岡市内にあった高校の部活は、福岡商業高校定時制（現在の福翔高校）、福岡第一高校、福岡第一商業高校（現在の第一薬科大学付属高校）、九州女子高校（現在の若葉高校）、室見丘女子高校（現在の福岡舞鶴高校）であったと記憶している。また、県内では明善高校、明善高校定時制が強かったと記憶している。ちなみに我が母校の城南高校は、これまで2度インターハイに出場している。（昭和53年、54年）

2　ステップ



西南学院大学卒業後は、職場にバドミントン部を創ったものの、特にバドミントンには執着せずに野球、ソフトボール、トランペットと趣味を広げて暮らしていた。30歳を過ぎて西南大学OBの「下村武」氏（元福岡市協会会長）と出会い、地元城南区の堤バドミントンクラブにお誘いを受け、協会役員への道が始まった。当時、下村氏は、市協会及び城南区協会において役員を務められており、私も徐々に協会活動に引きずり込まれていき、城南区協会の会長や福岡市協会の審判委員長を務めるようになった。また、平成2年の「とびうめ国体」が近づくにつれ、中途半端では務まらない、どっぷりとバドミントンに関わらなければいけないと一大決心をし、他の趣味を排除していった。とびうめ国体では、現在、日バのレフェリーであり、県協会の競技審判委員長である日髙澄具氏ら5人と一緒にコート主任を務めた。

3　ジャンプ



とびうめ国体後、県協会の役員が一新し、私は理事に就任した。その頃、日本バドミントン協会の審判団として国体などの全国大会の主審を務められていた「林一夫」氏が転勤で福岡県に移って来られ、県協会の審判委員長を務められるようになった。林氏との出会いが日本協会公認審判員1級取得及び公認審判員資格審査認定委員資格取得へと繋がり、全国への道が始まった。平成6年の全日本実業団大会、平成9年の全日本シニア大会を経験し、平成14年の県協会の組織改革（加盟団体をクラブから郡市協会・連盟に変更）に合わせて副理事長に就任し、日本協会評議員も平成15年から務めるようになった。

その後、平成18年に横溝安伸氏の後を受け県協会理事長に就任し、同時に九州バドミントン連盟理事長も務めるようになった。

4　それから



九州バドミントン連盟から日本バドミントン協会の理事を推薦するのであるが、平成23年に築地氏（佐賀県協会理事長）のあとを受けて、年功序列的に推薦され、いよいよ日本協会の役員としての活動が始まった。当時、日本協会は財団法人から公益財団法人に移行した時で

あったこともあり、行政経験のある私が法規部長を務め公益財団法人移行に伴う諸規程の見直しを担当した。

その後、日本協会は、コンプライアンス、ガバナンスの強化が求められたこともあり、平成27年6月、それに対応すべく銭谷欽治氏（全日本総合単で7度の優勝）が立ち上がって専務理事に就任された。私は銭谷体制を支援すべく総務本部長に就任した。九州の田舎者の私が、何故、総務本部長なのか関係者は驚いたに違いない。一番驚いているのは私である。バドミントンの神様のいたずらである。銭谷専務理事はインティグリティ（高潔性）が高い。彼が頑張るのだからこんな私でも頑張らにゃあいかんと動機づけられた。日本協会は組織正常化に向けて進み始め、リオ五輪の年に突入した。スーパーシリーズファイナルズや全英選手権で日本代表選手が活躍する中、スポンサーとの大型契約を控えて順風満帆そのものであったが、平成28年4月に田児選手、桃田選手の闇賭博事件が発覚した。前体制時代の出来事であったが、現体制で素早く的確に対応したことから処分者を出したものの、リオ五輪での高橋礼華・松友美佐紀ペアの金メダル、奥原希望選手の銅メダルへと繋がった。

平成29年6月、第2次銭谷専務理事体制となった。いよいよ東京2020に向けて加速しなければならない。銭谷体制となって、スポンサーの開拓が加速し、予算規模は8億円から16億円と一挙に倍増した。日本のバドミントンは、新たな時代に突入した。



更に、バドミントン指導者の指導者として有名な筑波大学名誉教授であるGodminton阿部一佳先生との出会いもあり、これからも波乱万丈なバドミントン人生となりそうだ。

5　なによりも

私の活動を支えてくれているのは、県協会の各委員長をはじめとした役員であり、福岡市協会、北九州市協会、久留米市協会等の加盟団体である。県協会事業を積極的に担っていただいている。また、九州地区の各県協会の理事長さん達にも私の活動にご理解をいただき、力強い後ろ盾となって九州連盟、日本協会を応援していただいている。そしてなによりも、支えてくれたのは





県協会事務局の清水尚美さん（平成16年～21年）であり、米倉敬子事務局長（平成19年～現在）である。家庭を顧みず私以上に県協会会員のために尽力してくれたので、今の私がいる。皆さん無くして私のバドミントンは無い。私の周りの皆さんに感謝、感謝！　ありがとうございます！

参考資料

新会長　　本田正寛氏　　「西日本シティ銀行　会長」

期日：平成１８年７月８日（土）

会場：ホテルレガロ（ローズルーム３階）

四島司前会長は名誉会長に就任しました。



横溝安伸副会長



本田正寛新会長



辰市祐昭　顧問





西日本シティ銀行バドミントン部の皆さんと



佐竹養一理事長と共に



淵上英紀副会長と歓談







福岡市バドミントン協会出席者と



鎗水浩吉副会長



眞崎寿昭福岡市バドミントン協会　副会長

会長就任披露会

平成 27 年 6 月 20 日



新会長　浦山　茂　氏

（西日本シティ銀行　取締役専務執行役員）





本田　正寛　名誉会長



浦山　茂　会長



鎗水　浩吉　副会長







辰市　祐昭　顧問



安部　悦子　理事　　緒方　蓉子　総務委員長

門司　政廣　理事



日高　澄具　競技審判委員長

有田　仁志　強化委員長



平野　一美　理事　　原田　孝敏　理事



平野　清太　理事　　小形　公一　理事





明神　憲一　理事　　佐竹　養一　理事長













【大牟田バドミントン協会】

後は年号を追って大きな出来事を紹介します。

昭和48年度
・大牟田市体育協会に加盟
・三級公認審判員講習会開催
・第8回九州高等学校バドミントン大会（宮崎県）出場
　個人戦男子複　小宮孝吉・横山雄策（大牟田北高）
・バドミントン技術講習会開催（青年の家）
協会として初めての一般講習会でのちに毎年行われている。

昭和49年度
・大牟田市民体育館が落成　9月7日
・第25回インターハイ（佐賀県嬉野町）出場
　個人戦副　野田守・内野泰三（大牟田北高）
・第9回九州高等学校バドミントン大会（大分県）出場
　個人戦副　野田守・内野泰三（大牟田北高）

昭和50年度
・第10回九州高等学校バドミントン大会（佐賀県）出場
　個人戦副　前畑敏幸・柴田繁久（大牟田北高）
・福岡県バドミントン協会功労者表彰　平木　武美氏
　長年にわたる県協会・高校バドミントンに対しての功績を評価される。
・第1回大牟田市民バドミントン大会開催
　この大会は、大牟田市教育委員会主催、大牟田市体育協会後援、大牟田バドミントン協会主観で始められた。市当局が市民スポーツ振興の一環としてバドミントン普及・発展のため、毎年1回開催されることとなった。
・少年少女バドミントン普及講習会
　市教育委員会委託により小中学生を対象に実技指導を行った。その後毎年行われる。
・バドミントン講習会
　市教育委員会委託により一般を対象に実技指導を行った。その後毎年行われる。
・大川市バドミントン協会との親善試合　昭和51年2月22日
　大川市のバドミントン愛好者との親睦と技術の向上を目標に相互に訪問遠征を行うことになった。

昭和51年度
・バドミントン中級技術講習会の開催
・県民体育大会に参加
・昭和51年度筑後地区後期大会を大牟田市民体育館で開催　10月24日

昭和52年度
・日立造船・荒尾市・玉名農高との親善試合　7月12日
荒尾市
・小学校単位で一般向けバドミントン講習会を行う。
　これ以降市内の各地の小学校で毎年講習会を行った結果、各所学校単位でクラブが発足してゆくことになった。
・家庭婦人バドミントン教室開催
　その後家庭婦人チームOLBの発足となる。

昭和53年度
・第1回大牟田市近郊家庭婦人バドミントン大会開催　3月30日　市民体育館
　家庭婦人の愛好者が増えたことからオープン戦でダブルスのみの大会とした。
　第1回目から熊本県より参加があり大会は盛況であった。
・大牟田バドミントンクラブ　発足　昭和54年1月2日
　大牟田北高OB・不知火女子高OGのバドミントン愛好者が集い結成した。
　この後大牟田バドミントン界の協会運営・底辺拡大・レベルアップ・学生の強化指導等に大きく貢献して行くこととなる。
　現在、国内・世界で活躍しているトナミ運輸の最初のキャプテン（浜北　和彦）は中学時代このクラブで育った。
・全九州社会人バドミントン大会（宮崎県西都市）　昭和54年2月4日
一般男子複　準優勝　小宮孝吉・野田守（大牟田クラブ）
　協会始まって初の九州大会決勝進出であった。トロフィーは埴輪の形をしていた。

昭和54年度
・第22回福岡県民体育大会　青年の部　2位
大牟田市が初めて入賞した。
・昭和54年度第2回福岡県社会人バドミントン大会開催
大牟田市民体育館　10月
・昭和54年度　福岡県総合バドミントン選手権大会（大川市）12月16日
　男子複3位（小宮・野田）混合複3位（小川・松尾）男子単（小宮）
　大牟田勢の県での活躍が目立ってくる。

昭和55年度
・第15回九州高等学校バドミントン大会（沖縄県）出場

個人戦男子複　折原・大久保(大牟田北高)
・昭和55年度福岡県家庭婦人バドミントン大会
大牟田市民体育館　10月31日
・第1回混合複バドミントン大会を開催
・中・高生の強化育成を大牟田クラブで始める。

昭和56年度
・第1回有明地区バドミントン大会を開催　7月19日
この当時、オープンの大会はあまり無く大牟田近郊との技術交流・親睦を兼ねて開催することとなった。筑後地区はもとより熊本県からの参加もあり、かなりハイレベルな大会となった。

・第24回福岡県民体育大会　9月20日
一般男子の部　優勝　(県民体育大会で初優勝である。)
メンバーは小川・金坂・小宮・野田の4名で全員大牟田バドミントンクラブであった。
・昭和56年度第4回福岡県社会人バドミントン大会　9月27日　福岡市
青年の部複　優勝　小宮　孝吉・野田　守(大牟田クラブ)
初めての県制覇成る。
・協会員親善クラブ対抗バドミントン大会開催　参加チーム数64組と盛況であった。

昭和57年度
・第1回少年少女バドミントン大会を開催　8月22日
市内の小中学生を対象に行う
・第25回福岡県民体育大会　9月19日
一般男子の部　優勝　(県民体育大会で2年連続優勝でありメンバーは前年と同じ)
・第12回全国中学校選抜バドミントン大会　新潟市
男子単　準優勝　浜北　和彦(大牟田クラブ)
・第1回クラブ対抗バドミントン大会を開催　3月21日

昭和58年度
・昭和58年度インターハイ
男子単　出場　城島一郎(大牟田南高)
・昭和58年度第38回国民体育大会県予選大会
優勝　成年男子複　小宮孝吉・野田守(大牟田クラブ)
のちに選手選考会を経て、小宮の国体出場が決定。
協会から社会人で初めて国体選手を出すこととなり、本協会で壮行会が開かれた。
またこれを機に、協会規約に全国大会・九州大会等の遠征補助の規約が追加された。

昭和59年度
・昭和59年度　福岡県総合バドミントン選手権大会　9月2日
大牟田市民体育館にて開催
この年より県外プレーヤーの参加が認められ山口県からも参加があった。
・昭和59年度インターハイ　男子単　準優勝
浜北和彦(学園大付属高校2年)

昭和60年度
・第1回協会員校区対抗バドミントン大会開催　6月23日
市内の各小学校区にバドミントンを普及定着させるのを目的に開催した。
・昭和60年度インターハイ　男子単　準優勝
浜北和彦(学園大付属高校3年)　2年連続準優勝である。
・昭和60年度インターハイ　男子単　出場
宮崎　剛(大牟田南高等学校)
・昭和60年度第40回国民体育大会　少年の部　出場
宮崎　剛(大牟田南高等学校)

昭和61年度
・第1回大牟田オープンバドミントン大会開催

昭和62年度
・昭和62年度第30回福岡県民体育大会　9月20日
壮年男子の部　優勝
・創立15周年記念第30回大牟田バドミントン大会開催　10月25日
・婦人バドミントン教室開催

昭和63年度
・昭和63年度第31回福岡県民体育大会　9月18日
一般男子の部　優勝
・第1回ランク別バドミントン大会開催

平成元年度
・大牟田市バドミントン協会旗制定　4月10日　一般公募による。

大牟田市バドミントン協会

・平成元年度全九州小学生バドミントン大会　熊本
福島・境(上内小)出場
・中国福建省福州市研修合宿兼日中バドミントン親善試合　出場

江口俊広(大牟田高校)

平成2年度
・平成2年度第33回福岡県民体育大会　8月26日
　一般男子の部　優勝　一般男子は4度目の優勝に輝いた。
・全九州高校バドミントン大会
　男子複　優勝　江口俊広・倉崎秀樹(大牟田高校)
　男子単　3位　江口俊広(大牟田高校)
・平成2年度第41回インターハイ　仙台　8月　出場
　男子複　江口俊広・城戸洋欣(大牟田高校)
・第45回国民体育大会(とび梅国体)　10月26日　筑紫野市
　出場　4位入賞　江口俊広
　国体強化練習場所として大牟田クラブが使用され、週2回ではあったが練習に来るたび実力を付けていき立派な成績を収めてくれた。

平成3年度
・大牟田バドミントン協会表彰規定を設け、協会創立20周年事業を決定した。
①招待選手を含めての親善試合
②20周年記念誌の発行(平成4年)
③記念式典・祝賀パーティの開催(功労者表彰・加盟クラブへの感謝状)

※創立20周年記念祝賀パーティ　12月1日
　故平木武美会長挨拶のあと熊本県からは、当時日本バドミントン協会名誉理事で熊本県協会顧問であった故伊藤基記氏、福岡県協会理事の苣木章氏が来賓の挨拶をされた。式典中に功労者表彰と感謝状贈呈が行われ盛大に式典は終了した。

※招待・交流試合開催　2月2日
　日本バドミントン界の雄、トナミ運輸バドミントン部を招待して大牟田市民体育館にて開催された。模範試合では日本のトップレベルのプレイに感嘆し、協会員との交流試合やジュニア講習会も有意義であった。これを機に毎年10年間大牟田に来てくれた。これはトナミ運輸のまったくの御好意によるもので深く感謝している。
　トナミ運輸招待者は次のとおりである。
　部　長　安達　達明
　選手主将　浜北　和彦(熊本県出身)
　選　手　木船　栄士(福井県出身)
　選　手　気谷　厚人(石川県出身)
　選　手　大堀　均　(栃木県出身)

平成4年度
・平成4年度第35回福岡県民体育大会　9月
　一般男子の部　優勝　一般男子は5度目の優勝に輝いた。
・第16回全日本高等専門学校体育大会バドミントン選手権大会
　男子複　優勝　　立石・城戸(有明高専)
　男子単　ベスト8　牧島隆光(有明高専)
　女子複　3位　　平田・宮本(有明高専)
　女子単　優勝　　平田　宏美(有明高専)

平成5年度
・第10回全九州小学生バドミントン大会
　男子複6年　優勝　三小田昌弘・田中繁光

平成6年度
・第18回全日本高等専門学校体育大会バドミントン選手権大会
　女子団体戦　2位　有明高専
　女子複　2位　　平田・永松(有明高専)
　女子単　2位　　永松　瑞穂(有明高専)

平成8年度
・福岡県民体育大会　青年の部　優勝
　原　良一　・　城戸　孝夫　・　原　文子　・　西山　夏美
　大牟田市の青年の部優勝は現在までこの1回のみである。
・第45回全国青年大会バドミントン競技　準優勝
・全九州社会人バドミントン大会　宮崎　12月7・8日
　40代男子複　準優勝　小宮孝吉・浜司(大牟田クラブ・直方クラブ)

平成9年度
・福岡県民体育大会　壮年の部　優勝
・全九州社会人バドミントン大会　熊本　12月7・8日
　40代男子複　優勝　小宮孝吉・野田守(大牟田クラブ・三井化学)
　40代男子単　3位　小宮孝吉(大牟田クラブ)

平成10年度
・福岡県民体育大会　壮年の部　優勝　2年連続優勝と成る。
・全国スポレク大会　岐阜　バドミントンの部　10月10日
　福岡県代表として小宮・野田・福岡の3名出場し結果準優勝

・全九州社会人バドミントン大会　大分　12月12・13日

40代男子複　優勝　小宮孝吉・野田守（大牟田クラブ・三井化学）　2年連続優勝
40代男子単　3位　小宮孝吉（大牟田クラブ）

平成11年度
・全九州社会人バドミントン大会　長崎　12月
40代男子複　準優勝　小宮孝吉・野田守（大牟田クラブ・三井化学）
40代男子単　3位　小宮孝吉（大牟田クラブ）

平成12年度
・福岡県民体育大会
壮年の部　優勝　3年連続優勝と成る。



平成13年度
・第1回日本スポーツマスターズ宮崎大会
福岡県チームに大牟田より1名参加
小宮　孝吉（大牟田クラブ）

・全九州社会人バドミントン大会　佐賀　11月
40代男子複　優勝　小宮孝吉・野田守（大牟田クラブ・三井化学）
40代男子単　2位　野田守（三井化学）
40代男子単　3位　小宮孝吉（大牟田クラブ）

平成14年度
・全九州社会人バドミントン大会　鹿児島　11月
40代男子複　優勝　小宮孝吉・野田守（大牟田クラブ・三井化学）
40代男子単　3位　小宮孝吉（大牟田クラブ）

平成15年度
・平木武美会長永眠　12月
・西山博幸氏会長就任

平成18年度
・全日本スポーツマスターズ　バドミントン　広島9月
団体戦3位入賞　福岡県代表として大牟田より2名（小宮・野田）参加

・ラリーポイント制導入　10月によりゲーム展開が速くなりプレースタイルも攻撃型となった。
・福岡県民体育大会　壮年の部　優勝
金坂・小宮・野田・入江・原・田尾
2複1単から3複になってからしばらく優勝から遠のいていた。
・全九州社会人バドミントン大会　大分　2月11・12日
50代男子単　準優勝　小宮孝吉（大牟田クラブ）

平成19年度
・全九州社会人バドミントン大会　長崎　2月9・10日
50代男子複　優勝　小宮孝吉・野田守（大牟田クラブ・三井化学）
50代男子単　3位　小宮孝吉（大牟田クラブ）

平成20年度
・全九州社会人バドミントン大会　佐賀　2月14・15日
一般女子単　準優勝　立山恵里（大牟田クラブ）
50代男子単　3位　　小宮孝吉（大牟田クラブ）

平成21年度
・西山氏会長辞任により理事会を経て小宮孝吉が会長就任　同じくして入江睦夫（三井化学）理事長就任　4月

平成22年度
・全日本シニアバドミントン選手権大会（福岡）の一会場として11月21・22日大牟田市民体育館が使用された。大牟田の協会にとって初めての全国大会運営であったので準備の段階から大変であった。審判員の数が少ないことから3級審判講習会を開き審判員の増員を図った。又、荒尾より協力していただき大いに感謝している。

平成23年度
・全九州社会人バドミントン大会　佐賀　2月4・5日
55歳以上の部複　優勝　小宮孝吉・江口博（福岡県・佐賀県）
55歳以上の部単　2位　小宮孝吉（福岡県）

平成24年度
・県体前バドミントン合同練習会参加
筑後地区（柳川・大川・みやま市・大牟田市）で県体メ

ンバーの合同練習会に参加
練習の後は、夕方より懇親会が行われ各地の意見交換の場になっている。大牟田は、この年からの参加することとなり毎年担当地域を変えて開催されている。
・全九州社会人バドミントン選手権大会　大分　2月3日
　55歳以上の部単　3位　　小宮孝吉（福岡県）

平成25年度
・第30回全九州小学生バドミントン選手権大会　沖縄県
　4年生女子単　ベスト16　桑野玲奈
・全九州社会人バドミントン選手権大会　大分　2月9日
　55歳以上の部単　2位　　小宮孝吉（福岡県）

平成26年度
・第30回全九州小学生バドミントン選手権大会
　5年生女子単　3位　桑野玲奈
・第23回全国小学生バドミントン選手権大会　新潟県　12月25～29日
　出場　桑野玲奈
・全九州社会人バドミントン選手権大会　大分　2月21・22日
　55歳以上の部単　優勝　　小宮孝吉（福岡県）

平成27年度
・第24回全国小学生バドミントン選手権大会　福岡県
　団体女子　3位　桑野玲奈（福岡県代表選手として出場）
　6年女子単　出場　桑野玲奈

平成28年度
・金坂俊彦氏が長年の大牟田市バドミントン協会運営における功績が認められ大牟田市体育協会より表彰される。

平成29年度
・入江睦雄氏（三井化学）副会長就任・川野雅人（スマイル）理事長就任　4月
・JOCジュニアオリンピックカップ第36回全日本ジュニア選手権大会福岡県予選会にて女子単で優勝し、桑野玲奈（橘中2年）が全国大会（群馬県）出場決定。

【日本小学生バドミントン連盟　登録様式３】

平成29年度　登録クラブ名簿

都道府県名	福岡県
提出月日１２月２２日	2回目

NO	クラブ名	連絡先氏名	連絡先住所	登録数(人)			地区
				男子	女子	合計	
1	岡垣ジュニア	池田　明男		18	20	38	筑　豊
2	海老津ジュニア	和田 功夫		10	12	22	筑　豊
3	京都クラブ	福本 信太郎		5	3	8	北九州
4	椎田ジュニア	角谷 健一		4	11	15	北九州
5	中間ジュニア	三好 滋久		8	12	20	筑　豊
6	金田クラブ	並川昌太郎		4	6	10	筑　豊
7	大池ジュニア	布施 淳子		9	12	21	福　岡
8	香住ヶ丘ジュニア	副島　力		14	7	21	福　岡
9	新宮ジュニア	森田　正道		4	8	12	筑　前
10	板付ジュニア	梅津　めぐみ		3	8	11	福　岡
11	福浜ジュニア	田中 恵子		1	7	8	福　岡
12	能古ジュニア	明石　栄美子		9	5	14	福　岡
13	三宅ジュニア	梶原　利恵子		8	18	26	福　岡
14	ラブオールジュニア	松尾　義房		1	8	9	福　岡
15	百道ジュニア	木下　静江		9	22	31	福　岡
16	若竹クラブ	種生　宣隆		3	8	11	北九州
17	羽々ジュニア	髙橋　佑太		1	9	10	筑　後
18	Sesakジュニア	金子　正子		7	9	16	福　岡
19	春日ｲｰｸﾞﾙｽ	有馬　正剛		16	46	62	筑　前
20	大野城南クラブ	城戸　康徳		4	13	17	筑　前
21	すせんじジュニア	中島　純		4	10	14	福　岡
22	山家ウイングス	眞鍋　聡		3	8	11	筑　前
23	クリアーズ天拝OWLS	西岡　昌彦		4	12	16	筑　前
24	須恵ジュニア	今泉　千佳子		6	7	13	筑　前
25	ウイングバード	石井　克也		7	19	26	筑　後
26	春日ジュニア	冨永　勝也		7	9	16	筑　前
27	COLORS	鶴岡 美紀		6	15	21	筑　前
28	Y's　クラブ	横手 明夫		8	12	20	筑　前
29	ACE	濵﨑　剛史		0	1	1	北九州
30	八幡西ジュニア	中森　良子		13	9	22	北九州
31	香陵っこクラブ	池永　絢		10	4	14	福　岡
32	JBC小倉	有田 仁志		3	13	16	北九州
33	北九州スピリッツ	松岡 英明	必要な場合は事務局に連絡下さい。	2	11	13	北九州
34	八児クラブ	後藤 泰男		0	1	1	北九州
35	さつき会	伊藤 信子		5	5	10	北九州
36	寿山クラブ	勝田　忠文		7	10	17	北九州
37	井堀クラブ	松岡 弘志		4	4	8	北九州
38	清水エンゼルス	奥野　美和子		7	6	13	北九州
39	足立クラブ	高野　治夫		5	8	13	北九州
40	チャレンジャー	清水　正美		3	0	3	北九州
41	北野ジュニア	高山 龍三		2	6	8	筑　後
42	瀬高ジュニア	吉永　萌夏		3	3	6	筑　後
43	高良内クラブ	山野 末春		5	26	31	筑　後
44	朝倉ジュニア	川野 淳一		4	2	6	筑　後
45	ひろかわﾊﾞﾝﾋﾞｷｯｽﾞ	中山　健一		5	9	14	筑　後
46	ネィバーキッズ	小形 公一		2	0	2	筑　後
47	三国ジュニア	合屋 幸太郎		4	6	10	筑　後
48	荘島クラブ	千北　公美子		4	12	16	筑　後
49	田主丸ﾊﾟﾜｰﾌﾚﾝｽﾞ	原　英彰		2	12	14	筑　後
50	大木ジュニア	岡崎 好宏		12	33	45	筑　後
51	筑前ジュニア	寺岡　征二		8	2	10	筑　後
52	羽道ジュニア	山口　和美		1	2	3	筑　後
53	ヤングリーフ	平川　由紀恵		7	1	8	筑　前
54	サイレントBC	吉田　美香		2	5	7	筑　後
55	なのジュニア	平林　摂		4	8	12	筑　前
56	小野ジュニア	池田満弘		1	3	4	筑　前
57	ドリームJBC	清水　弘		4	4	8	筑　後
58	秋月フオックス	濱崎洋介		4	0	4	筑　後
59	JBC久留米	八尋　一樹		2	6	8	筑　後
60	スマイルジュニア	吉川　美穂		1	6	7	北九州
61	S'kids BC	高瀬　美由起		5	12	17	福　岡
62	リトルファイターズ	行實　悟		2	6	8	筑　豊
63	山田ジュニア	井上　義弘		0	2	2	筑　豊
64	JBCプラム	今福　誠二		5	3	8	筑　前
65	水城西JBC	髙増　亜希子		1	3	4	筑　前
66	シャトルハウス	福原 和子		1	5	6	北九州
67	青羽ジュニア	上野　智也		3	6	9	筑　後
68	那珂川南ジュニア	日下部　正実		5	6	11	筑　前
69	TOTOS北九州	土居　正依		6	4	10	北九州
70							
71							
	合　　計			347	601	948	

《個人情報の取扱について》 記載された個人情報は、連盟運営のために利用するものです。

全日本中学生バドミントン選手権大会代表選手と成績

回数		選手名				本大会成績
第1回（H12）	男子	小木　淳二（海老津jr）	鳥飼　宏司（ウィングス）	布施　洋平（大池jr）	玉野　祐策（前原東中）	予選リーグ
千葉県	女子	谷口　智美（海老津jr）	名越　麻衣（北九州jr）	樋口　久美子（北九州jr）	西　美紗子（吉木ク）	敗退
第2回（H13）	男子	中島　諒太（京都ク）	前の原　拓夢（筑紫野南中）	原　慎吾（筑紫野南中）	玉井　皓也（北九州jr）	
熊本県	女子	谷口　智美（海老津jr）	下崎　彩（海老津jr）	樽野　恵（北九州J）	田村　千秋（椎田西jr）	3位
第3回（H14）	男子	垰畑　亮太（岡垣jr）	藤原　達也（岡垣jr）	玉井　皓也（北九州jr）	近藤　早寿（海老津jr）	
栃木県	女子	簇生　夕姫（海老津jr）	福島　瑞穂（海老津jr）	田村　千秋（椎田西jr）	井上　莉沙（満石jr）	ベスト16
第4回（H15）	男子	宮本　大地（岡垣jr）	藤原　達也（岡垣jr）	北野　圭（海老津jr）	和田　力也（北九州jr）	
愛知県	女子	森下　真衣（山家ウィングス）	真鍋　理美（山家ウィングス）	栗原　文音（北九州jr）	伊藤　麻亜美（北九州jr）	ベスト8
第5回（H16）	男子	吉岡　直敏（岡垣jr）	下村　和馬（岡垣jr）	原田　和憲（八幡西jr）	宮原　一馬（海老津jr）	予選リーグ
高知県	女子	松井　翔子（岡垣jr）	兼光　沙紀（岡垣jr）	森山　葉月（岡垣jr）	松原　美沙子（山家ウィングス）	敗退
第6回（H17）	男子	宮本　海（岡垣jr）	松本　剛（岡垣jr）	延吉　弘孝（海老津jr）	坂本　逸平（城南中）	予選リーグ
青森県	女子	清水　なつ美（岡垣jr）	清水　あゆ美（岡垣jr）	室園　菜摘（北九州jr）	牧野　美咲（北九州jr）	敗退
第7回（H18）	男子	山口　凌司（羽道ジュニア）	三浦　昂（海老津ジュニア）	大塚　悟司（筑紫野南中）	東久保　貴（筑紫野南中）	
福井県	女子	近藤　佐希子（山家ウィングス）	清水　恵（チャレンジジュニア）	野口　絵美（吉木ジュニア）	若松　里帆（岡垣ジュニア）	ベスト16
第8回（H19）福岡県Aチーム	男子	佐野　拓磨（海老津jr）	早野　博之（中間jr）	石山　裕基（中間jr）	森田　浩平（岡垣jr）	準優勝
		濱崎　元輝（岡垣jr）	村山　巧（岡垣jr）			
	女子	清水　恵（チャレンジjr）	市津　愛理（岡垣jr）	堂山　友里愛（岡垣jr）	藤原　沙也加（岡垣jr）	九州優勝
		重田　沙樹（海老津jr）				
Bチーム	男子	山添　裕登（八幡西jr）	松岡　諒二（北九州スピリッツ）	藤田　修平（大池jr）	木村　孝（岡垣jr）	
		中村　心（八幡西jr）	久世　健人（百道jr）			
	女子	入江　志歩（満石jr）	井上　朋美（満石jr）	小木　ゆかり（岡垣jr）	中村　麻裕（岡垣jr）	ベスト16
		新妻　未来（岡垣jr）				
第9回（H20）岡山県	男子	松原　雅則（海老津jr）	藤　正博（海老津jr）	松山　広豊（九国大付）	馬場　湧生（九国大付）	
		成富　勇太（八幡西jr）				ベスト8
	女子	中村　麻裕（九国大付）	松岡　英美（九国大付）	西尾　千空（九国大付）	入江　志歩（満石jr）	九州優勝
		堤　千尋（海老津jr）	櫻本　絢子（海老津jr）			
第10回（H21）京都府	男子	馬場　湧生（九国大付）	成富　勇太（本城中）	山崎　諒介（本城中）	田中　佑弥（岡垣中）	
		中里　大帆（能古中）	荒木　惇（瀬高jr）			3位
	女子	西坂　はるな（岡垣中）	松岡　英美（九国大付）	西尾　千空（九国大付）	井上　美沙（横代中）	九州優勝
		清水　望（ﾁｬﾚﾝｼﾞjr）				

全日本中学生バドミントン選手権大会代表選手と成績

回数		選手名				本大会成績
第11回（H22）埼玉県	男子	西坂　昇（九国大付中）	水谷　希純（岡垣jr）	黒田　大誠（瀬高中）	古賀　駿一（高良内ク）	東日本大震災のため中止
		藤田　将徳（山家ｳｨﾝｸﾞｽ）				
	女子	中野　愛美（海老津jr）	藤木　沙耶（ﾁｬﾚﾝｼﾞjr）	清水　望（ﾁｬﾚﾝｼﾞjr）	若林　杏佳（九国大付中）	
		石橋　舞（九国大付中）	重田　美空（九国大付中）			
第12回（H23）愛知県	男子	藤田　将徳(山家ｳｨﾝｸﾞｽ）	濱﨑　駿（岡垣ｼﾞｭﾆｱ）	荒木　広夢（香住ヶ丘ｼﾞｭﾆｱ）	仲西　祐太（ﾁｬﾚﾝｼﾞｼﾞｭﾆｱ）	ベスト16 九州優勝
		内田　爽紀(ﾁｬﾚﾝｼﾞｼﾞｭﾆｱ）	佐藤　優希（山家ｳｨﾝｸﾞｽ）			
	女子	石橋　舞（九国大付中）	重田　美空（九国大付属中）	向　琴音（九国大付属中）	松山　奈未（九国大付属中）	
		縄田　佳子（九国大付属中）				
第13回（H24）香川県	男子	佐藤　優希（山家ウイングス）	河野　敦紘（九国大付属中）	八色　駿（九国大付属中）	吉岡　将汰（八幡西ジュニア）	予選リーグ敗退
		櫻山　和大（八幡西ジュニア）				
	女子	松山　奈未（九国大付属中）	縄田　佳子（九国大付属中）	大野　琴乃（九国大付属中）	宮原　美樹（九国大付属中）	
		肥田木　あかり（COLORS）	平野　紗妃（九国大付属中）			
第14回（H25）北海道	男子	中島　圭寿（北九州ｽﾋﾟﾘｯﾂ）	藤川　敬（須恵ｼﾞｭﾆｱ）	室屋　鼓太朗（JBC小倉）	小田　一晴（海老津ジュニア）	予選リーグ敗退
		石橋　陸（九国大付属中）				
	女子	平野　紗妃（九国大付属中）	松岡　真那（九国大付属中）	髙橋　佑妃（九国大付属中）	若崎　美羽（春日イーグルス）	
		小西　春七（九国大付属中）				
第15回（H26）新潟	男子	石橋　陸（九国大付属中）	靏野　嵩翔（九国大付属中）	肥田木　武（COLORS）	江頭　大輝（能古中）	ベスト16
		浦　隆斗（能古中）				
	女子	小西　春七（九国大付属中）	目野　穂乃香（三橋中）	櫻山　春佳（北九州ｽﾋﾟﾘｯﾂ）	田島　珠姫（九国大付属中）	
		中村　麻誉（九国大付属中）				
第16回（H27）宮崎	男子	江頭　大輝（能古中）	浦　隆斗（能古中）	中島　巧（能古中）	高橋　洸士（JBC小倉）	ベスト16 九州優勝
		吉松　基（九国大付属中）				
	女子	田島　珠姫（九国大付属中）	中村　麻誉（九国大付属中）	古賀　咲直（香住ヶ丘ｼﾞｭﾆｱ）	牟田　夏樹（大木中）	
		甲斐　千尋（北九州ｽﾋﾟﾘｯﾂ）				
第17回（H28）岡山	男子	武田　優雅（能古中）	池辺　貴誌（能古中）	花田　彬（さつき会）	中村　知也（Sesakｼﾞｭﾆｱ）	予選リーグ敗退 九州優勝
		濵原　和騎（九国大付属中）				
	女子	川島　菜々（九国大付属中）	八色　舞（九国大付属中）	赤嶺　きらり（九国大付属中）	本田　彩香（九国大付属中）	
第18回（H29）奈良	男子	田中　市之介（能古中）	西方　俊之（能古中）	棚原　蓮（海老津ｼﾞｭﾆｱ）	山腰　悠太（海老津ｼﾞｭﾆｱ）	九州優勝
		石崎　太一（海老津ｼﾞｭﾆｱ）				
	女子	川床　美都希（九国大付属中）	室屋　奏乃（九国大付属中）	千北　梨花子（江南中）	今村　涼（江南中）	
		桑野　怜奈（橘中）				

【福岡県高等学校体育連盟バドミントン専門部過去の栄光（H9～H29）】

			1位		2位		3位		3位	
平成9年	高校総体	男子団体	九州国際大学付属		福岡大学附属大濠		三池工業		九州共立大八幡西	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		福岡南女子		九州女子	
		男子単	石井　元気	（　九国大付　）	池田　信太郎	（　九国大付　）	浅野　秀成	（　八幡西　）	岡田　淳	（　九国大付　）
		女子単	森　かおり	（　九国大付　）	山本　郁美	（　精華女子　）	松尾　美穂子	（　九国大付　）	三好　奈緒	（　精華女子　）
		男子複	武田・岡田	（　九国大付　）	池田・石井	（　九国大付　）	光永・井戸	（　八幡西　）	清水・内田	（　八幡西　）
		女子複	森・中内	（　九国大付　）	原口・三好	（　精華女子　）	幸田・木村	（　精華女子　）	山本・脇坂	（　精華女子　）
	新人戦	男子団体	九州国際大学付属		福岡大学附属大濠		九州共立大八幡西		山門	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		福岡南女子		久留米学園	
		男子単	池田　信太郎	（　九国大付　）	岡田　淳	（　九国大付　）	内田　詩基	（　八幡西　）	森田　達	（　九国大付　）
		女子単	松尾　美穂子	（　九国大付　）	三好　奈緒	（　精華女子　）	脇坂　郁	（　精華女子　）	野村　由貴子	（　精華女子　）
		男子複	池田・岡田	（　九国大付　）	内田・西村	（　八幡西　）	甲斐・岡本	（　九国大付　）	森田・古賀	（　九国大付　）
		女子複	中内・奥村	（　九国大付　）	木村・三好	（　精華女子　）	野村・脇坂	（　精華女子　）	西光寺・古川	（　精華女子　）

			1位		2位		3位		3位	
平成10年	高校総体	男子団体	九州国際大学付属		福岡大学附属大濠		三池工業		九州共立大八幡西	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		福岡南女子		九州女子	
		男子単	池田　信太郎	（　九国大付　）	岡田　淳	（　九国大付　）	小田	（　福大大濠　）	多久島　一慶	（　福大大濠　）
		女子単	松尾　美穂子	（　九国大付　）	三好　奈緒	（　精華女子　）	木村　佳苗	（　九国大付　）	中内　景子	（　九国大付　）
		男子複	池田・岡田	（　九国大付　）	内田・西村	（　八幡西　）	後藤・多久島	（　福大大濠　）	森田・齋藤	（　九国大付　）
		女子複	三好・木村	（　精華女子　）	中内。藤本	（　九国大付　）	西光寺・古川	（　精華女子　）	脇坂・野村	（　精華女子　）
	新人戦	男子団体	九州国際大学付属		九州共立大八幡西		福岡大学附属大濠		三池工業	
		女子団体	精華女子		九州国際大学付属		行橋		九州女子	
		男子単	森田　達	（　九国大付　）	潮田　恭平	（　九国大付　）	近藤　伸俊	（　八幡西　）	守田　喬	（　九国大付　）
		女子単	松尾　美穂子	（　九国大付　）	田辺　理恵	（　九国大付　）	脇坂　郁	（　精華女子　）	野村　由貴子	（　精華女子　）
		男子複	森田・齋藤	（　九国大付　）	甲斐・守田	（　九国大付　）	近藤・本堀	（　八幡西　）	菖蒲・松尾	（　八幡西　）
		女子複	野村・脇坂	（　精華女子　）	松尾・藤本	（　九国大付　）	田ノ上・奥村	（　九国大付　）	成富・古川	（　精華女子　）

			1位		2位		3位		3位	
平成11年	高校総体	男子団体	九州国際大学付属		福岡大学附属大濠		春日		九州共立大八幡西	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		行橋		九州女子	
		男子単	森田　達	（　九国大付　）	潮田　恭平	（　九国大付　）	山浦　尚仁	（　八幡西　）	草場　利貞	（　福大大濠　）
		女子単	松尾　美穂子	（　九国大付　）	脇坂　郁	（　精華女子　）	田辺　理恵	（　九国大付　）	潮田　玲子	（　九国大付　）
		男子複	森田・守田	（　九国大付　）	近藤・山浦	（　八幡西　）	潮田・岡本	（　九国大付　）	甲斐・齋藤	（　九国大付　）
		女子複	松尾・藤本	（　精華女子　）	野村・脇坂	（　精華女子　）	古川・成富	（　精華女子　）	田ノ上・石井	（　九国大付　）
	新人戦	男子団体	九州国際大学付属		九州共立大八幡西		福岡大学附属大濠		三池工業	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		八幡南		福岡南女子	
		男子単	近藤　伸俊	（　八幡西　）	草場　利貞	（　福大大濠　）	田中　繁光	（　三池工業　）	山浦　尚仁	（　八幡西　）
		女子単	潮田　玲子	（　九国大付　）	和田　真優	（　九国大付　）	春田　衣麻	（　九国大付　）	西　彰子	（　精華女子　）
		男子複	守田・齋藤	（　九国大付　）	本堀・山浦	（　八幡西　）	草場・高橋	（　福大大濠　）	田代・旗生	（　九国大付　）
		女子複	潮田・春田	（　九国大付　）	竹村・西	（　精華女子　）	木下・山田	（　九国大付　）	渡辺・稲尾	（　精華女子　）

			1位		2位		3位		3位	
平成12年	高校総体	男子団体	福岡大学附属大濠		九州国際大学付属		三池工業		九州共立大八幡西	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		八幡南		九州女子	
		男子単	山浦　尚仁	（　八幡西　）	守田　喬	（　九国大付　）	近藤　伸俊	（　八幡西　）	草場　利貞	（　福大大濠　）
		女子単	潮田　玲子	（　九国大付　）	和田　真優	（　九国大付　）	春田　衣麻	（　九国大付　）	山田　紘実	（　九国大付　）
		男子複	守田・齋藤	（　九国大付　）	本堀・山浦	（　八幡西　）	草場・奥薗	（　福大大濠　）	森田・斉藤	（　福大大濠　）
		女子複	山田・春田	（　九国大付　）	潮田・田村	（　九国大付　）	和田・山田	（　九国大付　）	渡辺・稲尾	（　精華女子　）
	新人戦	男子団体	福岡大学附属大濠		九州国際大学付属		九州共立大八幡西		武蔵台	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		折尾		福岡南女子	
		男子単	小澤　薫	（　八幡西　）	高橋　敦	（　福大大濠　）	森田　広貴	（　福大大濠　）	伊藤　健司	（　九国大付　）
		女子単	潮田　玲子	（　九国大付　）	和田　真優	（　九国大付　）	春田　衣麻	（　九国大付　）	山田　紘実	（　精華女子　）
		男子複	森田・斉藤	（　福大大濠　）	伊藤・旗生	（　九国大付　）	有田・奥村	（　北九高専　）	小澤・今西	（　八幡西　）
		女子複	潮田・春田	（　九国大付　）	山田・田村	（　九国大付　）	古賀・長部	（　精華女子　）	西・竹村	（　精華女子　）

			1位		2位		3位		3位	
平成13年	高校総体	男子団体	福岡大学附属大濠		九州共立大八幡西		九州国際大学付属		武蔵台	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		東筑		福岡南女子	
		男子単	小澤　薫	（　八幡西　）	高橋　敦	（　福大大濠　）	斉藤　篤史	（　福大大濠　）	森田　広貴	（　福大大濠　）
		女子単	潮田　玲子	（　九国大付　）	西　彰子	（　精華女子　）	和田　真優	（　九国大付　）	玉井　真理亜	（　九国大付　）
		男子複	森田・斉藤	（　福大大濠　）	有田・奥村	（　北九高専　）	高橋・諸熊	（　福大大濠　）	小澤・今西	（　八幡西　）
		女子複	潮田・春田	（　九国大付　）	山田・田村	（　九国大付　）	西・竹村	（　精華女子　）	坂井・武田	（　九国大付　）
	新人戦	男子団体	九州共立大八幡西		福岡大学附属大濠		九州国際大学付属		武蔵台	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		東筑		福岡南女子	
		男子単	小澤　薫	（　八幡西　）	今西　健司	（　八幡西　）	中西　雄希	（　九国大付　）	有田　雄紀	（　九国大付　）
		女子単	小野　智子	（　九国大付　）	長部　千賀子	（　精華女子　）	山田　紘実	（　九国大付　）	泊　しのぶ	（　精華女子　）
		男子複	小澤・秋武	（　八幡西　）	松田・石谷	（　九国大付　）	諸熊・前田	（　福大大濠　）	下向・古賀	（　福大大濠　）
		女子複	坂本・小野	（　九国大付　）	山田・田村	（　九国大付　）	古賀・長部	（　精華女子　）	泊・竹内	（　精華女子　）

			1位		2位		3位		3位	
平成14年	高校総体	男子団体	自由ケ丘		九州国際大学付属		福岡大学附属大濠		武蔵台	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		東筑		福岡南女子	
		男子単	小澤　薫	（　自由ケ丘　）	今西　健司	（　自由ケ丘　）	中西　雄希	（　九国大付　）	秋武　一也	（　自由ケ丘　）
		女子単	小野　智子	（　九国大付　）	長部　千賀子	（　精華女子　）	山田　紘実	（　九国大付　）	武田　千江美	（　九国大付　）
		男子複	小澤・秋武	（　自由ケ丘　）	今西・石垣	（　自由ケ丘　）	古賀・諸熊	（　福大大濠　）	松田・石谷	（　九国大付　）
		女子複	山田・田村	（　九国大付　）	長部・古賀	（　精華女子　）	小野・坂本	（　九国大付　）	泊・竹内	（　精華女子　）
	新人戦	男子団体	自由ケ丘		九州国際大学付属		福岡大学附属大濠		武蔵台	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		東筑		福岡南女子	
		男子単	中西　雄希	（　九国大付　）	有田　雄紀	（　九国大付　）	秋武　一也	（　自由ケ丘　）	石垣　祐貴	（　自由ケ丘　）
		女子単	関谷　真由	（　九国大付　）	小野　智子	（　九国大付　）	久野　納菜	（　九国大付　）	玉井　杏理	（　九国大付　）
		男子複	秋武・石垣	（　自由ケ丘　）	松崎・諸隈	（　福大大濠　）	塘内・平島	（　自由ケ丘　）	酒見・中西	（　九国大付　）
		女子複	坂本・小野	（　九国大付　）	和田・樋口	（　東筑　）	横田・大丸	（　九国大付　）	玉井・久野	（　九国大付　）

			1位		2位		3位		3位	
平成15年	高校総体	男子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		福岡大学附属大濠		武蔵台	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		東筑		福岡南女子	
		男子単	中西　雄希	（　九国大付　）	有田　雄紀	（　九国大付　）	秋武　一也	（　自由ケ丘　）	石垣　裕貴	（　自由ケ丘　）
		女子単	関谷　真由	（　九国大付　）	小野　智子	（　九国大付　）	久野　納菜	（　九国大付　）	玉井　杏理	（　九国大付　）
		男子複	秋武・石垣	（　自由ケ丘　）	諸熊・中園	（　福大大濠　）	中西・酒見	（　九国大付　）	有田・中務	（　九国大付　）
		女子複	小野・坂本	（　九国大付　）	関谷・下崎	（　九国大付　）	横田・三村	（　九国大付　）	中原・久田	（　福岡南女　）
	新人戦	男子団体	九州国際大学付属		福岡大学附属大濠		自由ケ丘		有明工業高等専門	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		自由ケ丘		福岡南女子	
		男子単	小木　淳司	（　九国大付　）	中務　敬太	（　九国大付　）	服部　真明	（　筑紫丘　）	中嶋　諒太	（　福大大濠　）
		女子単	関谷　真由	（　九国大付　）	久野　納菜	（　九国大付　）	山本　恵	（　九国大付　）	伊藤　奈採	（　精華女子　）
		男子複	中園・中嶋	（　福大大濠　）	小木・中務	（　九国大付　）	山口・黒田	（　九国大付　）	阿部・垰畑	（　北九高専　）
		女子複	横田・下崎	（　九国大付　）	関谷・三村	（　九国大付　）	大丸・岡崎	（　九国大付　）	久野・山本	（　九国大付　）

			1位		2位		3位		3位	
平成16年	高校総体	男子団体	福岡大学附属大濠		九州国際大学付属		自由ケ丘		春日	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		東筑		自由ケ丘	
		男子単	中嶋　諒一	（　福大大濠　）	中務　敬太	（　九国大付　）	久場　秀行	（　福大大濠　）	山口　雄基	（　九国大付　）
		女子単	関谷　真由	（　九国大付　）	久野　納菜	（　九国大付　）	谷口　智美	（　自由ケ丘　）	下崎　彩	（　九国大付　）
		男子複	中園・中嶋	（　福大大濠　）	小木・中務	（　九国大付　）	古川・具志堅	（　自由ケ丘　）	中嶋・福森	（　福大大濠　）
		女子複	横田・久野	（　九国大付　）	関谷・下崎	（　九国大付　）	山本・大丸	（　九国大付　）	谷口・坂井	（　自由ケ丘　）
	新人戦	男子団体	福岡大学附属大濠		自由ケ丘		春日		中間	
		女子団体	自由ケ丘		九州国際大学付属		精華女子		東海大学第五	
		男子単	中嶋　諒太	（　福大大濠　）	久場　秀行	（　福大大濠　）	松井　翼	（　九国大付　）	穴水　宗一郎	（　福大大濠　）
		女子単	伊藤　奈採	（　精華女子　）	下崎　彩	（　九国大付　）	井上　莉沙	（　東海第五　）	谷口　智美	（　自由ケ丘　）
		男子複	中嶋・久場	（　福大大濠　）	原・前之原	（　春日　）	佐和・上原	（　自由ケ丘　）	牛島・大石	（　福大大濠　）
		女子複	伊藤・竹口	（　精華女子　）	谷口・板井	（　自由ケ丘　）	井上・北原	（　東海第五　）	福島・旗生	（　東海第五　）

			1位		2位		3位		3位	
平成17年	高校総体	男子団体	福岡大学附属大濠		自由ケ丘		北九州高専		春日	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		東海大学第五		自由ケ丘	
		男子単	具志堅　興平	（　自由ケ丘　）	久場　秀行	（　福大大濠　）	穴見　宗一郎	（　福大大濠　）	中嶋　諒太	（　福大大濠　）
		女子単	谷口　智美	（　自由ケ丘　）	栗原　文音	（　九国大付　）	山本　恵	（　九国大付　）	下崎　彩	（　九国大付　）
		男子複	具志堅・西村	（　自由ケ丘　）	牛島・久場	（　福大大濠　）	原・前之原	（　春日　）	上原・佐和	（　自由ケ丘　）
		女子複	下崎・栗原	（　九国大付　）	伊藤・竹口	（　精華女子　）	坂中・牧之瀬	（　九国大付　）	谷口・板井	（　自由ケ丘　）
	新人戦	男子団体	自由ケ丘		福岡大学附属大濠		春日		筑紫丘	
		女子団体	九州国際大学付属		東海大学第五		精華女子		福岡南女子	
		男子単	具志堅　興平	（　自由ケ丘　）	穴見　宗一郎	（　福大大濠　）	牧　崇史	（　福大大濠　）	日高　篤俊	（　福岡　）
		女子単	栗原　文音	（　九国大付　）	井上　莉沙	（　東海第五　）	坂中　夢	（　九国大付　）	仲間　光	（　九国大付　）
		男子複	具志堅・西村	（　自由ケ丘　）	飯山・石田	（　自由ケ丘　）	白石・森上	（　自由ケ丘　）	牧・大野	（　福大大濠　）
		女子複	井上・福島	（　東海第五　）	牧之瀬・坂中	（　九国大付　）	仲間・植田	（　九国大付　）	山本・笹野	（　精華女子　）

			1位		2位		3位		3位	
平成18年	高校総体	男子団体	自由ケ丘		福岡大学附属大濠		有明高専		春日	
		女子団体	九州国際大学付属		東海大学第五		福岡常葉		精華女子	
		男子単	具志堅　興平	（　自由ケ丘　）	日高　篤俊	（　福岡　）	原田　和憲	（　自由ケ丘　）	牧　奏史	（　福大大濠　）
		女子単	栗原　文音	（　九国大付　）	仲間　光	（　九国大付　）	井上　莉沙	（　東海第五　）	伊藤　麻亜美	（　九国大付　）
		男子複	具志堅・西村	（　自由ケ丘　）	白石・森上	（　自由ケ丘　）	牧・末松	（　福大大濠　）	林田・原田	（　自由ケ丘　）
		女子複	仲間・栗原	（　九国大付　）	牧之瀬・坂中	（　九国大付　）	井上・福島	（　東海第五　）	植田・井上	（　九国大付　）
	新人戦	男子団体	福岡大学附属大濠		自由ケ丘		春日		九州国際大学付属	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		精華女子		東海大学第五	
		男子単	日高　篤俊	（　福岡　）	原田　和憲	（　自由ケ丘　）	林田　成也	（　自由ケ丘　）	小木　啓太	（　九国大付　）
		女子単	栗原　文音	（　九国大付　）	伊藤　麻亜美	（　九国大付　）	井上　樹理	（　九国大付　）	古賀　さやみ	（　福岡常葉　）
		男子複	牧・末松	（　福大大濠　）	森上・石田	（　自由ケ丘　）	北野・北野	（　福大大濠　）	林・原田	（　自由ケ丘　）
		女子複	栗原・植田	（　九国大付　）	牧之瀬・坂中	（　九国大付　）	古賀・松原	（　福岡常葉　）	眞鍋・石垣	（　九国大付　）

			1位		2位		3位		3位	
平成19年	高校総体	男子団体	福岡大学附属大濠		自由ケ丘		九州国際大学付属		春日	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		東海大学第五		精華女子	
		男子単	日高　篤俊	（　福岡　）	原田　和憲	（　自由ケ丘　）	末松　純	（　福大大濠　）	牧　奏史	（　福大大濠　）
		女子単	栗原　文音	（　九国大付　）	古賀　さやみ	（　福岡常葉　）	森山　葉月	（　九国大付　）	坂中　夢	（　九国大付　）
		男子複	森上・原田	（　自由ケ丘　）	牧・末松	（　福大大濠　）	北野・北野	（　福大大濠　）	林田・石田	（　自由ケ丘　）
		女子複	栗原・植田	（　九国大付　）	牧之瀬・坂中	（　九国大付　）	古賀・松原	（　東海第五　）	石垣・兼光	（　九国大付　）
	新人戦	男子団体	福岡大学附属大濠		自由ケ丘		春日		九州国際大学付属	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		福岡常葉		東海大学第五	
		男子単	末松　純	（　福大大濠　）	原田　和憲	（　自由ケ丘　）	松原　恭平	（　自由ケ丘　）	北野　大地	（　福大大濠　）
		女子単	井上　樹理	（　九国大付　）	室園　菜摘	（　九国大付　）	三木　佑希子	（　九国大付　）	森山　葉月	（　九国大付　）
		男子複	原田・堤	（　自由ケ丘　）	末松・北野	（　福大大濠　）	下村・栗焼	（　九国大付　）	谷川・山路	（　自由ケ丘　）
		女子複	石垣・兼光	（　九国大付　）	井上・松井	（　九国大付　）	眞鍋・清水	（　九国大付　）	小田・清水	（　九国大付　）

			1位		2位		3位		3位	
平成20年	高校総体	男子団体	福岡大学附属大濠		自由ケ丘		九州国際大学付属		春日	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		東海大学第五		福岡常葉	
		男子単	原田　和憲	（　自由ケ丘　）	末松　純	（　福大大濠　）	北野　大地	（　福大大濠　）	堤	（　自由ケ丘　）
		女子単	室園　菜摘	（　九国大付　）	森山　葉月	（　九国大付　）	三木　祐希子	（　九国大付　）	井上　樹理	（　九国大付　）
		男子複	末松・北野	（　福大大濠　）	原田・堤	（　自由ケ丘　）	下村・栗焼	（　九国大付　）	小木・相良	（　九国大付　）
		女子複	井上・石垣	（　九国大付　）	松井・兼光	（　九国大付　）	松原・川谷	（　福岡常葉　）	眞鍋・森山	（　九国大付　）
	新人戦	男子団体	自由ケ丘		九州国際大学付属		有明工業高等専門		山門	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		福岡常葉		東海大学第五	
		男子単	坂本　逸平	（　修猷館　）	蒲原　健太郎	（　福岡常葉　）	大塚　悟司	（　福大大濠　）	川崎　誠大	（　九国大付　）
		女子単	室園　菜摘	（　九国大付　）	広瀬　敦美	（　九国大付　）	三木　祐希子	（　九国大付　）	清水　あゆ美	（　九国大付　）
		男子複	松本・川崎	（　九国大付　）	北原・川上	（　自由ケ丘　）	上原・島袋	（　自由ケ丘　）	蒲原・村岡	（　福岡常葉　）
		女子複	室園・小田	（　九国大付　）	清水・清水	（　九国大付　）	藤吉・小田本	（　精華女子　）	俣村・近藤	（　福岡常葉　）

			1位		2位		3位		3位	
平成21年	高校総体	男子団体	自由ケ丘		九州国際大学付属		福岡常葉		北九州工業専門	
		女子団体	九州国際大学付属		精華女子		東海大学第五		福岡常葉	
		男子単	北原　光次郎	（　自由ケ丘　）	松本　剛	（　九国大付　）	川﨑　誠大	（　九国大付　）	濱	（　自由ケ丘　）
		女子単	俣村　鈴	（　福岡常葉　）	広瀬　敦美	（　九国大付　）	清水　あゆ美	（　九国大付　）	藤吉　郁美	（　精華女子　）
		男子複	北原・川上	（　自由ケ丘　）	松本・川﨑	（　九国大付　）	宮本・上原	（　自由ケ丘　）	山之内・森田	（　九国大付　）
		女子複	清水・清水	（　九国大付　）	俣村・近藤	（　福岡常葉　）	室園・小田	（　九国大付　）	若松・前田	（　九国大付　）
	新人戦	男子団体	自由ケ丘		九州国際大学付属		東筑		東海大学第五	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		精華女子		東海大学第五	
		男子単	川上　甚	（　自由ケ丘　）	森田　浩平	（　九国大付　）	上原　幸也	（　自由ケ丘　）	北原　光次郎	（　自由ケ丘　）
		女子単	俣村　鈴	（　福岡常葉　）	広瀬　敦美	（　九国大付　）	原田　萌未	（　九国大付　）	堂山　友里愛	（　九国大付　）
		男子複	島袋・上原	（　自由ケ丘　）	北原・川上	（　自由ケ丘　）	山添・中村	（　自由ケ丘　）	山之内・森田	（　九国大付　）
		女子複	堂山・井上	（　九国大付　）	俣村・近藤	（　福岡常葉　）	若松・前田	（　九国大付　）	大野・原田	（　九国大付　）

			1位		2位		3位		3位	
平成22年	高校総体	男子団体	自由ケ丘		九州国際大学付属		東海大学第五		東筑	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		東海大学第五		自由ケ丘	
		男子単	中西　俊彰	（　九国大付　）	上原　幸也	（　自由ケ丘　）	川上　甚	（　自由ケ丘　）	北原　光次郎	（　自由ケ丘　）
		女子単	広瀬　敦美	（　九国大付　）	金森　望	（　九国大付　）	中村　麻裕	（　九国大付　）	俣村　鈴	（　福岡常葉　）
		男子複	森田・石山	（　九国大付　）	北原・川上	（　自由ケ丘　）	山添・中村	（　自由ケ丘　）	上原・島袋	（　自由ケ丘　）
		女子複	堂山・井上	（　九国大付　）	俣村・近藤	（　福岡常葉　）	中村・金森	（　九国大付　）	大野・広瀬	（　九国大付　）
	新人戦	男子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		東海大学第五		中間	
		女子団体	九州国際大学付属		東海大学第五		福岡常葉		自由ケ丘	
		男子単	森田　浩平	（　九国大付　）	松山　広豊	（　九国大付　）	中村　心	（　自由ケ丘　）	濱崎　元輝	（　自由ケ丘　）
		女子単	原田　萌未	（　九国大付　）	堂山　友里愛	（　九国大付　）	金森　望	（　九国大付　）	中村　麻裕	（　九国大付　）
		男子複	森田・石山	（　九国大付　）	濱崎・中村	（　自由ケ丘　）	松岡・高田	（　九国大付　）	久世・米持	（　九国大付　）
		女子複	原田・中村	（　九国大付　）	堂山・井上	（　九国大付　）	前田・大野	（　九国大付　）	金森・伊東	（　九国大付　）

			1位		2位		3位		3位	
平成23年	高校総体	男子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		東海大学第五		山門	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		東海大学第五		自由ケ丘	
		男子単	森田　浩平	（　九国大付　）	濱崎　元輝	（　自由ケ丘　）	成富　勇太	（　自由ケ丘　）	馬場　湧生	（　九国大付　）
		女子単	中村　麻裕	（　九国大付　）	堂山　友里愛	（　九国大付　）	原田　萌未	（　九国大付　）	伊東　歩雪	（　九国大付　）
		男子複	濱崎・中村	（　自由ケ丘　）	森田・石山	（　九国大付　）	山添・宮崎	（　自由ケ丘　）	原口・成富	（　自由ケ丘　）
		女子複	堂山・井上	（　九国大付　）	中村・金森	（　九国大付　）	前田・大野	（　九国大付　）	西尾・里見	（　九国大付　）
	新人戦	男子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		東筑		山門	
		女子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		東海大学第五		福岡常葉	
		男子単	馬場　湧生	（　九国大付　）	松山　広豊	（　九国大付　）	成富　勇太	（　自由ケ丘　）	山元　渉平	（　九国大付　）
		女子単	中村　麻裕	（　九国大付　）	松岡　英美	（　九国大付　）	入江　志歩	（　自由ケ丘　）	金森　望	（　九国大付　）
		男子複	原口・成富	（　自由ケ丘　）	馬場・中里	（　九国大付　）	多賀・米持	（　九国大付　）	山元・松山	（　九国大付　）
		女子複	中村・金森	（　九国大付　）	西尾・寺田	（　九国大付　）	里見・松岡	（　九国大付　）	水野・中野	（　東海第五　）

			1位		2位		3位		3位	
平成24年	高校総体	男子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		東海大学第五		山門	
		女子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		東海大学第五		福岡常葉	
		男子単	成富　勇太	（　自由ケ丘　）	原口　拓巳	（　自由ケ丘　）	松山　広豊	（　九国大付　）	西坂　昇	（　九国大付　）
		女子単	中村　麻裕	（　九国大付　）	松岡　英美	（　九国大付　）	西村　美幸	（　九国大付　）	寺田　桃香	（　九国大付　）
		男子複	成富・原口	（　自由ケ丘　）	大屋・高瀬	（　自由ケ丘　）	山元・松山	（　九国大付　）	宮崎・松原	（　自由ケ丘　）
		女子複	中村・金森	（　九国大付　）	西尾・寺田	（　九国大付　）	大野・西坂	（　九国大付　）	松岡・里見	（　九国大付　）
	新人戦	男子団体	自由ケ丘		九州国際大学付属		山門		東海大学第五	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		自由ケ丘		東海大学第五	
		男子単	馬場　湧生	（　九国大付　）	成富　勇太	（　自由ケ丘　）	荒木　惇	（　山門　）	原口　拓巳	（　自由ケ丘　）
		女子単	櫻本　絢子	（　九国大付　）	松岡　英美	（　九国大付　）	寺田　桃香	（　九国大付　）	櫻山　希実子	（　自由ケ丘　）
		男子複	成富・原口	（　自由ケ丘　）	馬場・中里	（　九国大付　）	占部・寺脇	（　自由ケ丘　）	多賀・田中	（　九国大付　）
		女子複	西尾・櫻本	（　九国大付　）	大野・西坂	（　九国大付　）	寺田・里見	（　九国大付　）	野田・藤木	（　福岡常葉　）

			1位		2位		3位		3位	
平成25年	高校総体	男子団体	自由ケ丘		九州国際大学付属		東海大学第五		山門	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		自由ケ丘		折尾	
		男子単	原口　拓巳	（　自由ケ丘　）	成富　勇太	（　自由ケ丘　）	馬場　湧生	（　九国大付　）	西坂　昇	（　九国大付　）
		女子単	櫻本　絢子	（　九国大付　）	松岡　英美	（　九国大付　）	野田　千遥	（　福岡常葉　）	中村　茉里子	（　福岡常葉　）
		男子複	寺脇・笹川	（　自由ケ丘　）	成富・原口	（　自由ケ丘　）	馬場・水谷	（　九国大付　）	多賀・田中	（　九国大付　）
		女子複	櫻本・寺田	（　九国大付　）	西尾・西坂	（　九国大付　）	中野・重田	（　九国大付　）	櫻山・岩尾	（　自由ケ丘　）
	新人戦	男子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		山門		東海大学第五	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		折尾		東海大学第五	
		男子単	水谷　希純	（　九国大付　）	古賀　駿一	（　山門　）	福田晋也	（　東海第五　）	笹川　大志	（　自由ケ丘　）
		女子単	遠山　きよら	（　九国大付　）	野田　千遥	（　福岡常葉　）	石橋　舞	（　九国大付　）	中村　茉里子	（　福岡常葉　）
		男子複	笹川・大槻	（　自由ケ丘　）	荒木・中里	（　山門　）	本・藤田	（　九国大付　）	武生・川口	（　九国大付　）
		女子複	中野・重田	（　九国大付　）	野田・中村	（　福岡常葉　）	吉永・篠原	（　山門　）	藤木・目野	（　福岡常葉　）

			1位		2位		3位		3位	
平成26年	高校総体	男子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		山門		東海大学第五	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		山門		折尾	
		男子単	藤田　将徳	（　九国大付　）	川口　寛祐	（　九国大付　）	荒木　広夢	（　山門　）	栁　秀俊	（　自由ケ丘　）
		女子単	松山　奈未	（　九国大付　）	松本　茜	（　九国大付　）	喜岡　奈美	（　九国大付　）	遠山　きよら	（　九国大付　）
		男子複	荒木・中里	（　山門　）	藤田・川口	（　九国大付　）	城間・吉岡	（　自由ケ丘　）	木元・砂坂	（　山門　）
		女子複	重田・田島	（　九国大付　）	石橋・松山	（　九国大付　）	縄田・喜岡	（　九国大付　）	目野・藤本	（　福岡常葉　）
	新人戦	男子団体	自由ケ丘		山門		九州国際大学付属		中間	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		折尾		東海大学第五	
		男子単	佐藤　優希	（　自由ケ丘　）	栁　秀俊	（　自由ケ丘　）	青木　伴史	（　福工城東　）	葛城　大介	（　自由ケ丘　）
		女子単	松山　奈未	（　九国大付　）	喜岡　奈美	（　九国大付　）	平野　紗妃	（　九国大付　）	大森　美里	（　九国大付　）
		男子複	吉岡・栁	（　自由ケ丘　）	櫻山・中嶋	（　自由ケ丘　）	山本・砂坂	（　山門　）	鳥本・八色	（　九国大付　）
		女子複	松山・縄田	（　九国大付　）	平野・松岡	（　九国大付　）	野田・中島	（　福岡常葉　）	松島・山本	（　福岡常葉　）

			1位		2位		3位		3位	
平成27年	高校総体	男子団体	九州国際大学付属		山門		自由ケ丘		東海大学第五	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		東海大学第五		折尾	
		男子単	西坂　昇	（　九国大付　）	荒木　広夢	（　山門　）	藤田　将徳	（　九国大付　）	大槻　昭太	（　自由ケ丘　）
		女子単	野田　千遥	（　福岡常葉　）	石橋　舞	（　九国大付　）	松山　奈未	（　九国大付　）	喜岡　奈美	（　九国大付　）
		男子複	西坂・水谷	（　九国大付　）	笹川・大槻	（　自由ケ丘　）	荒木・中里	（　山門　）	武生・川口	（　九国大付　）
		女子複	石橋・松山	（　九国大付　）	吉野・堂山	（　折尾　）	中野・重田	（　九国大付　）	野田・中村	（　自由ケ丘　）
	新人戦	男子団体	山門		九州国際大学付属		自由ケ丘		城南	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		折尾		東海大学第五	
		男子単	荒木　広夢	（　山門　）	藤田　将徳	（　九国大付　）	川口　寛祐	（　九国大付　）	中里　李之	（　山門　）
		女子単	松山　奈未	（　九国大付　）	松本　茜	（　九国大付　）	石橋　舞	（　九国大付　）	喜岡　奈美	（　九国大付　）
		男子複	荒木・中里	（　山門　）	城間・吉岡	（　自由ケ丘　）	藤田・川口	（　九国大付　）	友枝・井上	（　東海第五　）
		女子複	重田・田島	（　九国大付　）	松山・石橋	（　九国大付　）	縄田・喜岡	（　九国大付　）	目野・野田	（　福岡常葉　）

			1位		2位		3位		3位	
平成28年	高校総体	男子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		山門		中間	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		東海大学付属福岡		折尾	
		男子単	中島　圭寿	自由ケ丘　）	葛城　大介	（　自由ケ丘　）	柳　秀俊	（　自由ケ丘　）	鳥本　嵩人	（　九国大付　）
		女子単	松山　奈未	（　九国大付　）	野田　帆奈美	（　福岡常葉　）	平野　紗妃	（　九国大付　）	小西　春七	（　九国大付　）
		男子複	鳥本・八色	（　九国大付　）	山本・砂坂	（　山門　）	吉岡・柳	（　自由ケ丘　）	櫻山・中島	（　自由ケ丘　）
		女子複	松山・縄田	（　九国大付　）	平野・小西	（　九国大付　）	宮原・川床	（　九国大付　）	野田・中島	（　福岡常葉　）
	新人戦	男子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		東海大学付属福岡		山門	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		折尾		東海大学付属福岡	
		男子単	中島　圭寿	（　自由ケ丘　）	石橋　陸	（　九国大付　）	藤川　敬	（　自由ケ丘　）	樋口　心	（　山門　）
		女子単	平野　紗妃	（　九国大付　）	中島　祐月	（　福岡常葉　）	小西　春七	（　九国大付　）	倉成　祐生	（　福岡常葉　）
		男子複	中島・藤川	（　自由ケ丘　）	伊藤・石橋	（　九国大付　）	壇・藤吉	（　自由ケ丘　）	米田・小田	（　自由ケ丘　）
		女子複	平野・小西	（　九国大付　）	中島・山本	（　福岡常葉　）	倉成・目野	（　福岡常葉　）	松島・若崎	（　九国大付　）

			1位		2位		3位		3位	
平成29年	高校総体	男子団体	自由ケ丘		九州国際大学付属		山門		北九州工業高等専	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		東海大学付属福岡		誠修	
		男子単	中島　圭寿	自由ケ丘）	石橋　陸	（九国大付）	伊藤　良樹	（九国大付）	吉松　基	（九国大付）
		女子単	中島　祐月	（福岡常葉）	松岡　真那	（九国大付）	平野　紗妃	（九国大付）	倉成　祐生	（福岡常葉）
		男子複	中島・藤川	（自由ケ丘）	伊藤・石橋	（九国大付）	山下・倉島	（自由ケ丘）	小田・壇	（自由ケ丘）
		女子複	平野・小西	（九国大付）	中島・山本	（福岡常葉）	倉成・目野	（福岡常葉）	松井・田中	（東海福岡）
	新人戦	男子団体	九州国際大学付属		自由ケ丘		北九州工業高等専		山門	
		女子団体	九州国際大学付属		福岡常葉		折尾		東海大学付属福岡	
		男子単	石橋　陸	（九国大付）	壇　隆介	（自由ケ丘）	肥田木　武	（九国大付）	吉松　基	（九国大付）
		女子単	小西　春七	（九国大付）	目野　穂乃香	（福岡常葉）	古賀　咲直	（福岡常葉）	髙崎　夏実	（福岡常葉）
		男子複	石橋・吉松	（九国大付）	壇・鷺野	（自由ケ丘）	肥田木・安谷屋	（九国大付）	阿久根・弓削	（九国大付）
		女子複	小西・田島	（九国大付）	目野・髙崎	（福岡常葉）	古賀・岡	（福岡常葉）	松井・田中	（東海福岡）

【福岡県教職員バドミントン連盟】

全日本教職員バドミントン選手権大会　福岡県選手の記録（3位以内入賞者）

第 1回（1962）東京都文京区	
第 2回（1963）群馬県桐生市	
第 3回（1964）三重県伊勢市	
第 4回（1965）大分県日田市	
第 5回（1966）北海道札幌市	
第 6回（1967）富山県高岡市	
第 7回（1968）大阪府大阪市	
第 8回（1969）埼玉県上尾市	
第 9回（1970）岐阜県岐阜市	
第10回（1971）岡山県岡山市	
第11回（1972）秋田県秋田市	一般女子団体　3位
第12回（1973）滋賀県大津市	
第13回（1974）熊本県熊本市	一般女子団体　3位
	50歳以上男子単　優勝（成井）
第14回（1975）栃木県小山市	50歳以上男子複　優勝（成井、筧）
	50歳以上男子単　優勝（筧）
第15回（1976）東京都世田谷区	30歳以上男子単　3位（中島）
	30歳以上男子複　2位（野見山、都）
第16回（1977）山口県下関市	30歳以上男子複　3位（加冷、成井）
第17回（1978）宮城県仙台市	
第18回（1979）福岡県北九州市	男子成壮年団体　3位　福岡県A、福岡県B
	30歳以上男子単　3位（中島）
	30歳以上女子単　2位（古川）
	30歳以上男子単　3位（国宗）
	50歳以上男子複　2位（加冷、大島）
	50歳以上男子複　3位（金光、成井）
第19回（1980）石川県金沢市	50歳以上男子単　3位（大島）
第20回（1981）福島県郡山市	30歳以上男子単　3位（野見山）
	50歳以上男子単　3位（大島）
第21回（1982）佐賀県嬉野市	男子成壮年団体　3位
	30歳以上男子単　3位（古川）
	50歳以上男子複　2位（後藤、国宗）
	混合複　3位（鯨、高城）
第22回（1983）静岡県沼津市	
第23回（1984）青森県弘前市	
第24回（1985）福井県福井市	40歳以上男子複　優勝（野見山、鑓水）
第25回（1986）広島県広島市	40歳以上男子複　3位（野見山、鑓水）
第26回（1987）北海道苫小牧市	
第27回（1988）奈良県奈良市	
第28回（1989）香川県坂出市	一般女子団体　3位
	一般男子複　3位（荒木、目野）

第29回(1990)岩手県盛岡市
第30回(1991)愛知県豊橋市
第31回(1992)熊本県熊本市
第32回(1993)神奈川県平塚市　一般男子単　2位(明神)
一般男子複　2位(荒木、明神)
第33回(1994)石川県金沢市　一般男子団体　3位
一般男子単　2位(明神)
一般男子複　3位(荒木、明神)
一般女子単　3位(野中)
第34回(1995)鳥取県米子市　一般男子団体　3位
30歳以上男子単　優勝(荒木)
30歳以上男子複　優勝(荒木、目野)
50歳以上男子単　3位(野見山)
第35回(1996)千葉県千葉市　30歳以上男子単　優勝(荒木)
第36回(1997)和歌山市新宮市
第37回(1998)愛媛県松山市
第38回(1999)青森県青森市
第39回(2000)三重県伊勢市
第40回(2001)福岡県北九州市　30歳以上男子単　3位(明神)
30歳以上男子複　2位(明神、伊藤)
30歳以上女子複　3位(平田、矢野)
40歳以上女子単　3位(赤穂)
総合成績　第7位入賞
第41回(2002)山梨県甲府市
第42回(2003)宮崎県宮崎市　一般女子単　2位(木村)
30歳以上女子単　3位(赤穂)
第43回(2004)島根県三刀屋屋町　40歳以上女子単　2位(赤穂)
第44回(2005)栃木県宇都宮市
第45回(2006)京都府長岡京市他　60歳以上男子単　2位(副島)
第46回(2007)長崎県大村市　30歳以上女子複　優勝(田中、原田)
50歳以上男子複　3位(妹川、釜瀬)
60歳以上男子単　3位(副島)
第47回(2008)茨城県牛久市　30歳以上女子複　2位(田中、原田)
60歳以上男子単　3位(副島)
第48回(2009)兵庫県神戸市　一般男子複　優勝(西田、八重倉)
30歳以上女子複　2位(原田、野中)
65歳以上男子単　3位(副島)
第49回(2010)鹿児島県薩摩川内市　一般男子団体　2位(野中、田村、古賀、日髙)
一般男子複　3位(田村、古賀)
30歳以上女子複　3位(原田、野中)
65歳以上男子単　優勝(副島)
65歳以上男子複　優勝(廣瀬、副島)
総合成績　第6位入賞
第50回(2011)愛媛県松山市　40歳以上男子単　3位(野中)
65歳以上男子複　3位(廣瀬、副島)

第51回(2012)長野県長野市	65歳以上男子単　3位(副島)
	65歳以上男子複　3位(廣瀬、副島)
第52回(2013)宮崎県宮崎市	一般女子単　優勝(関谷)
	40歳以上男子単　3位(野中)
	65歳以上男子単　3位(副島)
	65歳以上男子複　3位(廣瀬、副島)
第53回(2014)東京都墨田区他	一般女子単　優勝(関谷)
	70歳以上男子単　3位(副島)
	70歳以上男子複　2位(廣瀬、副島)
第54回(2015)奈良県田原本町他	一般男子団体　3位(田村、古賀、前田、小木)
	65歳以上男子単　3位(羽江)
	70歳以上男子複　2位(廣瀬、副島)
第55回(2016)鳥取県鳥取市	60歳以上男子複　3位(妹川、釜瀬)
	70歳以上男子複　2位(廣瀬、副島)
第56回(2017)福島県郡山市	一般男子団体　優勝(田村、古賀、前田、小木、高口)
	30歳以上男子複　3位(田村、古賀)
	65歳以上男子単　3位(羽江)
	70歳以上男子単　3位(副島)
	70歳以上男子複　優勝(廣瀬、副島)
	総合成績　第9位入賞



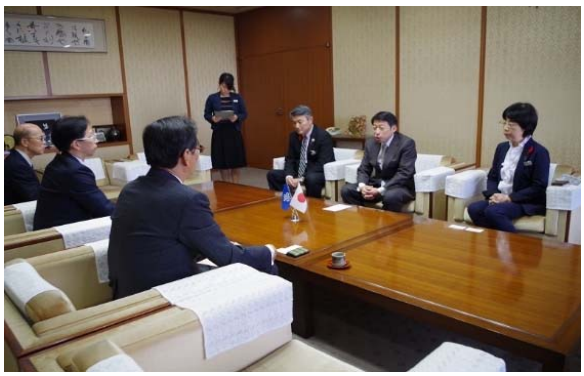
「平成29年九州北部豪雨災害」 寄附のご報告

平成29年11月25日
福岡県実業団バドミントン連盟

福岡県実業団連盟各事業所の皆様のご厚意により、平成29年九州北部豪雨の被災地・被災者支援として、災害義援金を福岡県に寄附させて頂きました。
この度の豪雨により被災された皆様、ご関係の皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

1．日時
　平成29年11月8日（水）　14時30分～15時00分
2．場所
　福岡県庁
3．贈呈者
　福岡県実業団バドミントン連盟
　　会長　　杉山 新治
　　副会長　小出 寿朗
　　理事長　堂山 武
4．受領者
　福岡県副知事　　服部 誠太郎
5．義援金額
　300,000円
6．寄附金の取り扱い
　県が行う、被災地支援・災害復旧等の事業に活用


服部副知事（左から2番目）へ贈呈


服部副知事らと懇談

第２４回福岡県実業団バドミントン選手権大会兼
第６回九州実業団バドミントン選手権大会
トーナメント戦

男子出場チーム名及び選手名

	チ ー ム 名	監 督 名	選　　手　　名
1	福岡市役所	八木 達也	八木 達也　富永 雅士 玉野 祐策　森塚　陽 古浦 翔大 西方 智也
2	トヨタ自動車九州	小出 寿朗	原田 和憲　新宅 地塩 具志堅興平　妹尾 雄介 坂中 賢太　佐和 浩幸 小森 洋佑　犬尾 友海
3	NPO法人 ＴＯＴＯＳ北九州	土居 正依	飯山 俊成　上村 武史 楠根 浩一　井田 知宏 小山 浩史　中村 幸平 神園 直樹　土居 正依
4	ＴＯＴＯ	川口　満	川口　満　小川 直人 藤永 和宏　中西 健斗 神　祐紀　前田 克史 木村 昴史
5	新日鐵住金八幡	有田 友紀	有田 友紀　柳 祥太郎 白石　遼　壽　恵介 山下 翔平　西田 昂史 松本 久雄　福田 稔宏
6	日産自動車九州	富村 道徳	中川 浩章　富村 道徳 西村 敏彦　鮫島 敏雄 濱田 輝政　二宮 明弘 原田 聡志　浦　克己
7	運動具屋	宮本 浩明	松原 恭平　川崎 誠大 谷川 七斗　宮本　海 山路 勇樹　近本　哲 吉本　貴　大槻 純也
8	北九州市役所	堂山　武	堂山　武　西村 偉志 野見山仁伸　荻阪　諒 池田 修士　名切 悠揮 豊田 翔司　久保田悠司
9	グッドウェーブ 鹿児島	草ノ瀬公一郎	八重倉里史　中村 洸太 染木 俊寛 勢瀬 拓也 モハマッド アリフ ビン ラティフ
１０	三菱ケミカル	津原 良輔	津原 良輔 千原 亮太 池淵 優斗 越智 臨平
１１	ケイ・エス・ケイ	有吉 祐希	有吉 祐希　伊藤 博史 高田 亮太　松下 和憲 松崎 泰寛 野見山陽三

	チ ー ム 名	監 督 名	選　　手　　名
１２	西日本シティ銀行	有田　雄紀	有田　雄紀　　岩下　裕一 江崎　　淳　　甲斐　祐輝 佐分利亮汰　　中村　正己 田中　祐聖
１３	三菱重工長崎	吉岡　健二	吉岡　健二　　櫻木健太郎 中村　満雄 川勝　直輝 谷川　慶丞

申込順にて記載

タイムテーブル

	１コート	２コート	３コート	４コート	５コート	６コート
１０：００～	M－１	M－２	M－３	M－４	M－５	
	M－６	M－７	M－８	M－９	M－１０	
	M－１１	M－１２	M－１３	M－１４	M－１５	M－１６
	M－１７	M－１８	M－１９	M－２０		

抽選について

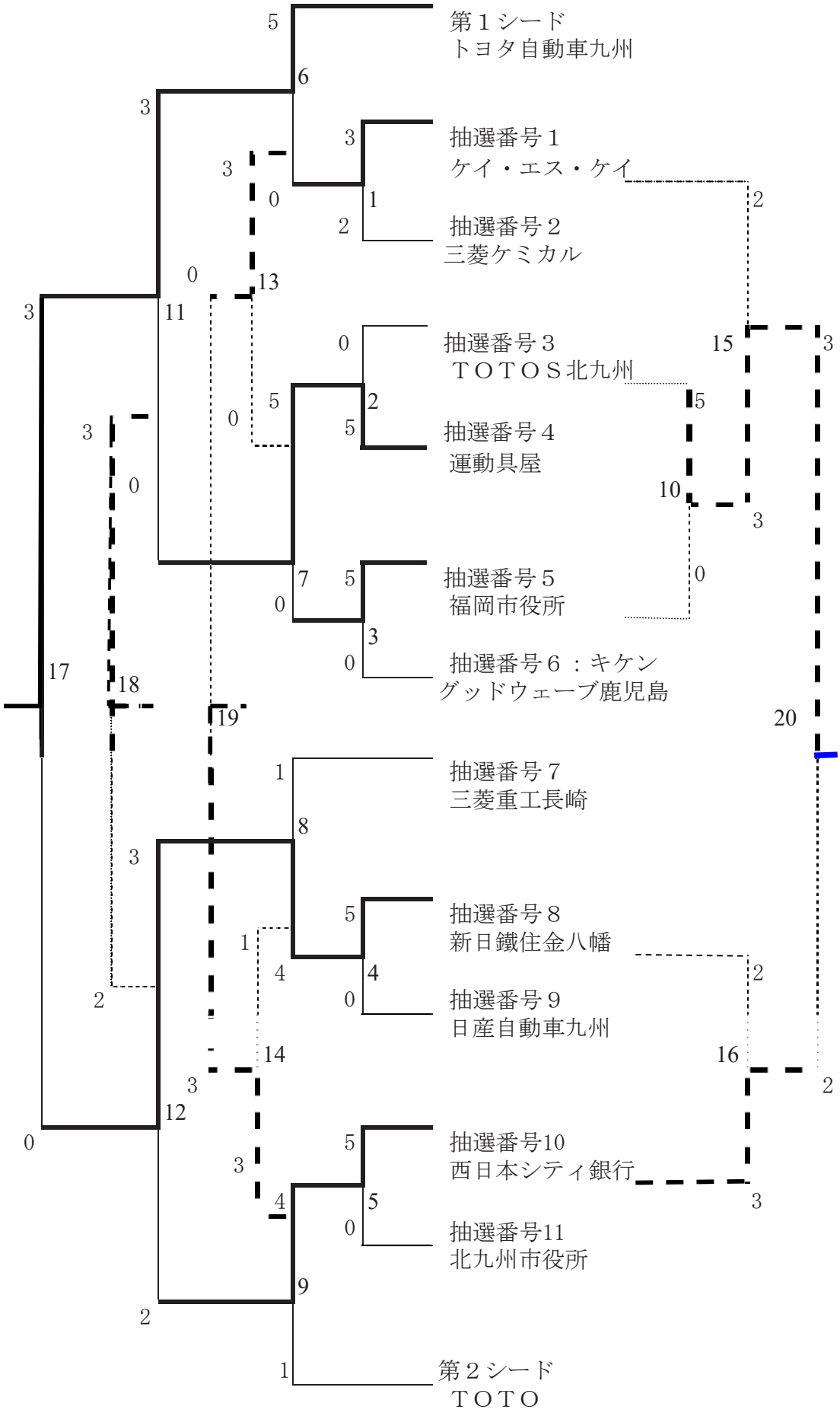
１）昨年の成績によるシード方式とする。
　　１位：トヨタ自動車九州
　　２位：ＴＯＴＯ

２）申し込み順による抽選とする。

注意

１）オーダー用紙の提出は速やかに願います。
２）２複３単とし、複より行う。単・複を兼ねることが出来る。
３）初回戦は５マッチ（試合）すべてを行う。但し、勝敗決定後のマッチについては、相手監督の了解を得てメンバーチェンジを行うことが出来る。但し、了解後はその旨を本部へ報告し、承認を得ること。
４）２回戦以降は３点先取にて打ち切りとする。
５）審判は相互審判でお願いします。
　　審判用紙、団体戦記録用紙の記帳は正確にお願いします。

男子団体（M）


第１シード
トヨタ自動車九州
抽選番号１
ケイ・エス・ケイ
抽選番号２
三菱ケミカル
抽選番号３
ＴＯＴＯＳ北九州
抽選番号４
運動具屋
抽選番号５
福岡市役所
抽選番号６：キケン
グッドウェーブ鹿児島
抽選番号７
三菱重工長崎
抽選番号８
新日鐵住金八幡
抽選番号９
日産自動車九州
抽選番号10
西日本シティ銀行
抽選番号11
北九州市役所
第２シード
ＴＯＴＯ

平成29年度福岡県実業団バドミントン選手権大会
前期リーグ戦結果

期日：平成29年7月23日
会場：かすやドーム

男子１部

チーム名	監督	選手名
トヨタ自動車九州 A	小出　寿朗	原田　和憲　小森　洋佑 具志堅興平 坂中　賢太
新日鐵住金　A	真谷　英雄	有田　友紀　壽　恵介 松本　久雄　西田　昂史 山道　龍太　柳　翔太郎
西日本シティ銀行 A	岩下　裕一	岩下　裕一　甲斐　祐輝 有田　雄紀　佐分利亮汰 江崎　淳　田中　祐聖
トヨタ自動車九州 B	小出　寿朗	假屋　翔太　黒田　真司 内田　裕和　新宅　地塩 菖蒲　隆　妹尾　雄介
福岡県警察　A	肥田木　実	新野尾　剛　大久保慎太 大賀　将裕　皆上　拓郎 栗焼　大地

男子１部

チーム名	トヨタ自動車九州A	新日鐵住金A	西日本シティ銀行A	トヨタ自動車九州B	福岡県警察A	順位
トヨタ自動車九州 A		⑨ ３－０	⑦ ３－０	④ ３－０	② ３－０	4-0 1
新日鐵住金 A	０－３		③ ０－３	① ０－３	⑥ ２－１	1-3 4
西日本シティ銀行 A	０－３	３－０		⑤ ０－３	⑩ ２－１	2-2 3
トヨタ自動車九州 B	０－３	３－０	３－０		⑧ ３－０	3-1 2
福岡県警察 A	０－３	１－２	１－２	０－３		0-4 5

男子２部

チ　ー　ム　名	監　　督	選　　手　　名
ＴＯＴＯ　　Ａ	川口　　満	藤永　和宏　　小川　直人 神　　祐紀　　川口　　満 木村　昂史　　前田　克史
日産自動車九州	富村　道徳	中川　浩章　　浦　　克己 西村　敏彦　　富村　道徳 原田　聡志　　二宮　明弘
NPO法人 ＴＯＴＯＳ　Ａ	土居　正依	飯山　俊成　　神園　直樹　　井田　知宏 楠根　浩一　　上村　武史　　長濱　信也 小山　浩史　　土居　正依
新日鐵住金　Ｂ	真谷　英雄	小池　　純　　白石　　遼 西野　和樹　　波多野勝哉 山下　翔平
トヨタ自動車九州 Ｃ	小出　寿朗	山本陽一郎　　内田　勝基 青木　良成　　永井　良一 喜田　勇介　　犬尾　友海

男子２部

チ　ー　ム　名	ＴＯＴＯ Ａ	日産 自動車 九州	ＴＯＴＯＳ Ａ	新日鐵 住金 Ｂ	トヨタ 自動車 九州Ｃ	順　位
ＴＯＴＯ　Ａ		⑨ ３－０	⑦ ２－１	④ ２－１	② ３－０	4-0 1
日産自動車九州	０－３		③ ０－３	① ０－３	⑥ １－２	0-4 5
NPO法人 ＴＯＴＯＳ Ａ	１－２	３－０		⑤ ２－１	⑩ ３－０	3-1 2
新日鐵住金　Ｂ	１－２	３－０	１－２		⑧ ３－０	2-2 3
トヨタ自動車 九州　Ｃ	０－３	２－１	０－３	０－３		1-3 4

男子３部

チ　ー　ム　名	監　　督	選　　手　　名
福岡市役所　　A	八木　達也	八木　達也　　富永　雅士 古浦　翔大　　玉野　祐策 西方　智也
福岡県庁　　A	山本　　智	山本　　智　　高口　剛典 坂中　正憲　　佐々木拓朗 藤田　　純　　岩本　卓朗
アリヨシ･スポーツ	田中　和弘	田中　和弘　　渡辺憲太郎 金子　太郎　　内村　徹平 中村　亮二　　萬田　翔太
安　川　電　機	藤井　順二	藤井　順二　　山本　昭太 小澤　　旭　　福島　悠貴 安田　侑輝　　舛添　周一
北九州市役所　A	堂山　　武	宮崎　賢一　　豊田　翔司　　野見山仁伸 池田　修士　　藤田　悠希　　久保田悠資 中村　正博　　西村　偉志

男子３部

チ　ー　ム　名	福岡 市役所 A	福岡県庁 A	アリヨシ ・ スポーツ	安川電機	北九州 市役所 A	順　位
福岡市役所　A		⑨ ２－１	⑦ ２－１	④ ３－０	② １－２	3-1 2
福岡県庁　　A	１－２		③ ２－１	① １－２	⑥ １－２	1-3(13-14) 3
アリヨシ・ スポーツ	１－２	１－２		⑤ ２－１	⑩ １－２	1-3(12-14) 4
安川電機	０－３	２－１	１－２		⑧ １－２	1-3(9-19) 5
北九州市役所 A	２－１	２－１	２－１	２－１		4-0 1

男子４部

チ　ー　ム　名	監　　督	選　　手　　名
トヨタ自動車九州　D		キケン
ＴＯＴＯ　　Ｂ	小川　孝法	小川　孝法　　原田　翔司 小田原翔太　　片岡　　豊 大石　拓生　　小俣　英夫
福岡市役所　　Ｂ	沖　　佑馬	沖　　佑馬　　東地　駿介 岩﨑慎太郎　　長間　尚大 森塚　　陽　　花城　大亮
西部ガス	椋本　浩行	椋本　浩行　　西岡　大介　　販巻　敬之 三好　　一　　大石　裕也 井上啓一郎　　南里　恭範
福岡市役所　　Ｃ	青木　弘明	青木　弘明　　遙山　紘央　　彌永　高則 牛嶋　貴洋　　佐藤　　浩 坂口　孝裕　　久保田和広

男子４部

チ　ー　ム　名	トヨタ自動車九州Ｄ	ＴＯＴＯ　Ｂ	福岡市役所　Ｂ	西部ガス	福岡市役所　Ｃ	順　位
トヨタ自動車九州　Ｄ						キケン ５
ＴＯＴＯ　　Ｂ			⑤ ２－１	③ １－２	② ２－１	2-1 ２
福岡市役所　Ｂ		１－２		① １－２	④ ０－３	0-3 ４
西部ガス		２－１	２－１		⑥ ２－１	3-0 １
福岡市役所　Ｃ		１－２	３－０	１－２		1-2 ３

男子５部

チ　ー　ム　名	監　　督	選　　手　　名
三菱ケミカル　A	津原　良輔	津原　良輔　　池淵　優斗 久野　祐基　　越智　臨平 千原　亮太
三井化学　　A	稲田　明弘	稲田　明弘　　築地　慶明 森川　健史　　藤好　通志 宮崎　真聡　　江上　瑠威
北九州市役所　B	堂山　　武	堂山　　武　　渡辺　健一　　荻阪　　諒 水口　明彦　　石川　知弘　　名切　悠輝 勝部　龍平　　鍋川　卓也
西日本シティ銀行　B	中村　正己	中村　正己　　藤木　洋輔 久住　　猛　　佐田　　聡 竹井　洋志
新日鐵住金　　C	真谷　英雄	福田　稔宏　　山本　一樹 中元　拓也　　西崎　英明 中村　久志　　古田　謙二

男子５部

チ　ー　ム　名	三菱ケミカルA	三井化学A	北九州市役所B	西日本シティ銀行B	新日鐵住金C	順　位
三菱ケミカルA		⑨ ３－０	⑦ ３－０	④ ２－１	② ３－０	4-0 1
三井化学　A	０－３		③ １－２	① ０－３	⑥ １－２	0-4 5
北九州市役所B	０－３	２－１		⑤ ０－３	⑩ ０－３	1-3 4
西日本シティ銀行　B	１－２	３－０	３－０		⑧ １－２	2-2 3
新日鐵住金　C	０－３	２－１	３－０	２－１		3-1 2

男子６部

チ　ー　ム　名	監　　督	選　　手　　名
九州大学	野中　宏修	野中　宏修　吉田　武志　田中　　充 冨浦　洋一　西　　哲郎　厳島　　怜 浮島　啓司　奥川　貴志
NPO法人 ＴＯＴＯＳ　　Ｂ		キケン
ローム・アポロ	本土　隆一	重　　琢磨　小柳　　仁　萩尾　嘉紀 永井　広和　園田　修盛　本土　隆一 板橋　昭徳　滝川　大介
福岡県庁　　Ｂ	荒木　邦夫	岸垣　公也　荒木　邦夫 坂本　義文　松本　　亨 藤枝　輝也　木村　太郎
ケイ・エス・ケイ	伊藤　博史	有吉　祐希　野見山陽三 高田　亮太　伊藤　博史 松崎　泰貴　松下　和憲

男子６部

チ　ー　ム　名	九州大学	ＴＯＴＯＳ　Ｂ	ローム・アポロ	福岡県庁　Ｂ	ケイ　エス　ケイ	順　位
九州大学			⑤ ２－１	③ １－２	② １－２	1-2 ３
NPO法人 ＴＯＴＯＳ Ｂ						ｷｹﾝ ５
ローム・アポロ	１－２			① １－２	④ １－２	0-3 ４
福岡県庁　　Ｂ	２－１		２－１		⑥ ０－３	2-1 ２
ケイ･エス･ケイ	２－１		２－１	３－０		3-0 １

男子７部（Ａパート）

チ　ー　ム　名	監　　督	選　　手　　名
防衛省福岡	村上　和弘	村上　和弘　　柳沢　公士　　俵野　　宏 松本　崇志　　上村　大輔　　増山　凌也 蔵野　将汰　　醍醐　正人
福岡県警察　　Ｂ	肥田木　実	持永　茂明　　伊東　　翔　　山口　貴志 藤田　　佑　　奥田　　孝 柳田　将吾　　安藤　尚樹
三井化学　　Ｃ	森　　潤一	森　　潤一　　松尾　悟大 竹下　泰介　　松永　成人 吉永　　航
ＴＯＴＯ　　Ｃ		キケン

男子７部（Ａパート）

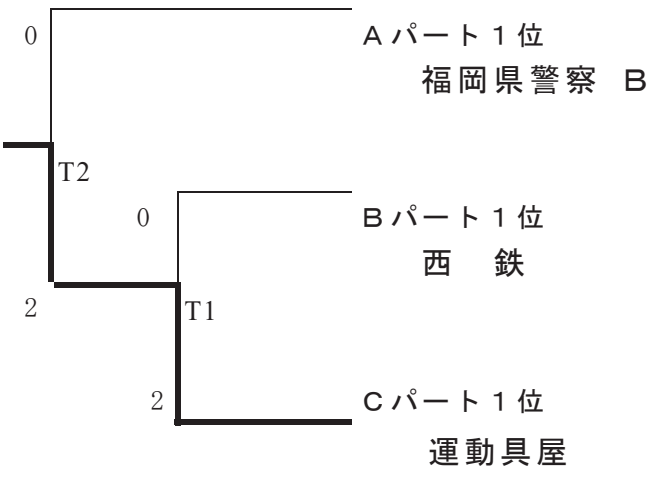
チ　ー　ム　名	防衛省福岡	福岡県 警察 Ｂ	三井化学 Ｃ	ＴＯＴＯ Ｃ	順　位
防衛省福岡		⑤ ０－３	③ ２－１	②	1-1 ２
福岡県警察　Ｂ	３－０		① ３－０	④	2-0 １
三井化学　　Ｃ	１－２	０－３		⑥	0-2 ３
ＴＯＴＯ　Ｃ					ｷｹﾝ ４

男子７部（Ｂパート）

チ　ー　ム　名	監　　督	選　　手　　名
西　鉄	波多江貞弘	波多江貞弘　渕上　和樹 杉山　明央　徳永　法将 浜田　富彦
久留米市役所	戸上　泰希	吉山　修一　古賀　智己　国武　正寛 古賀　英明　田中　雄基　三角　浩一 戸上　泰希　柴尾　俊哉
三井化学　　Ｂ	入江　睦雄	入江　睦雄　南　　健一 浦　　大輔　福田　　稔 奥園　俊二　野田　　守

男子７部（Ｂパート）

チ　ー　ム　名	西　鉄	久留米市役所	三井化学　Ｂ	順　位
西　鉄		③ ２－１	① ３－０	2-0 １
久留米市役所	１－２		② ０－３	0-2 ３
三井化学　Ｂ	０－３	３－０		1-1 ２



男子７部（Ｃパート）

チ　ー　ム　名	監　　督	選　　手　　名
福岡県庁　　Ｃ	長倉　　功	長倉　　功　　田中　雄大 野口　朋宏　　永瀬　柾貴 黒田　翔伍　　廣田　智哉
新日鐵住金　　Ｄ	真谷　英雄	大庭　　剛　　岡田　史郎 佐藤　孔司　　吉田　和道 大田　恭平　　菊地　雅之
運動具屋	宮本　浩明	松原　恭平　　吉本　　貴 山路　勇樹　　川﨑　誠大 赤嵜　祐翔　　近本　　哲
三菱ケミカル　Ｂ	小松　信一	小松　信一　　轟　　周 谷川　裕一　　竹本　洋己 實松　和也

男子７部（Ｃパート）

チ　ー　ム　名	福岡県庁　Ｃ	新日鐵住金　Ｄ	運動具屋	三菱ケミカル　Ｂ	順　位
福岡県庁　　Ｃ		⑤ ２－１	③ ０－３	② ２－１	2-1 ２
新日鐵住金　　Ｄ	１－２		① ０－３	④ ０－３	0-3 ４
運動具屋	３－０	３－０		⑥ ３－０	3-0 １
三菱ケミカル　Ｂ	１－２	３－０	０－３		1-2 ３

女子の部

チ　ー　ム　名	監　　督	選　　手　　名		
西日本シティ銀行	松本　里衣	松本　里衣	福地未季子	上原ゆかり
		田中　美里	仮屋　志保	
		清水なつ美	井上亜沙美	
北九州市役所	堂山　　武	堂山貴美子	池田　康恵	田村　友美
		有田　珠美	柳　　有佳	荒瀬　千紘
		宮崎　泰子	百田　明子	
福岡市役所	坂口　智恵	坂口　智恵	柳　　直子	高橋　真理
		仁田原智都代	平田　和代	
		小松ひとみ	嘉村　優希	

女子の部

チ　ー　ム　名	西日本シティ銀行	北九州市役所	福岡市役所	順　位
西日本シティ銀行		③ ３－０	① ３－０	2-0 1
北九州市役所	０－３		② ２－１	1-1 2
福岡市役所	０－３	１－２		0-2 3

全日本レディースバドミントン選手権大会　（都道府県対抗・クラブ対抗）栄光の記録

都道府県対抗			クラブ対抗	
第15回大会（H9）			優勝	AAクラブ
第23回大会（H17）	福岡県開催	3位	3位	シャトルフレンズ
第27回大会（H21）		優勝		
第28回大会（H22）		3位		
第29回大会（H23）		優勝		
第30回大会（H24）		優勝		
第31回大会（H25）		優勝	3位	AAクラブ
第32回大会（H26）		準優勝	3位	ささゆり
第33回大会（H27）		優勝		
第34回大会（H28）		準優勝		
第35回大会（H29）		優勝		

全日本レディースバドミントン競技大会（個人戦）栄光の記録

回数（年度）	種別		順位	選手名
第1回（H18）	2部	Dブロック	3位	古賀ひとみ・川谷明子（クリアレディース）
		E	3位	佐竹豊子・梅田眞澄（AA・FCC）
		H	準優勝	一木房江・山下シノブ（とびうめ・城南HI）
		I	3位	小川末子・河村郁子（春日リリーズ・広島県）
第2回（H19）	2部	H	準優勝	河内山由利子・内田紅美子（藤崎・ブルーリーブス）
第3回（H20）	2部	A	優勝	金子正子・松山裕子（藤崎・シャトルハウス）
		C	3位	廣本美秀・内山咲子（城の原・住吉）
		G	3位	桶本百合子・香月美津子（セピア・黒崎）
		H	優勝	河内山由利子・内田紅美子（藤崎・ブルーリーブス）
第4回（H21）	2部	G	3位	桶本百合子・香月美津子（セピア・黒崎）
		H	3位	河内山由利子・内田紅美子（藤崎・ブルーリーブス）
第5回（H22）	2部	B	準優勝	中森良子・入沢智美（セピア・シャトルハウス）
		E	3位	古賀ひとみ・川谷明子（クリアレディース）
		F	準優勝	梅田眞澄・光吉千佳子（FCC・シャトルフレンズ）
第7回（H24）	1部		優勝	谷口（原）智美・古賀さやみ（住吉・クリアレディース）
	2部	I	3位	河内山由利子・内田紅美子（藤崎・ブルーリーブス）
第9回（H26）	1部	準優勝		原智美・佐和紗月（AA・ビーハイブ）
	2部	E	3位	池口治美・九郎丸留美子（ささゆり・あおぞら）
第11回（H28）	2部	A	優勝	林恵未・麻生祐花（セピア・TOTOS北九州）
第12回（H29）	2部	F	3位	川谷明子・堂山貴美子（クリアレディース・セピア）
		H	3位	佐竹豊子・定直由起子（AA・藤崎）

*平成12年より、東日本大会と西日本大会が合併して新たに第1回大会の開催となりました。

全国大会等開催一覧表		
開催年度	大会名	開催地
平成９年度	平成９年度全日本シニアバドミントン選手権大会	福岡市
	バドミントン日本リーグ１９９７北九州大会	北九州市
平成１１年度	バドミントン日本リーグ１９９９北九州大会	北九州市
平成１３年度	平成１３年度全国教職員バドミントン選手権大会	北九州市
	バドミントン日本リーグ２００１久留米大会	久留米市
平成１４年度	バドミントン日本リーグ２００２北九州大会	北九州市
	第１１回全国小学生バドミントン選手権大会	北九州市
平成１６年度	日・韓高校生バドミントン交流競技会	北九州市
平成１７年度	平成１７年度全日本レディースバドミントン選手権大会	福岡市
平成１８年度	バドミントン日本リーグ２００６北九州大会	北九州市
平成１９年度	平成１９年度全日本中学生バドミントン選手権大会	北九州市
平成２１年度	全国高等専門学校バドミントン選手権大会	福岡市
	バドミントン日本リーグ２００９北九州大会	北九州市
	平成２１年度日・韓高校生バドミントン交流競技会	北九州市
平成２２年度	ヨネックスドリームマッチ２０１０北九州	北九州市
	平成２２年度全日本シニアバドミントン選手権大会	久留米市他
	バドミントン日本リーグ２０１０岡垣大会	岡垣町
平成２３年度	東日本大震災復興チャリティー　バドミントン・イベント	福岡市
平成２４年度	ヨネックスドリームマッチ２０１２福岡	福岡市
	平成２４年度日・韓中学生バドミントン交流競技会	北九州市
	平成２４年度全国高等学校選抜バドミントン選手権大会	北九州市
平成２５年度	平成２５年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技大会	北九州市
	日本スポーツマスターズ２０１３北九州大会	北九州市
平成２７年度	平成２７年度全日本社会人バドミントン選手権大会	北九州市
	平成２７年度全国小学生バドミントン選手権大会	北九州市

全国小学生大会の栄光			
開催年	成績	種目	選　手
16	1	男子団体	大塚　悟司、東久保　貴、延吉　弘孝、古賀　輝、吉岡　知浩
17	1	女子複４年生以下	西尾　千空、櫻本　絢子
	1	女子複６年生以下	堂山　友里愛、藤原　沙也加
18	1	女子単５年生以下	松岡　英美
	1	男子複５年生以下	山崎　諒介、成富　勇太
	1	女子複５年生以下	櫻本　絢子、西尾　千空
19	1	女子６年生以下複	櫻本　絢子、西尾　千空
	1	男子５年生以下単	古賀　穂
	1	女子４年生以下複	石橋　舞、重田　美空
20	1	男子６年生以下単	古賀　穂
	1	女子６年生以下複	中野　愛美、若林　杏佳
	1	女子５年生以下複	石橋　舞・重田　美空
23	1	女子４年生以下単	内山　智尋
24	1	女子５年生以下単	内山　智尋
25	1	女子団体	内山　智尋、田島　珠姫、中村　麻誉、 甲斐　千尋、髙崎　夏実、八色　舞
27	1	男子５年生以下複	山腰　悠太、石崎　太一
29	1	男５年生以下単	齊藤 礼

わかば大会の栄光			
開催年	成績	種目	選　手
19	1	男子団体	岡垣ジュニア 馬場　湧生、江川　昴志、田中　佑弥、市津　伊織、古賀　穂、 松本　祥真、浜崎　駿、久場　圭祐、河野　敦紘、田中　陽也
29	1	男子団体	岡垣ジュニア 野口　幹太、下田　瑞葵、楠本　悠人、井川　宏次郎、斉藤　礼、 久野　雅、光富　琉華、川野　寿真、中村　励心、春木　晄太郎〃

ABC大会の栄光

開催年	成績	種目	選　手
16	1	男子C	古賀　穂
17	1	女子B	櫻本　絢子
19	1	女子A	櫻本　絢子
20	1	男子C	石橋　陸
23	1	女子B	内山　智尋
25	1	女子A	内山　智尋
29	1	男子C	宮原　圭純

アジアユース大会の栄光

開催年	成績	種目	選　手
19	1	１３歳以下女子複	櫻本　絢子、西尾　千空
21	1	U－１５女子複	櫻本　絢子

全日本ジュニア大会の栄光

開催年	成績	種目	選　手
21	1	ジュニア新人の部　女子単	櫻本　絢子

全国中学生大会の栄光

開催年	成績	種目	選　手
22	1	女子単	櫻本　絢子

ジュニアグランプリの栄光

開催年	成績	種目	選　手
20	1	男子団体	古賀　穂、西坂　昇、森田　浩平、早野　博之 石山　裕基、原田　和憲、末松　純、北野　拓二

国民体育大会の栄光

開催年	成績	種目	選　手
20	1	少年男子	原田　和憲、末松　純、北野　拓二

全国高校選抜大会の栄光

開催年	成績	種目	選　手
24	1	女子学校対抗	九州国際大学付属高等学校 中村　麻裕、金森　望、西村　美幸、伊東 歩雪 松岡　英美、西尾　千空、寺田　桃香

全国高等専門学校大会の栄光			
開催年	成績	種目	選　　手
16	1	男子団体	北九州工業高等専門学校 内田　裕和、外谷　文人、玉井　淳基、中嶋　祐紀、 濱田　大樹、垰畑　陽平、阿部　陽輔、木村　昴史
	1	男子複	垰畑　陽平、阿部　陽輔
17	1	男子団体	北九州工業高等専門学校 藤吉　泰晴、堤　良広、玉井　淳基、中嶋　祐紀、 濱田　大樹、垰畑　陽平、阿部　陽輔、木村　昴史
	1	男子複	中嶋　祐紀　、垰畑　陽平
18	1	男子団体	北九州工業高等専門学校 垰畑　陽平、阿部　陽輔、山本　明弘、木村　昴史、 堤　良広、貝嶋　大輔、國武　芳規、毎床　悠企
	1	男子シングルス	垰畑　陽平
	1	男子複	池上　慶祐　、田上　拓弥
19	1	男子団体	北九州工業高等専門学校
	1	男子複	木村 昴史•堤 良広
	1	男子単	木村 昴史
20	1	男子団体	北九州工業高等専門学校 木村　昴史、堤　良広、貝嶋　大輔、岩田　広大、 毎床　悠企、福田　遼、北田　裕也•小川　直人
	1	男子複	北田　裕也•小川　直人
	1	男子単	木村 昴史
21	1	男子団体	有明工業高等専門学校 田上　拓弥、池上　貴英、武川　浩之、西川　和孝、 矢野　史也、藤本　駿一、岡崎　雄介、吉田　康平
	1	男子複	北田　裕也•小川　直人
	1	男子単	岡崎　雄介
22	1	男子単	小川　直人
23	1	男子単	小川　直人
	1	男子複	小川　直人、サミンダ
24	1	男子単	小川　直人
26	1	女子団体	北九州工業高等専門学 中村　有沙、松本　佳奈子、小林　亮子、山本　悠加、 工藤　春香、末綱　みのり、楠城　由佳
	1	女子単	楠城　由佳
27	1	女子団体	北九州工業高等専門学校 中村　有沙、工藤　春香、末綱　みのり、松見　紀依、 楠城　由佳、櫻井　栞、原　歩花、古賀　千晴
	1	女子単	楠城　由佳
	1	男子複	斉木　勇志、清水　一平
28	1	女子単	楠城　由佳
	1	男子複	斉木　勇志、清水　一平
29	1	男子団体	北九州工業高等専門学校 吉冨　景陽、米田　崚、室谷　鼓太朗、東　遼晴、 國分　蓮太、末永　圭佑、中山　弘史朗、坂口　直弥
	1	男子複	國分　蓮太、末永　圭佑
	1	男子単	吉冨　景陽

全国高校定時制通信制大会の栄光			
開催年	成績	種目	選　手
29	1	都道府県選抜 女子団体	本多　可奈、野中　葉月、清田　莉那、 池田　結衣、加藤　理那、池田　モニィ

全日本教職員大会の栄光			
開催年	成績	種目	選　手
22	1	男子65歳以上複	廣瀬　勇夫、副島　力
	1	男子65歳以上単	副島　力
	1	男子歳以上70単	廣瀬　勇夫
25	1	一般女子単	関谷　真由
26	1	一般女子単	関谷　真由
29	1	一般男子団体	田村　隆志、古賀　久臣、前田　浩輔、 小木　啓太、高口　剛典
	1	男子75歳以上複	廣瀬　勇夫、副島　力

日本スポーツマスターズの栄光			
開催年	成績	種目	選　手
25	1	女子団体	金子　正子、松山　裕子、阿久根　恭子、 小林　絵美、川谷　明子、堂山　貴美子
29	1	女子団体	小林　絵美、阿久根　恭子、堂山　貴美子、 川谷　明子、梅田　眞澄、矢野　一葉

全日本シニア大会の栄光

開催年	成績	種目	選　手
16	1	70歳以上男子複	宮部　五郎
	1	70歳以上女子複	吉田　信子、中原　ツイ子
20	1	女子60歳以上複	桶本　百合子
22	1	45歳以上女子複	田村 富士美
23	1	男子30歳以上複	野崎　勉、峰　浩志
	1	女子40歳以上複	田村 富士美
	1	女子60歳以上単	桶本　百合子
24	1	30歳以上混合複	武田　信一郎、赤尾　美代
	1	女子40歳以上複	田村 富士美
25	1	女子30歳以上複	松田　美穂
26	1	女子30歳以上複	松田　美穂
	1	女子35歳以上単	大石 瞳
	1	女子45歳以上複	金子　正子、田村 富士美
	1	女子50歳以上複	川谷 明子、堂山 貴美子
	1	女子65歳以上単	桶本　百合子
	1	女子65歳以上複	桶本　百合子
	1	男子70歳以上複	廣瀬 勇夫
27	1	女子35歳以上単	大石 瞳
	1	女子45歳以上複	金子　正子、田村 富士美
	1	45歳以上混合複	浜田　洋彰、金子 正子
	1	女子65歳以上単	桶本　百合子
28	1	女子30歳以上複	吉川　美穂
	1	30歳以上混合複	五島　雄一郎、小田原　恵美
	1	女子35歳以上単	大石 瞳
	1	女子35歳以上複	大石 瞳、松本　里衣
	1	女子45歳以上複	金子　正子、田村 富士美
29	1	女子35歳以上単	大石 瞳

世界シニア大会の栄光

開催年	成績	種目	選　手
16	1	55歳以上女子複	桶本　百合子
	1	55歳以上混合複	桶本　百合子
19	1	55歳以上女子複	桶本　百合子
21	1	60歳以上女子複	桶本　百合子
25	1	65歳以上女子単	桶本　百合子

2013年度のジュニア・グランプリの成果を総括する

福岡県バドミントン協会指導強化部

11月22日(金)から24日(日)まで、仙台市で行われた'ジュニア・グランプリ2013'(於:仙台市体育館、仙台市新田東総合運動公園宮城野体育館)が終了した。福岡県の戦績は以下のようであった。

男子(参加28都道府県):12組からなる予選リーグI組で山形県、北北海道と対戦、それぞれ 5-1、4-1で破って決勝トーナメントに進出(第3シードの山の下)。初戦の京都府に3-0で勝ち、準々決勝で青森県に3-1で破れた。

女子(参加28都道府県):12組からなる予選リーグD組で滋賀県、島根県と対戦、それぞれ5-0、5-0で下し、決勝トーナメントに進出(第4シードの山の下)。初戦の宮城Bを3-1、準々決勝で岐阜県を3-0で下して、準決勝で福島県と対戦し3-1で破れ、決定戦なしの3位となった。

この結果は、女子の優勝と併せて総合1位を狙った本県勢としては悔いの残る結果であった。これを結果だけから観れば、男子の対青森戦は高校シングルスの勝ちが見えていたことから、中学での単複・小学校の単の敗戦が響いたことになる。女子は、中学での単複、高校の複の敗戦が響いたことになる。この負け数の結果だけから単3、複3いずれかの功罪を指摘することはできないが、敢えて甲乙を付けるならば、中学部での負け数が他より多かったということができるだろう。

こうした結果を踏まえ、福岡県の強化指導体制を総括し、今後の課題を抽出するためにブレーン・ストーミング形式の分析を計画。地域の強化・指導を担うことになる公認4級指導者養成講習会に合わせて、県協会・支部協会の指導・強化担当者、小中高の主要な指導者が一堂に会し、研修を兼ねて少人数グループ(各班6~7名)6班に分かれて、'ライフ・スキル'のひとつであるブレーン・ストーミング技術の習得を兼ねた実習討議を行った。

プログラムは、

1) モデル課題の提示	10分
2) 司会、記録者、発表者の選出	5分
3) ブレーン・ストーミング	45分
4) 発表会	30分
5) 総括	10分

である。

【1】ブレーン・ストーミングでの分析モデルとなるイメージの提供

2013年11月『日経紙』で神戸大学三品和弘教授が紹介した「事業立地の戦略論」のうちのポーターの'5つの力'モデルより立地条件を河川流域の上流・中流・下流に見立てるモデルを借りて、小学校・中学校・高等学校のどこの流れがよくて、どこの流れが停滞しているかを評価し、その評価すべき点・問題となる点を抽出することとした。ジュニア・グランプリへのトライアルを一本の河の流れに例えて、それぞれの流れの様態、流れの接続性、そして流れの帰着点(目標である総合順位:海にも例えられる)へ向ける目の持ち方を検討しあった。問題点に関してはその変革への手だてを具体的に検討し、提言することとして議論を交わした。各グループ内ではまず論点が提起され、続いて活発な討議が繰り返された。

ちなみに、ポーターの企業立地を決める'5つの力'とは、(1) 顧客を奪い合うライバル (2) 利益を奪い合う川上での競争相手 (3) 同じく川下の競争相手 (4) 市場を奪い合う他分野のメーカー (5) 新規参入企業のことである。

これらをバドミントンの競技達成に絡む要素に置き換えてみると (1) 選手を奪い合う都道府県 (2) 競技成績を競い合うライバル都道府県 (3) 各学校段階でのライバル・プレーヤー (4) プレーヤーを育成する地域内のグループ (5) 新たな企業・学校(指導拠点)の誕生 等が考えられる。これまでこうした要因への対応を都道府県単位、市町村単位、学校単位で対応しようとするシステム的思考は存在しなかった。しかし、ジュニアの枠を超えれば、2020年のオリンピックを前に、企業と学校及び地方公共団体等との間の関係に一層拡大したプレーヤー争奪の新しい構図が出現してくる可能性は増えるだろう。こうした状況を前にして、ブレーン・ストーミングの結果は以下のようであった。



【2】 ブレーン・ストーミングの結果

A 班［金子、原口、南野、安部、堂本、馬郡］の発表



小・中の活動を終えると、県外に流出するプレーヤーがいる。流出するのはもちろんトップであるが、そのことで中流・下流に特に大きな変化が起きていないのは、個別的な努力があるからだ。そこは大きく評価できるが、子供の意識は一途に競技に特化していることに問題があるように思える。本県を総合的に評価すれば、全国のトップクラスを維持している。流出問題などは、第1に指導者間の横の連絡の形成、第2に本県の指導者のレベル・アップなどいっそう組織的な対応が求められていることが浮き彫りになる。現状はマナーやルールのない戦国時代が始まってきているのではないか。

小学生への指導：最も重要な基盤となる上流の小学生の人口はオリンピックが誘因となって拡大している。そのためもあって、小学生の指導で個別指導に欠ける面があっても、同じ動作の反復でも、良い結果に繋がっていたというのが一般な傾向であった。最近は特に保護者の監督がうるさくなってきて、子供が段々ロボット化されてきていることが見逃せない問題になっている。

中高生への指導：中高生には反復練習だけでなくいっそう自分で考える練習に変えていくようにしなければならないのではないか。福岡で育てても親が県外に出したがり、子も出たがってしまう。中高の指導者が向上していかないことが親にも子供にも観るとわかるからだ。現に、強いチームが少ない、優れた魅力的な指導者が少ないとなれば、親も子も1年でも早い学年からの確実な全国大会への出場を考えて、隙間（ニッチ）を狙う感情も生まれる。時には県内に強いチームのあることが徒（あだ）にもなる。しかし、これも中高の指導者が教員であるため、兼務を余儀なくされる中で生まれる環境的な制約によることも多い。こうして生まれる指導力の停滞、指導環境の固定化、選手の流出は複雑で複合的な問題だ。最終的には進路までを考えた、県協会の主導するピラミッド型の強化システムによる人間性や生き方まで教える一貫性こそが望まれるが、それは夢だとも思う。

B 班［山崎、采野、中島、二村、江崎、梅田］の発表

どの段階の流れを観ても、その段階を構成する個々のクラブで流れの様態は異なる。トップはナショナルを狙う激流の中にいるし、底辺はさざ波が立つほどに弱い流れのうちにある。総じて指導者という名を持つ者には似非指導者あるいは名前だけの指導者が多い。つまり、勉強不足だということだ。その結果単純に「厳しくすればよい」と思ったり、「ただ楽しければよい」と思ったりする。大きな問題は、子供の自立を促す指導が欠けていることで、それどころか指導者のエゴ（自意識）が強すぎることさえある。いずれにしても、クラブを運営する基本的な条件がほとんど何もない状態で活動が行われているのが現状だ。それでいて責任は極めて大きい。一方、活動費・運営費が安すぎて、指導陣を揃えることもできない。全てがボランティアでは、自ずと限界は見えている。



小学生への指導：中高のような学内でのクラブ活動・部活動の基本形態を持たない。これがバドミントン活動の形態として是であるのか非であるのか。小学生のバドミントン活動は重要なモデル的な実験の場になると思う。

中学生への指導：中学校における教育・スポーツ活動形態と中体連組織のあり方の関係にそれぞれの地域間の温度差があり、それが流れを大きく制約してくる。福岡では、部活では強化課題を展開できず、もっぱら学外のクラブ組織に任せるしかないケースが大半 を占める。しかも教員の強化活動への参加は時間外の指導となるため、その責任の所在を巡っても保証のない困難な状況が続いている。敢えていえば、一部の私学に熱い先生がいて、その活動が強化の実体的な流れをつくっている、ということになる。指導者次第の活動の格差は決定的に大きい。

高校生への指導：中学を終えての県外への流出があるが、県外からの流入もあって功罪半ばするか。九州国際、自由が丘、常葉のマッチレースがあり、それぞれ特色があるのでこの流域は激流になっている。

C 班［江口、入江、松本、馬場、岡崎、鳥山］の発表



県としての指導体制がまだ弱いと思われるのは、それが県外への流出を生む原因になっていると思われるからである。しかし、一方で、県外からの流入もある。いずれにせよ、指導・育成の環

境がしっかりしていれば、親が流出をしむける問題も克服できるのではないか。

小学生への指導：強い流れも一部で出てきているが、全体としてはまだ強い流れになってはいない。男女間にもまだ流れの差かある。

中学生への指導：小学校女子で全国1位、2位のメンバーを迎えこれからの期待が持てるところにきた。

高校生への指導：男女ともに全国大会の準決勝・決勝を突破する力の養成が必須。

D 班［荒井、勝本、中里、三好、小川、岩下］の発表



小・中の流れは以前の激流期に比べて落ちてきた。強かったのは一つのクラブが強かっただけで、その体制は多くのクラブがジュニア強化に参加するようになってきた現状では変革していかざるを得ない。そうした意味で、県協会に強化を含めた“指導者部会的な体制”が確立された方がよい。そこを通して地域への指導が活発化して欲しいからだ。その体制の中で、県が主催する各流れ内の交流会や各流れ間の段階を越えた交流会を盛んにする必要がある。子供たちは指導者をよく観ている。指導力に加えて、人格も性格も観ている。こうした視線に耐えられる指導者とその組織ぐるみの活動が必要だ。

小中学生への指導：4年生位から始める子供が多いが、開始年齢をもう1サイクル早くする必要がある。ジュニアでは特に父兄にも練習に参加してもらうように計る方がいいし、クラブのOB・OGの指導への参加は最重要課題だと思う。小学生のための中学生、中学生のための高校生等、一貫した指導の形態が模索されてもいい。クラブの交流が月に最低1～2回は欲しい。強いチームのプレーを観ることは優れた動機付けになるし、学ぶことか多いからだ。

高校生への指導：強くなりたい子供は強豪校への進学を選択する。そこで生じる流出問題を防ぎたい。そのための優れた指導者の養成が急がれるわけであるが、地域でも指導者の養成を計っていくことはできないか。

E 班［真鍋、宮崎、佐藤、石井、原田、福田］の発表

小学校～高校までの流れを総括すると、小学生は全国的には上の下といった所だと思う。しかし、人口の減少に伴うかのように、競技人口が減少してきている。福岡県の小学生の登録者数は800余人、これは熊本県2,000人の半分にも満たない。競技人口の拡大が急務なのではないか。このことの影響が中学にも波及するかどうかは目下の所必ずしも明白ではない。中学生は全国的には女子が上の上、男子が中の位置にあると評価できる



が、活動基盤となる部の数が少ない。指導者が少ないことが最大の原因になっている。次に問題なのは、指導力にレベル差があることで、これらが県外流出の直接的な原因になっている。高校生は男女ともに全国的に高い水準にある。中高一貫で育成できる九州国際付・自由が丘の二校の存在が大きい。周辺校もこの二校からの影響を受けている。まとめてみると、学校体育の中で競技力の向上を計るのは難しいということで、その影響が一番出るのが中学校だということになる。高校への選択的な進学を抱える中学段階からの流出問題は、たくさんの要因から生まれてくるものだ。深い洞察が必要になる。

F 班［堀、田中、Haendel Ling、小形、岡野］の発表



強化の必要条件の第1は指導者の優れた faculty（能力,才能,手腕）にある。指導力のない所では、練習量が強化を押し上げる要因にもならない。最悪の結果をもたらす構図は、“先輩”が“後輩”を教えるというパターンだ。この構図には怒りを感じざるを得ない。

小学生への指導：全国的には上級レベルにある。指導者のいる地域で、兄弟でバドミントンをやるケースと親が熱心なことが良い結果に繋がっている。バドミントンは手軽なスポーツと思われていて、底辺の広がりを得やすいことが幸いしているように思われる。

中学生への指導：部活のない中学が多いことが問題だ。特に筑後地区でこのことがいえる。保護者の大会への帯同が急にゼロ状態に近づく。思春期の問題、保護者の熱意の表し方、中体連の大会運営のルールと慣習など、バドミントン活動を取り巻く諸要素が大きく変化する。県のレベルを超えた教育行政とスポーツ行政のさらなる実質的な改革が望まれるのではないだろうか。

高校生への指導：中学に比して、さらに指導者の数は少なくなる。そのため、上記したマイナスの要因がバドミントン活動を制限してしまうケースが膨らんでいく。優れた指導力と感性を有する指導者をもっともっと養成していかなければならないと思う。

【3】 ブレーン・ストーミングの発表を終えて

□ 中学校の学制に起因する問題の難しさ

ポーターの'5つの力'モデルを提示し、小学校に始まる高校までのバドミントンの競技達成の勢いを河川の流れに例えて評価を試みた。上流・中流・下流のどこに流れを阻止する状況(律速段階)があるかを概観して、その要因を探ろうとしたわけである。しかし、福岡県がどの学校段階のバドミントンの競技力においても、総じて高いレベルにあることが確認され、強いて問題点を挙げれば、義務教育過程の最終段階にある中学校というものの現在的な状況が、目的的な指導活動を阻害する構図を持つことになっていることが誰の感情の中にもあることが知られた。この段階で義務教育が終わり、進学に限れば、公立・私立高校への自由選択が解放される機会を得る。このことは、私立の小学校、中学校といえども幸か不幸か義務教育制度枠の縛りが多く、一部の学校を除いては進路決定の登竜門として未だ明確な目的性を構築できないでいるので、喩え中学からバドミントン専攻の道が開かれていたとしても、少子時代の保護者がこの道を選択することをレアーなものにしている。したがって、どこの都道府県においても、中学校段階における選手の強化問題はほぼ条件的に等しく、公立中学校での指導の可能性を工夫して構築しなければならないわけで、十全な競技達成を果たすことは例外的な事例においてしか可能ではない。教員制度や教員の職務規程が変わらない限り、様々な縛りのある学校それ自体の中での変革は望めないのが現状である。ほぼ超法規的ともいえるような内部での理解の得られた学校で、エクストラ・カリキュラムとして学内的な合意を形成し、さらに目的に合わせて外部の指導者を導入する場合を除けば、学校制度の枠外で個人経営のクラブや教室のようなコースを設定していくしかない。しかし、それとて大会に参加するとなれば、やはり制度的な制限がかかってくる。バドミントンの競技的達成における中学校問題の難しさは、学校教育の制度自体の硬直性、歴史的・政治的背景、教員資格・同養成問題、我が国の伝統的なスポーツ構造等々、多様な要因によるものだけに、2020年の東京オリンピックのような国家的なプロジェクトの中で大きな改革の断行されることが望まれる。そして、今がそうした改革への声を上げていく重要な局面を迎えているのだと思われる。

□ 指導者の指導力を養成・保証していく問題

ポーターの'5つの力'モデルを切り口に2013年の福岡県のジュニア・クランプリの成績の総括を試みた。自己反省的な文脈を含めて福岡県の強化・指導体制についての、かなり突っ込んだ検討が行われた。しかし、それはジュニア・クランプリの勝ち負けの結果を制度的な要因に関して分析する、いわば一般論的な検討に終始するものに止まった。これは、本検討会を企画した講師陣の「プログラム計画」と「資料準備」の企画段階での未熟さに起因していると思われ、深く反省するところである。期待したのは、各学校段階で勝敗の結果から引き出せる技術・戦術的な課題をどこまで明晰に意識化できるか、つまり分析できるかということであった。これを上流→中流→下流へと繋ぐ時、どのような指導・強化の課題を抽出し、改善の方向を設定することができるか、それをどのように指導者間で共有できるか、そうした視点への視力を育成するトレーニングになることを期待していた。それなら、講師サイトで次の二つの要件を予め用意できていなければならなかった筈である。

1) 大会に参加された男女チームの監督・コーチ、及び帯同された関係者の参加
2) ゲームの録画、ゲームの経過記録、監督・コーチ報告などの資料

とりわけ、プレーヤー自身が何を感じ、何を考えたか。(この記録の大切さに気づき、その能力を育成していくことが、これからいよいよ重要になってくると思われる。)提供された資料が試合の結果だけでは、参加者にはいかんともしようがなかった、ということである。

『バドミントンの指導理論1』の「第7章 バドミントンの体力トレーニング」55頁にトレーニング課題がどこで発生し、どこで抽出されなければならないかが、チャート(流れ)として図示されている。**"競技のステージ"、"指導・育成のステージ"**の間に**"? のステージ"**というのがある。バドミントン・ディマンドが分析・評価され、抽出されるステージのことである。[分析・評価・検討]を経て[課題の抽出と整理]が行われ、これらを元に[活動計画]が練られ、[シナリオ]が描かれる。この流れを構成する要素は、全て言葉(理念、目標、原理、法則、方法、概念などの知識)とイメージ(経験の記憶)からなる。それらを選択し、創造しつつ、実行する。そのことを教授する場で、その要素を欠落させてしまったわけである。**「?」マーク**をつけたように、ここのところがどの段階にいる指導者にも未だ構築しきれていないのである。

今回の議論がこの段階をクリアしていて、「上流でこうした課題が残された」「中流でこうした課題が残された」そして「下流でこうした問題が発生していた」とする分析ができていれば、上流・中流・下流それぞれを双方向(⇄)で結ぶ指導課題を共有した指導サイクルを構成できたはずである。それが一貫指導体制の構築という意味であり、JOCが狙い、『BADMINTON ACTION PLAN2002』が指針を示し、『BADMINTON ACTION PLAN 2011』が実行したい大本のところであって、この種の視点からの分析能力、あるいはコミュニケーション能力の実現が、今バドミントン界全体に望まれている最大課題だったのである。



参考: マイケル・E・ポーター(Michael Eugene Porter1947年5月23日 -),ハーバード大学経営大学院教授。ミシガン州アナーバーにて生まれ。1969年にプリンストン大学航空宇宙機械工学科を卒業。高校時代にはアメリカンフットボールと野球で州代表に、大学時代にはゴルフで全米代表(NCAA)チームに選ばれる。1973年には、ハーバード大学大学院にて経済学博士号を取得。1982年には同学史上最年少の正教授となる。アメリカを中心に世界各地で多くの国や州の政府、および企業の戦略アドバイザーを務め、「5つの力」分析やバリュー・チェーンなど数多くの競争戦略手法を提唱した。(Wikipediaより引用)

平成24年シャトラーズ寄稿原稿

都道府県協会たより　福岡県

福岡県バドミントン協会
理事長　佐竹　養一

【組　織】 福岡県バドミントン協会は、25の市郡協会及び7つの連盟（小学生、中体連、高体連、学連、実業団、教職員、レディース）で構成されています。

社会人クラブ連盟については、現在、男女合わせて30チーム、約200人が登録され、年2回の団体リーグ戦を開催していますが、育成支援中であり、事業後援を行っているものの加盟するまでには至っておりません。

【登録状況】 登録は、個人登録だけを行っており、クラブ等の団体登録は、行っていません。23年度の登録者は、小学生904名、中学生1，696名、高校生2，364名、大学生304名、一般1，558名の合計6，826名となっています。この登録者数は、全国では11番目の規模であり、ジュニア登録者数も10番目の規模となっています。登録者数は、高校生を中心に年々増加の傾向にあり、この5年間で約2，000名の増となりました。
平成24年度は、7，500名を目標としています。

【全国大会等の開催状況】 ここ5年間では、平成19年度に全日本中学生選手権大会を福岡市で開催しました。線審として中学生の準3級公認審判員を約150名養成し、中学生でも立派に務めることができました。

平成21年度は、日本リーグの開幕戦を北九州市、全日本高等専門学校選手権大会を福岡市で開催しました。

平成22年度は、全日本シニア選手権大会を久留米市を中心に、県南地区7会場で開催しました。延べ4，559名の選手に参加していただきましたが、スタッフの数も半端ではなく、新調したスタッフウエアも800枚を超え、新規公認審判員資格取得者も300人を超えました。このことにより、地域の一体感が生まれるとともに、主管地区協会の組織力の向上も図れました。また、「ヨネックスドリームマッチ」を北九州市で開催し、イケシオ、スエマエ、田児選手等を迎えることができました。平日開催にもかかわらず、県外を含めて多くの観客が来場しました。さらに、「バドミントン日本リーグ2010　in　岡垣」を開催。特設のスタンドや畳席を設置し、全席指定で超満員にするなど、人口35，000人の町の底力を見ていただきました。



平成23年度は、東日本大震災復興支援チャリティーイベントを福岡市で開催。インドネシアからオリンピックチャンピオンのタウフィック・ヒダヤットを始め4名のメダリストが訪れ、妙技を見せてくれました。多くの義援金を、被災地に送ることができました。



今後は、24年度に全国高校選抜大会を北九州市で開催。さらに、25年度は、インターハイ（北九州市立総合体育館とメディアドームの2会場だけで開催）と日本スポーツマスターズ（北九州市市制施行50周年記念事業）を開催する予定です。

【選手の活躍】 個人の活躍も紹介したいのですが、今回は団体の紹介に止めます。平成19年度の若葉カップで岡垣ジュニア男子が優勝したのを皮切りに、福岡県の快進撃が始まりました。まず、同年度の全日本中学生選手権大会で準優勝。翌20年度の日本バドミントンジュニアグランプリ2008では、男子チームが見事に優勝。さらに国体少年男子でも優勝を飾りました。

また、全日本高等専門学校バドミントン選手権大会において、北九州工業高等専門学校男子チームが平成11年度から20年度まで10連覇、21年度は有明工業高等専門学校男子チームが優勝し、福岡県のチームとして11連覇したこともご紹介しておきます。





これらのジュニアの頑張りがレディースや社会人クラブにも影響を与えました。レディースにおいても強化練習会が始まり、全日本レディース選手権大会都道府県対抗戦において、21年度に初優勝、22年度は三位に終わるも、23年度は、2度目の優勝を飾りました。全日本社会人クラブ対抗でも、22年度に一般女子において福岡県のチームが優勝しています。

さらに、この原稿を作成している最中に嬉しい知らせが飛び込んできました。23年度全国高校選抜大会に於いて九州国際大学付属高校女子が見事に優勝を飾ったという報告です。現在、25年度に福岡で開催されるインターハイに向けた選手強化に取り組んでいますが、早速、この成果が表れたようです。24年度、そして25年度のインターハイがとても楽しみです。



【結　び】 福岡県からは、イケシオを始め多くのトッププレイヤーを輩出しています。現在も将来が楽しみなジュニアナショナル選手も在籍しています。これは、優れた指導者の力によるものだと思っています。福岡県の宝は、優れたジュニアの指導者です。これからも優秀な選手を輩出していただけると確信しています。

しかしながら、福岡県で育ち頭角を現した選手のほとんどが県外に流出しているのが実情です。流出の時期はどんどん早まり、今では中学入学時に及んでいます。

福岡県の一番の命題は、小中高一貫指導体制の早期確立です。大学入学で中央を目指すことは奨励するにしても、せめて高校までは県内に留まって欲しいと願うばかりです。

さらに、実業団など育った選手が地元に戻ってきて活躍できる場が少ないことも大きな課題となっています。

なにはともあれ、今年はオリンピックイヤーです。このたよりを皆さんがご覧になる時には、きっとイケシオのオリンピック出場が決まっていることと思います。この二人を含め、日本の選手がロンドンオリンピックでメダルを取ってくれることをみんなで期待しましょう。



～編集後記～

佐竹理事長から70年史編集と記念ビデオの制作を依頼されました。本格的に取り組みだしたのは、締め切りの1か月前でした。佐竹理事長の協力を得、仕事の合間に頂いたデータの編集をし、平成16年から制作している年報からデータ抜き出し、何とか体裁を整えていきました。同時並行でビデオの素材を見つけ出し、編集作業に徹しました。やってもやっても終わりの見えない作業でした。過去の資料を調べていくうちに、福岡県バドミントン界の素晴らしい栄光の歴史・活躍を発見することができました。

現在はバドミントン競技から遠のいていますが、今後も福岡県のバドミントン界を陰ながら応援していきたいと思います。このような機会を与えて頂き、佐竹理事長をはじめ協会関係者の方に御礼申し上げます。

平成30年3月17日

宮崎　和彦

福岡県バドミントン協会



創立70周年記念